

林道の突き当たりであって姿・形が美しい（朽木古屋の保谷）

世界の山旅 2009年度 カタログ発表

「一人ではいけない…でも行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

ネパール・ヒマラヤの山旅

ヒマラヤの山旅

2009年度
カタログ発表

■10月よりいよいよヒマラヤ・トレッキングのシーズンが到来いたします。毎年大好評の定番企画や新企画、10年ぶりの復活企画まで豊富なラインナップでヒマラヤの山旅をご紹介します。

ニュージーランドの山旅

人気の6コース先行発表

■深いフナの新緑、咲き乱れるお花、隣近に流る氷河など、豊かな自然が魅力のニュージーランド。9月上旬に発表予定のカタログに先行して6コースを発表。カタログをご請求ください。

「創業40周年記念特別企画」第一弾・完成
円高メリットで割安プライスを実現!

■エベレスト展望トレッキングとシェルパの星 10日間
10/30、11/6、11/13出発 ¥298,000 (大阪発着)

■ルートバーン・トラックとマウントクック 8日間
11/9出発 ¥436,000 (東京発着) ※大阪発着は別途料金あり

創業40周年を迎え、アルパインツアーの特別企画がついに完成!
この他にも多くのコースがございます。まずは専用カタログをご請求ください。

エベレスト山頂までの展望地クンボテへ

エベレスト・パノラマ トレッキング 13日間

出発日：10/15、10/22、10/29、11/5、11/12、11/19日
旅行代金：¥362,000 (大阪発着)

絶好の展望地ブーンヒルと温泉地タトパルへ

アンナプルナ・ダウラギリゆったり トレッキングとヒマラヤの温泉 12日間

出発日：10/20、10/27、11/3、11/10、12/8日
旅行代金：¥348,000 (大阪発着)

美しいフナの新緑と、季節に変わるマウントクックの風景を満喫

ミルフォード・トラックと マウントクック 11日間

出発日：11/28、12/9、12/18日
旅行代金：¥585,000～¥598,000 (2泊3食半室付)

花咲きの「アルプス5湖」で壮大な風景の中をハイキング

花咲く初夏のサザンアルプス・ パノラマ・ハイキング 8日間

出発日：11/22、12/6
旅行代金：¥435,000～¥438,000 (大阪発着)

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

自然豊かな古の道よりフランス人の道を経て現地へ

スペインの世界遺産 サンティアゴ・デ・コンポステーラの 巡礼路130kmを歩く 11日間

【KEP】大阪

出発日：9/21、10/9
旅行代金：¥524,000

秋のカナディアン・ロッキー
満喫ハイキング 8日間

【KEP】東京・大阪/東京国内線飛行機あり

出発日：9/17、9/25、9/29、10/5
旅行代金：¥372,000

世界遺産の道徳村と秀峰・四姑娘山を満喫

四姑娘山ハイキングと 九寨溝、黄龍 9日間

【KEP】大阪

出発日：9/16、10/14
旅行代金：¥326,000～¥338,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

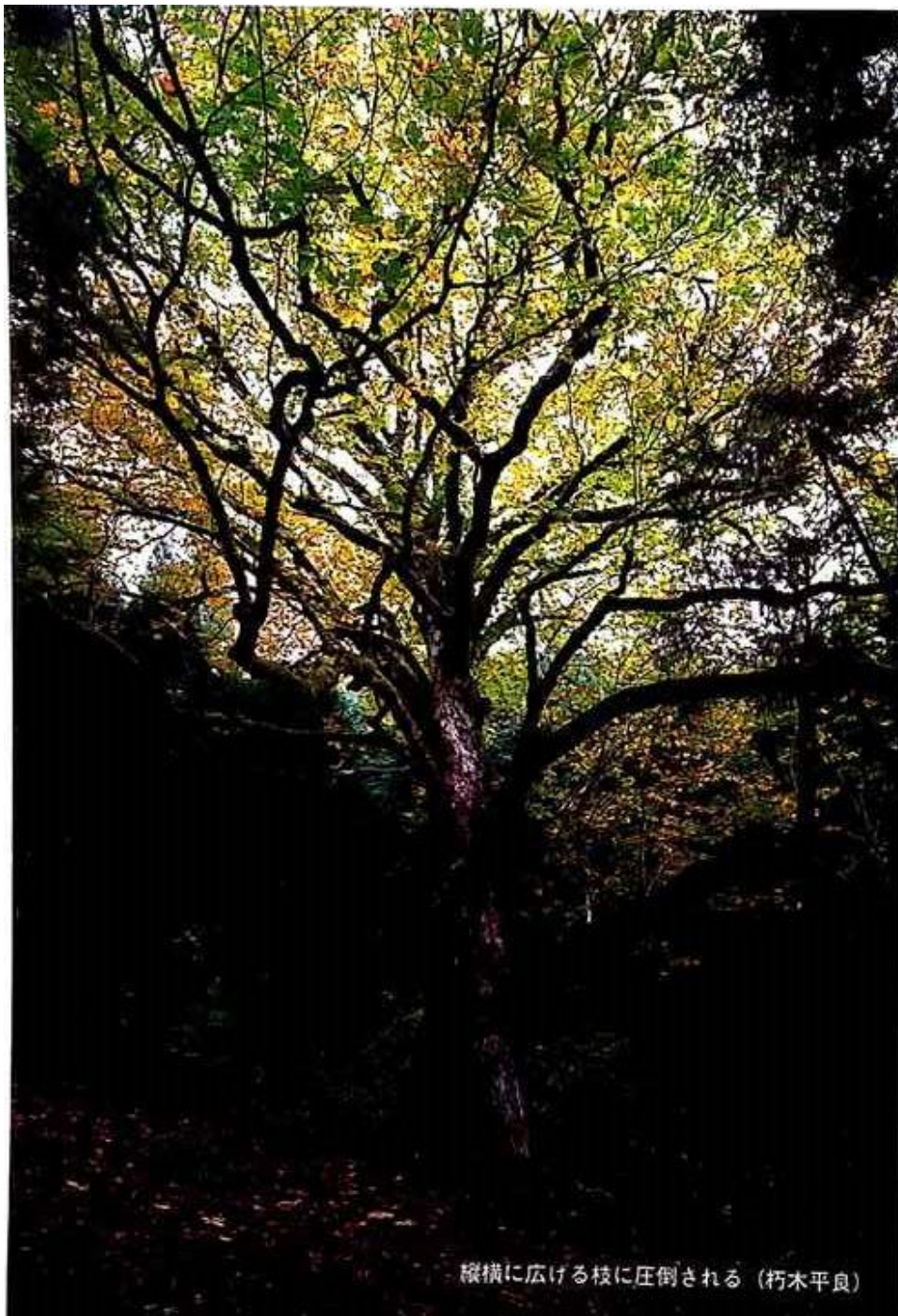
アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7108 仙台/☎022(265)4611(転送)
（関）りんゆう観光 広島/☎082(542)1600(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

40th Anniversary

たくさんのお客様に
支えられ
アルパインツアーは
創業40周年を
迎えることができました。
心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングの slides を上映します。



縦横に広げる枝に圧倒される (朽木平良)



根元が二つの幹に別れて貫縁を見せる (朽木雪洞谷の大谷)

近江の山

樹木の四季 — 初秋 —

山本 武人

朽木の山 「橋」

(高島市朽木)

旧朽木村 (現在は高島市朽木) は山国である。安曇川沿いの国道367号付近は広がっているが、それ以外は山と谷である。

その山中で谷間にある木は「橋」が多い。トチモチ谷と呼ばれる谷もある。どの谷に入ってもそこには樹齢数百年の橋の大木がある。

どれが一番、大木ともいえなほどりっぱな橋が多い。私のいまだ、知らない橋の木もあるだろう。

これからも朽木を歩いて橋の木に出合っ、その姿を撮影していきたいと思っている。



高野山 (御影堂)

草露白 (くさのつゆしろし)
 藤原宮 一面の花畑
 神話の世界に踏み込んだよう
 秋桜 あさぎくら コスモス
 花びらが整然と並ぶ cosmos
 倒れても立ち上がって花をつける
 高野山 樹々の深い緑 蒼い空
 巨大な榎が竹林のように並ぶ
 ゆるやかな屋根の勾配と深い軒
 五間四面の宝形造の優雅なお堂
 御影堂 空海の特仏堂 念誦堂
 椅子に坐す弘法大師像を祀る
 大自然大宇宙と人との融合と調和
 密教の教義を表現した立体曼荼羅
 法灯は消えることなく燃え続ける



本薬師寺付近

Photo essay

草露白



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一



藤原宮跡 (耳成山遠望)

季節の



秋滝



大音賀岳遠望

実景

和佐又山 (大峰)

撮影 武市通治

初秋



紅葉色つく



山道夕照



山道眺望



濁沢秋模様 (北アルプス) 今村 克美



鎌ヶ岳秋景 (鈴鹿・鎌尾根より) 稲垣 勝義



弥陀ヶ原の秋 (北アルプス・立山) 高岡 富美子



兼子池の朝 (北八ヶ岳) 松田 俊男

●表紙	晩秋の尾瀬ヶ原と至仏山 (尾瀬ヶ原) ……松田敏男
●口絵	近江の山・樹林の四季 ……山本武人
	Photo essay「草露白」 ……松永恵一
	季節の実景「和佐又山」 ……武市通治
	稲垣勝義・松田敏男・今村克美・高岡富美子
	初秋の高島トレイルを歩く ……奥田英一郎



タテヤマリンドウ (西村文男)



乗鞍岳付近よりの湖北



緑の風が吹き抜ける中を!!

これもフナ?

●特集	初秋に歩く山	編集室
	①駒ヶ岳・駒ヶ越	18
	②大黒山・栲坂	16
	③廣村八丁の峠道	14
	④	12
●紀行	やぶ山の焼山	山田 明男
	大井宿を歩く	国井 文男
	矢津・大河内・本郷各溪間山	藤本 伸人
	祇園殿から城山城跡	木村 太郎
	横洞丸・蛭ヶ岳・丹沢山	田中 明
	暗峠・鳴川峠・立石峠	小山 誠次
●連載紀行	標高による山の紹介 △△△の山	松田 敏男
	三角点を訪ねて・水無山から正産峰	磯部 純
	種国登山シリーズ・木浦市と備前山	吉見 英樹
	文学歴史ハイク・ゆばたまの黒髪山を訪ねて	松永 恵一
●研究	旗振り通信・旗振り通信の情報発信	柴田 昭彦
●レポート	山の地名を歩く「知床岳」	西尾 寿一
	無限江山・秋は高みからやってくる	村上 俊雄
●コースガイド	①寒風山から623	長瀬 清司
	②員吹山から益田岩船	藤本 伸人
	③夢見ヶ岳(曹山)から養笠山	松尾 一郎
●せせらぎ	会員募集・新入会員紹介	111
●サービステーション	原稿募集・編集後記	112
●山行計画・報告	広告索引	84

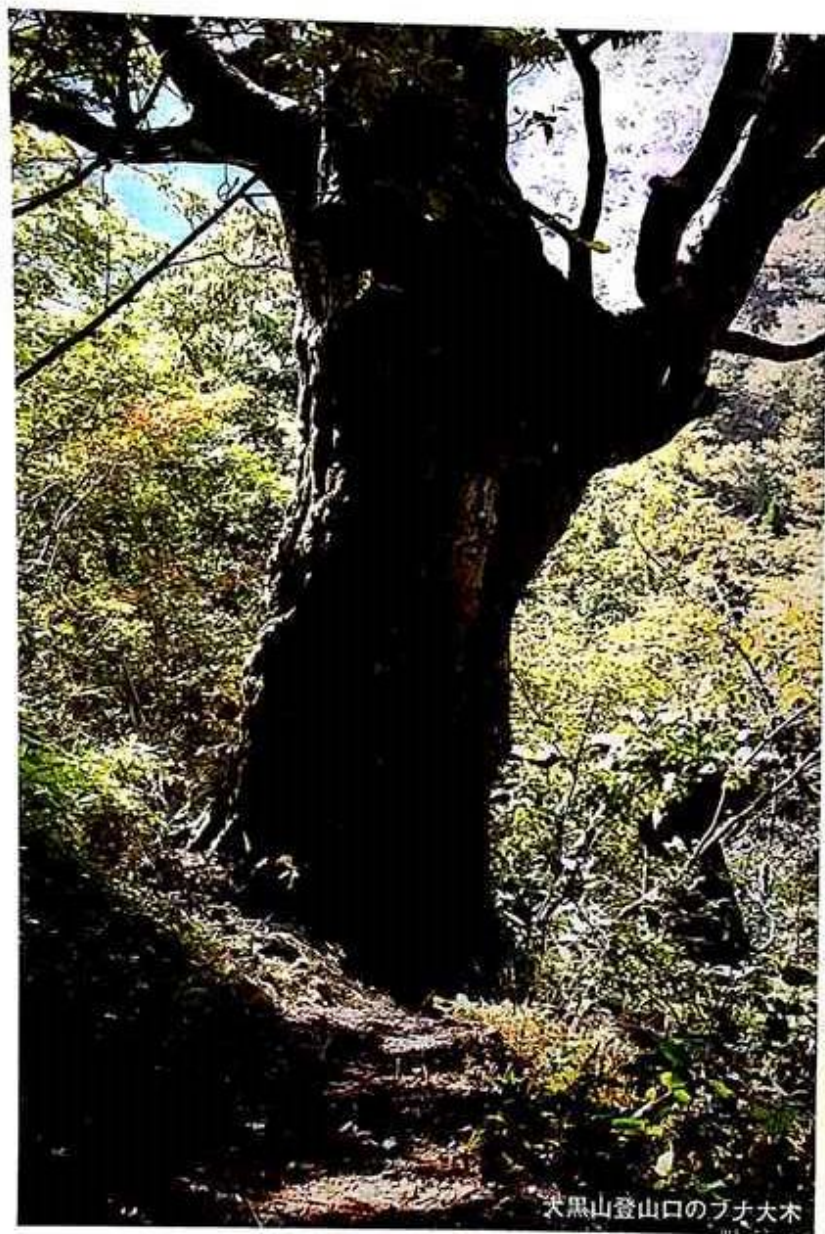
巻頭言

登山で苦しいのは急坂の登り。歩幅を狭くゆっくりペースで登っていくより、10分間で休んでいては登山にならない。少なくとも30分間は登り続ける体力と根性が要求される。

私は、腹式呼吸で一定のリズムを保ち、立ち上がったときにちよつと休んでから次のステップに移ることを助めている。ゆっくりに歩いてもガイドブックのコースタイムより遅れることはない。焦らずじっくりと構えることである。また、急坂をくだるときにもけつして速く歩かない。一歩一歩を慎重に運ぶことである。

新ハイ関西は、このようなゆっくり登山をお勧めする。登山ほど中高年の健康と体力維持に最適な趣味はない。関西の低山を歩くことでも医者要らずの人生が謳歌できる。高齢者の医療費負担が問題だが、ゆっくり登山で大福に軽減できよう。

新ハイキング関西 代表 村田野俊



大黒山登山口のフナ大木

特集

初秋に歩く山 3コース

— 編集室 —

- ① 駒ヶ岳・駒ヶ越 (湖西・高島トレイル)
- ② 大黒山・椿坂 (湖北・余呉トレイル)
- ③ 麩村八丁の峠道 (京都北山)



駒ヶ岳 山土の池

特集①

中央分水嶺の山と峠1

ブナの原生林に憩う

駒ヶ岳・駒ヶ越

中級コース(★★)

高島トレイルにはブナ林が各地にあるが、駒ヶ岳のブナ林のスケールは抜きん出ていて、原生林の面持ちで紅葉がことのほか印象深い。地元協議会のトレイル歩きでは横谷峠からスタートし駒ヶ岳へ登り、西尾根から木地山へくだることが多いが、登山口と下山口が違うのは一般的でない。

木地山から東尾根へ登り、西尾根をくだるコースを紹介しよう。

木地山の人が生活必需品を求めて熊川宿へ通ったという駒ヶ越の峠道は、焼尾東谷奥の合から先は急峻です。落ちたのか旧道は残っていない。山慣れた人はガリー状の小谷から小尾根に取り付いて登るが、手前の左岸支沢に入り、東尾根の支尾根に取り付く整備された道が一般的だ。

今回は、冬のスノーシュー登山によく使う焼尾谷に入ってすぐ左岸尾根に取り付く。谷にカツラの木が立っ

る場所からだ。林班境の切り開きは踏跡程度だが、地図を見て忠実に尾根を伝って登ると、独標519あたりから鬱蒼としたブナ林となる。いきなり駒ヶ岳ブナ林の核心に入り込んだようで感動的だ。ここからひと登りで、一般ルート分岐のすぐ東側の中央分水嶺に出る。

駒ヶ越、駒ヶ岳は左だが、右に進路をとって池へ向かう。ゆるやかな起伏を二度ほど上り下りすると到着する。名前は伝えられていないが、直径40センチもある立派な池だ。南側池畔のブナの木の下で昼食というのはいかたが、この池が琵琶湖の水源であることを確かめ、来た道を戻る。

先ほど登り着いた地点を過ぎ、ブナ林のプロムナードを進む。二人がかり、三人がかりの闊回りをもつ巨木が混じる森の中央分水嶺を歩く気分は最高だ。見上げると高い枝のあちこちで色づく様子もこの森ならではのものだ。やがて標識で駒ヶ越と知らされ、さ

らにひと登りすると駒ヶ岳山頂へ着く。高島トレイル最高峰三重嶽が、武奈ヶ嶽や三十三間山を従えて雄大な山岳風景を広げる。頂上から木地山峠側へ少し入った場所へ移動すると、こちらからは木立越しに小浜湾が思いもよらぬ近さで望め、海の風景を楽しむことができる。

道が細くなった中央分水嶺を進むとすぐに西尾根下降地点に着く。ここから西側の北谷流域一帯はスギの植林となり、その作業道がしばしば並走する

がすぐにブナ林に戻り、ブナの木平と呼ぶ憩い場に着く。名残を惜しみながらさらにくだると、やがてよく手入れされた個人山のスギ林となって焼尾谷へ下り立つ。谷道を進めばすぐに朝のカツラの木に出て、木地山は近い。

(植上)



- △コースタイム▽
木地山(10分)焼尾谷(1時間)焼尾谷左岸尾根独標519(1時間)中央分水嶺(15分)池(45分)駒ヶ越(20分)駒ヶ岳(20分)西尾根下降点(1時間10分)焼尾谷(20分)木地山
- △地形図▽2万5千〇古屋
- △問い合わせ先▽
高島トレイル運営協議会
☎0740-2216111



若狭湾を望む

特集②

中央分水嶺の山と峠2

壁のように立ちはだかる古名椿井嶺

だいこく やま つばき さか

大黒山・椿坂

健脚コース(★★★★★)

かつては椿坂峠一帯を椿井嶺と呼んでいたという。井伊彦根藩の領地になつて改名されたようだ。その険しさからして椿井嶺という古名が似つかわしい。また、敦賀の湊へ出入りする船の目印になつた山が大黒山であり、中央分水嶺尾根のすぐ上にそびえ立つ様は標高以上に迫力がある。

北国街道の難所であり、壁のように立ちはだかる椿井嶺にふさわしい登り方といえば、椿坂集落の北はずれへの

びる南尾根からということになる。余興川左岸側の採石場入口まで車道を入り、北はずれから送電線巡視路をたどる。すぐに尾根に取り付き、山腹の鉄塔へ立ち寄つた後は尾根へ出て、鉄塔が立つ△781・3ピークまで尾根通しで登る。

ここからしばらくは平坦な尾根道となるが、やがて巡視路は独標753手前で高時川支流鷺見川源流へくたつてゆく。当たり前だが巡視路は大黒山東

側を越える送電線の下に忠実に付けられていて、これをたどつても山頂へ行くことはできるが、登山としてはおもしろくない。ここは尾根伝いにやぶ漕ぎで登る。同じ考えの人がいるようで、ササの下には断続的に踏跡があり、いくつかの木にはテープも付けられている。登るほどに立派なブナ林となり、稜線の道に出合う。

この道も送電線巡視路であり、右に行くとき先の谷をまたぐ道と合わさり、さらに東へ稜線を進んで雌鳥谷へ下り半明集落跡の下流で県道へ出るが、左の大黒山山頂へ向かう。すぐに分岐となり、山頂への踏跡を往復する。三角点があるだけの静かな山頂(891.5)で、ブナの木立越しに中央分水嶺をのぞき見た後は三叉路まで戻る。

広い山頂ブナ林からしみ出す水場があり、ここで晒を調し、しばらく山腹の捲道を進み東尾根へ出て、椿坂峠へ尾根道をくだる。途中で敦賀湾から野坂岳、余興湖から竹生島の浮かぶ琵琶

湖が見える。くだるほどに急坂となるが、大きなブナの木まで来ると峠は近い。

椿坂峠の車道を横切り、荒れた別荘地へ入る。最初の分岐を左に行き尾根を越えて次の鞍部から自然林の中央分水嶺へ突入する。林床にササがあつて森に戻り切つていないいやな状態だ。すぐに余興側がスギ林となつて、踏跡程度の山道が断続的に続く。△559・3ピークあたりは二重山稜となつていて敦賀側の尾根を行く。尾根

が分かれて、分水嶺は余興側に左に折れるので注意したい。次第にササが深くなつて前に進むのが困難となり余興側へくだる。急斜面であり、小さな尾根を見つけて枝につかまりながら強引にくんだり、出発地点近くへ戻る。峠をはさんで両側の山並を歩く椿井嶺登山は楽ではないが、中央分水嶺はまもなくウッディバル余興を中心にした地元の人たちによって、余興トレイルとして整備されることになる。(標上)

大黒山付近図



コースタイム

椿坂集落北側採石場入口(1時間10分) 三角点781・3ピーク(5分) 巡視路分岐(1時間20分) 稜線(15分) 大黒山山頂(1時間) 椿坂峠(15分) 中央分水嶺(1時間30分) 下路分岐(40分) 椿坂集落北方採石場入口

(地形図) 2万5千1:1中河内 (問い合わせ先)

ウッディバル余興

☎0749-8614145



椿井嶺から野坂山地の山並

奥深い峠を越えて

廃村八丁の峠道

一般コース(★★★)

菅原(1時間20分)ダンノ峠(50分)四郎五郎峠(40分)八丁

② 小塩からソトバ峠

小塩からババ谷をつめ、衣懸坂への分岐を左にとってジグザグに登ればソトバ峠だ。峠までかなり登るが、あとはゆるくくだって八丁川と出合い、すぐに廃屋を見て、八丁にいたる。

▲コースタイム▼

小塩(1時間10分)衣懸坂分岐(50分)ソトバ峠(30分)八丁

③ 佐々里峠から品谷峠

マイカーで石室のある佐々里峠に行き、尾根道を西へ品谷山にたどろう。ダンノ峠との分岐ピークからまっすぐ品谷山を目指す。分岐からは気持ちのよい平坦道が続く、小1時間で品谷山へ到着する。品谷山は広々として南方には北山の峰々が展望できる。品谷峠にくだり、左(南)のスモモ谷に沿ってくだれば、八丁にいたる。

なお、品谷峠へは佐々里スキー場跡

① 菅原からダンノ峠・四郎五郎峠

一般的によく歩かれているコース。ダンノ峠を越えた湿原は広々として自然林が広がり、同志社大学の小屋がある。分岐をまっすぐ進めば、四郎五郎峠を越えて八丁にいたる一般ルート。分岐を左にとれば、刑部谷コースで滝を見て八丁にいたる。こちらは急坂のロープ場、谷を何度も渡渉する健脚ルートである。

▲コースタイム▼

八丁集落が完全に廃村となったのは、戦前の昭和16年である。冬の豪雪で孤立するなど、厳しい環境に耐え切れない人々が下りてしまったのだ。当時の八丁住民たちが生活道として通ったであろう峠道が周辺に多く残っている。これらの峠道をたどって廃村八丁を訪ねてみよう。

まず、八丁への峠道四つのコースを紹介し、私なりに工夫した例会コースを歩いてみよう。

から品谷をつめる古い峠道もあるが、今ではたどる人は少ない。

▲コースタイム▼

佐々里峠(50分)ダンノ峠分岐ピーク(40分)品谷山(20分)品谷峠(40分)八丁

④ コシキ峠・トラゴシ峠

距離が長く健脚向きといえよう。鴨瀬谷から八丁大道を伝い鴨瀬芦谷山へ登り、尾根道をコシキ峠に出る。トチヤナギ谷と八丁川の分岐にくだり、トチヤナギ谷をつめて行けばトラゴシ峠



にいたる。峠を下りれば八丁だ。トチヤナギ谷は渡渉箇所があるので足元に十分注意したい。

なお、コシキ峠へは、小塩から谷沿いに行くこともできる。

▲コースタイム▼

千谷口(30分)鴨瀬足谷山登山口(1時間10分)鴨瀬足谷山(30分)コシキ峠(1時間)トラゴシ峠(20分)八丁

新ハイ例会尾根コース

(10月25日実施予定)

貸切バスを利用して佐々里峠に行き、③のコースをとり、尾根道に入って品谷山を目指す。山頂で昼食後、品谷峠から八丁にくだる。あたりの山肌の紅葉は見事だろう。

昔、土蔵のあった広場で休憩後、奥の八丁川を渡って廃屋に出る。廃屋の前から衣懸坂への尾根道に取り付き、衣懸坂手前の分岐を左にとつて892のピークを越え、なおも尾根道を伝いダンノ峠を目指す。ダンノ峠からは一般道を菅原に下山する。

(村田)



八丁広場

例会山行記録

やぶ山の焼山

山田 明男

東濃

09年6月の例会で岐阜県東濃のやぶ山、焼山(1709.2m)を取り上げた。「岐阜百山」にも入っているし、「岐阜の山旅100コース」(風媒社)にも紹介されている。私は、岐阜百山を目指しているのでいつか予定に入れたと思うのだが、一般登山道は無い。やぶ山できつい山行になるだろうと予想された。

「岐阜の山旅100コース」には「岐阜県体育大会の山として切り開かれた」とあるが、いつの事かは記載がない。もう15年は経過しているのではないかと思われる。

状況が気にかかり、山行予定が雨天中止となった、5月16日に登山口へ行ってみた。

りて、奥へ、歩いて行ってみた。

インターネットで焼山を探すが、美濃焼山の記事は04年秋のものが一つしかない。新潟の焼山は多く見られるに、こちらは入る人が少ない。知り合いのS夫妻は「昨年の5月末に行ったが、ひどいやぶ山だった」と言った。

しばらく行くと別荘地があって二軒残されているが、ずいぶん昔に放棄されたようだ。20分程林道を行くとゲートがあり車は入れない。黒井沢駐車場からゲートまでの様子はネットの記事



焼山付近図

と全く同じだったので、ここで下見を終えた。その先もネットの記事と同じであろうと、想像がついた。

例会の募集定員は「10人程度」としたが3人キャンセルがあり、最終的には12人で行った。やぶ山で行けるかどうかかわからないのに、いつも多くの人に参加してくれてありがたい。例会で山頂に行けなかった山はこれまではない。その実績で来てくれるのだろう。

個人山行では過去に、日照岳・御前岳・烏帽子岳の三山に行ったが、山頂まで登れなかった。日照岳・御前岳にはその後、二度三度と登っていて、烏帽子岳は今年秋に再挑戦する予定である。

山行当日は早朝出発なので、関西からの3人は私の家で泊まった。8時25分、車で黒井沢から林道ゲート前まで入って歩き始めた。男女各6人でちょうどよい。男が少なく、先頭を交代するにも時間が長くなり、辛い。ゲートから少し入ると林道は崩れて

まだきれいな上手山峠の取付口道標



中央道中津川インターで降り、根ノ上高原への道から中津川市内に下り、川沿いの恵那山林道を走って上流の恵那山登山口「黒井沢」を目指す。

途中、ウェストン公園があり画像もあった。林道は10.7程で、車で30分はかかる細い道だった。小雨だが、駐車場には恵那山に向かう人であろう五台の車が残されていた。駐車場で車を降

いて車は通行できない。上手山峠まで残り四分の三の林道は山道といってもよいぐらいだ。ゲートから35分で峠に着いて休憩した。取付口に「焼山登山口」と書かれた札がまだきれいなまま残されている。植林作業小屋は残って

1659にピークより焼山(中央右)を望む





焼山の三角点

いるがとても使えない。

ここから頂上までは約3⁺だが、ほとんど切れ目なくササが続いている。最初の1⁺は傾斜がきつく、ササのトンネルをかくくぐるようにして歩く。先頭も交代して歩いた。一部、女の人にも先頭になってもらった。30分程で「山頂まで2・5⁺」の杭を見た。その後2⁺・1⁺の杭が見られた。

み、その後の下りでまた飲んだ。私も足が疲れて攀りそうな感じがしてきてたからである。帰りに先頭を交代して歩いた。少しばかり女性も先頭を行ってもらい、私がその後ろを歩いてリードした。経験がなければ難しいやぶ山は歩けない、少しだけでも経験してもらうことにしたのだ。

山頂より1⁺の杭の所までは登りも下りも同じくらいの時間がかかったが、その先は歩きやすくなって、少しばかり早めに戻れた。1659⁺のピークの所では方向が急に変わっていて、テープを見落としたこともわかった。この山はガスっていたら歩けない。初めてこの山は危険である。道がはつきり

ほぼ中間となる1659⁺のピークには峠から1時間15分で着いたが、それまで付けられていた赤やピンクのテープが消えたので、どこかでルートを外したようだ。焼山の山頂はここにきて、やっと見る事ができた。
この先はわりとアップダウンがなくなり、時間はたいしてかかりそうにも思えなかったが、実際は今まで以上にかかってしまった。2万5千分の地形図で尾根を確認し、目でも確認しようと西にルートをとってゆるい斜面を北西にくだる。尾根に入ればテープも現れ、鞍部にくだるが、踏跡ははつきりしていなかった。鞍部で少し休んでからササの斜面を登るが、ここから踏跡がはつきりしてきて歩きやすい。登り切ったピークに広場もあるのかと期待していたが、何も無くササが続いているだけだ。

山頂まで1⁺地点からは踏跡が薄く時間がかかった。なだらかな尾根と思っていたが、実際には小さなアップダウンがあり、尾根もゆるく曲がっているだけだ。
山頂まで1⁺地点からは踏跡が薄く時間がかかった。なだらかな尾根と思っていたが、実際には小さなアップダウンがあり、尾根もゆるく曲がっているだけだ。
山頂まで1⁺地点からは踏跡が薄く時間がかかった。なだらかな尾根と思っていたが、実際には小さなアップダウンがあり、尾根もゆるく曲がっているだけだ。

していたらさほど問題ないのだが、ガスっていたらササばかりのやぶ山は大変に危険である。1659⁺からは1時間かからず上手山峠に戻った。
峠に戻ったらNさんが、「足が痛い」と言う。スパッツを外して点検してみると、大きなダニが足首から少し上に喰い付いている。どうにもならないので、アルコールで少し酔わせて本人が引っぱって取ったが、頸から頭部は足に残ってしまった。下山後、外科で診てもらいより仕方ないが、普段見るダニと違って、10倍もある大きなダニだった。全長7〜8⁺。
ゲートに戻ってコーヒータイムの休憩後、解散して林道をくだった。黒井

いて方向を変えながら歩いた。山頂直下に着く前に12時を回ってしまい、あとひと息なのに最後の登りで時間がかった。急斜面にササが全面に生えて、体が思うように上がらない。ダウン寸前で、山頂に着いたら12時35分過ぎであった。先頭は山頂札には気づいたが、その手前の三角点は見なかった。三角点がササで隠されていたからで、後ろの人が見つけてくれた。
山頂は木々で囲まれて、見晴らしは良くなかったが、西方が少し見えていて、確認すればピーク二つ先のピラミッド型の山が、ここと同じく登山道の無いやぶ山のロクロ天井だとわかった。腹が空いたので11時頃におにぎりを食べたが、山頂で30分休憩してゆっくりと昼食をとった。食べ終わって、山頂札・三角点とロクロ天井を写真に撮る。
13時過ぎに下り始め、少しくだるとストップの音がした。誰かの足が攀ったらしい。薬を服用してもらい出発するが、私もピーク1659⁺で薬を飲

沢駐車場にはまだ多くの恵那山に登った人の車がある。我々が行った焼山よりも時間がかかるのだろう。
(平成21年6月7日歩く)

▲コースタイム▼

林道車止ゲート (35分) 上手山峠 (1時間15分) P1659⁺ (55分) 1⁺杭地点 (1時間25分) 焼山 (1時間10分) 1⁺杭地点 (35分) P1659⁺ (55分) 上手山峠 (30分) 林道車止ゲート
*休憩含む

△地形図V2万5千II美濃焼山

秘境ヒンドゥ・クシュの山と人

雁部貞夫著——バキスタン北西辺境を探る

菊判/四二二頁/七一四〇円(普及本)

著者の四十数年にわたるヒンドゥ・クシュ地域の秘法第一一九六六年に日本人として初めてバキスタン国からヒンドゥ・クシュの高峰群の登攀を試みた著者が、開業四十数年、約十五シーズンにわたり、谷、氷河、氷雪の峠、山々を探り歩いた貴重な体験を語り明かす。写真・図版多数掲載。

伊吹山案内 登山と山麓 ウオーキング

草川啓三著

AS判/一八四頁/一九九五円

意外に深い魅力をもつ伊吹山のすべてを紹介！百名山にも選ばれた花いっぱい伊吹山。バリエーションに富む登山コース案内のほか、周辺の山々や山麓の花、石仏、湧水を訪ねる散歩道、また山で暮らした人々の足跡を辿る歩き道とも紹介。カラー写真多数。

★表示の価格は5%税込みです

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161

中仙道トレイル④ 中山道広重美術館

おおいじゅく

大井宿を歩く

東濃

国井文男

出発の1週間程前に、大兄が新聞を渡してくれた。

見ると、地元新聞社主催による特集記事「中山道広重美術館開館六周年記念 木曾海道六拾九次之内・・・」と大きく見出しにある。

「中山道広重美術館」は恵那市にあり、これは暗に「ここにも立ち寄ったかどうか」という、大兄の提案なのだろうか？

行程を検討した結果、1日目の大井宿から中津川宿の行程を省いて列車移動にすれば、見学時間がつくれそうだ。

道中のよき思い出になればと考え、計画を変更した。



の何と甘味なことか。お茶でも一杯いいただきながら地元ならではの話を聞きたいと思ったが、おかみさんは奥から出てこない。糖分をとったおかげで疲れ切った体に元気が蘇る。

菓子屋を出て左右の店先を見ながら進むと中央通りに入る。通りを横切つてまっすぐ進むと、やがて阿木川に架かる大井橋を渡ることになる。橋の欄干には歌川広重の「木曾海道六十九次之内 大井」の浮世絵のレリーフがはめ込まれている。また、西行の「花無山の春の景色」という歌が刻み込まれている。

資料には大井橋を渡ってから大井宿があったとされている。大井宿は江戸からは46番目の宿場である。また、京へは四十七里の所にある。中仙道の旅人のほか、お伊勢参り・善光寺参りや尾張商人、尾張に向かう木曾の牛馬の荷などが通り、宿場の規模や繁栄は美濃16宿中では抜きん出ている。京からみて橋場・茶屋町・堅町・本町・横町

恵那大井宿の街に入ってきた。西行、坂を下りた後、中央自動車道のガードをくぐり、JR中央本線の踏切を渡る。国道からの道と合流するせい、車が盛んに走音を立てる。今まで静かな野道が続いたせい、かこの賑わいは別世界の感がある。

西行観水公園を右手に見ながら街なかへと歩を進める。五差路の交差点の歩道橋を越え、なおも東へ進み長島橋を渡ると、秋葉灯籠のある観音堂に突き当たる。左にとると今では商店街となっている狭い路地へと入って行く。

このあたりは和菓子屋が多い。恵那や中津川一帯の名物といえば「栗きんとん」である。路地入口の菓子屋に入り、ひとつ注文する。店のおかみさんがすこし退いた感じでやや驚いている。ふたりの体裁といえは、10月半ばと思えない暑さによる汗まみれのスポーツシャツ姿と十三時越え直後の疲れた顔。大兄は貴門様風の杖を所持し、考えてみればいかにも奇異であり無理もないか。それにしてもこの「栗きんとん」

という五町に分かれ、西の大井橋から東の高札場まで六丁(710)であった。

それぞれの町は、街道が直角に曲がるいわゆる枡形によって区切られている。この枡形は江戸幕府が防護のため各宿場に城下町の形態をとらせたということだ。この枡形が六ヶ所もあり、中仙道随一の整然とした町並を形成している。

恵那市教育委員会の資料によると、天保十四年(1843)の記録では、宿内には本陣や脇本陣、問屋のほか、旅館・茶屋・商売屋など家数110軒、人口466人とある。本陣、脇本陣は大名や公家の姫君が宿泊するにふさわしい立派な門構えと玄関を備え、書院付き上段間のある豪壮な建物であった。旅館は4軒あり、寺社などの参詣費用を積み立てる講の指定宿である講宿や近江商人の定宿も多くあった。旅館屋の中には門構えや式台、特別な客室のある大型の旅館もあり、旅人はかりでなく武士も利用したといわれている。

その他、草鞋、蓑、砂糖、餅、果物などを売る茶屋は8軒あり、市場町としても重要な位置づけとされていた。また、街道を往来する諸荷物を集積、中継するという役割もなっていた。この役割を果たす間屋は、本町に上下二つがあり、半月交代で宿役人が詰め、仕事を指図していた。

本陣手前の枳形を少し戻った所には大井村庄屋であった古山家があり、今では「ひし屋資料館」(恵那市文化財、平成9年指定)として、当時の大井宿の様子を詳しく紹介している。古山家は江戸時代に屋号を「菱屋」といい、酒造りをしてきた。そして享保年間から幕末まで約150年間、大井村の庄屋を務めた旧家であった。屋敷は間口一〇間半(約19.5m)・奥行三五間(約63m)の敷地の中に、一四畳・一〇畳・八畳の部屋など合計8室、それに土蔵をもち広大な建物であった。今の建物は明治初年に上宿より移築したもので、前面に太い格子をはめ、はねあげ式の大戸が付き、奥座敷には床の間・違い

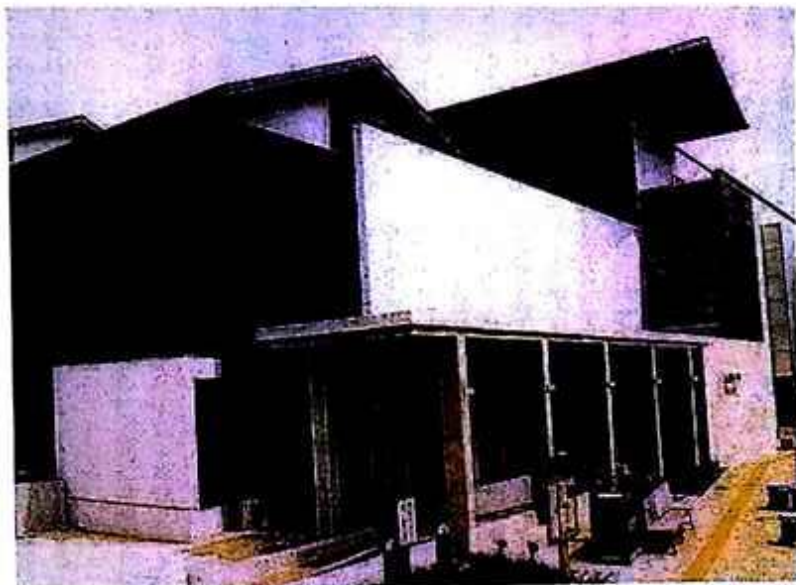
解体修理を進め、可能な限り建築当初の状態に近づけている。

京よりに戻った所には「中山道広重美術館」がある。JR恵那駅を南下すること徒歩3分という立地条件はよい。平成13年9月に開館し、美術館としては小ぶりではあるが、造形美溢れる現代的な建屋がひととき目を引く。

その内容は決して多目的でなく、浮世絵版面にスポットを当てた特色ある美術館として、今後も愛好家で賑わいそうだと。歌川広重の浮世絵を中心とした美術作品を展示・収集を目的とした「木曾海道六拾九次之内」をはじめ、その数は約500点、世界でも珍しくて貴重なものとされている。嚴重な保管にも定評があり、温度・湿度、先には最も注意を払い、貴重な美術品を保存するために収蔵室に1年以上保管することとされている。収蔵作品の多くは恵那市在住の収集家田中春雄氏から寄贈されたものである。また、版画芸術にも広く親しめるように講座やイベントが行われ、なかでも版画摺りが体験

棚・書院・入側廊下のある一〇畳二間が続き、江戸時代の雰囲気の色濃く残している。「中山道ひし屋資料館」は、この古山家住宅を改修・復元し、大井宿の町屋を体験してもらう施設として平成12年9月に開館した。建物そのものを最も重要な展示品ととらえ、整備にあたっては、過去の改築の痕跡などに注意を払いながら

中山道広重美術館



できるコーナーもあり、浮世絵の理解がより深められるよう工夫されている。このような活動を通して、中山道によってはくまされた文化や、地域の芸術文化の振興、まちづくり活動の推進を図っている。

「木曾海道六拾九次之内」は、天保五年(1834)に出版された広重の出世作である。彼の傑作のひとつ「東海道五十三次」の大好評に気をよくした版元の保永堂が、「東海道」と共に江戸と京都を結ぶもう一つの動脈であった「中山道」を題材にした連作の浮世絵版画を天保六年(1836)から出版開始した。

作品を紹介するにはまず漢英泉(1791-1848)を語らなければならぬ。英泉は江戸時代末期の人気浮世絵師である。作風は独自性の際立つ退廃的で妖艶な美人画で知られ、春画と好色本にも作品が多い。保永堂はまず英泉に作品を依頼した。英泉は風景画よりもむしろ人物描写に定評があり、人間くささを独特のタッチで描い

ている。

一方、「東海道五十三次」で一躍名を上げた歌川広重(1797-1858)は、江戸八重洲河岸の火消同心の安藤家に生まれる。幼名は徳太郎、長じて重右衛門、13歳で父を亡くしたため家督を継ぎ、その後27歳で同心の役職を退くまで画業と公務の両立を果たしている。安藤広重と紹介されることがあるが、画人としては、やはり名門歌川派の歌川広重とすべきだろう。

天保二年(1831)、葛飾北斎(72歳)が「富嶽三十六景」を発売した時と同じく、広重(35歳)は「東都名所」を発表し、風景画家としての評価を受ける。翌三年、幕府の八朔の御馬進献の儀式因調整のため、その行列に参加して上洛。東海道を往復した際にその印象を写生し、翌年シリーズとして発表する「東海道五十三次」に生かした。広重の作風は人物中心の英泉と違い、風景描写に重点を置き人物は点描として扱い、全体の構図をまとめ上げてい



【木曾海道六拾九次之内 大井】(中山道広重美術館蔵)

英泉も広重も「木曾海道六拾九次之内」を描くにあたっては、実際に「木曾海道」を歩いてスケッチしたわけではない。広重にはそれがかえって幸いし、イメージを膨らませ、自由な画風を醸しだしている。「大井」では山も木も野原も一面に雪で覆われた風景を背景に「甚平坂」を馬子に曳かれ膝下まで没しながら人も馬もうつむいて寒さに耐えて歩いている様子が描かれている。実に幻想的で広重の作品の中でも名作の一つである。

英泉が細かく表現する写実派であるのに対し、広重は想像を巧みに取り入れ表現する印象派とでもいえよう。

いない。その代わりを広重が引き継いで描いている。結果、英泉が24回に対し広重は46回描いている。なぜ途中で

広重が描くようになったのか？
売れ行き不振、版元が途中で鶴樹堂に代わり、広重を起用することにより、版元と英泉との確執が深まったなど、いろいろな説があるが、どれも確証がなく依然としてなぞである。
(平成19年10月12日歩く)

▲コースタイム▼

西行観水公園(25分)観音堂(15分)大井橋(10分)本陣跡

▲地形図▼2万5千：恵那

▲参考文献▼

「中山道風の旅 落合一京都編」(テレビ埼玉・群馬テレビ編集、さきたま出版会)

「恵那の中山道かたりべの小箱」恵那市教育委員会

(問い合わせ先)

中山道広重美術館

☎0573(20)0522

中山道ひし屋資料館

☎0573(20)3266

紀行

浅間信仰の山を歩く3

やづ おかわち ほんこう せんげん
矢津・大河内・本郷各浅間山

中 勢

薮木 伸 人

私の家からそう遠くない、松阪市内の浅間山を三つ紹介したい。矢津浅間山は標高150m程の小山だが、山上の大岩から眺める里山の景色は、なかなかよいものである。矢津町在住の親類に案内を頼んで、これまで二回登っている。

大河内小学校の裏山に当たるが、伊勢自動車道が東西に分断している。そのため一度目は歩道橋で越え、二度目は隧道をくぐって行った。伊勢道が出来て一時は里に下りてくるのが少なくなった猿や猪が、最近またよく来るようになったようだ。道々、猪が土を掘った痕を見かけた。

矢津浅間山 点名「北矢津」



二度目の、冬に登った折には、山道が落ち葉に埋もれていた。昔は焚きつけにするために取り合いになったほどだそうだが、今では拾う人もなく積もる一方である。南面に不動明王の祀られた大岩からは、白猪山、堀坂山が望め、その間の谷の深さが実感できる。大岩を抱いて進むと、今でも年毎に奉納されている竹が天を指している。その先には四等三角点「北矢津」の標石があり、こちらからは、松阪城趾



大河内浅間山より観音岳

大河内浅間山は、山頂に四等三角点や石像、石の祠が残っているもの、車道（私道）によって元々の登拝路は寸断されてしまった。山を崩して土砂を採取している様子が、遠目にもはっきりわかる。矢津の人の話では、中部国際空港の埋立地に使われる予定だったが、計画が変わり羽田にまで運んでいるそうだ。

初めは登路がわからなかったのですが、根本峠まで行き、広い路側帯に駐車した。浅間山の方に続いている車道を

上ってみる。工事関係者にひと言断ってから車道終点を右に廻り込むと、平削いの養鶏場になっている。そこからいちばん高い所に登りつめると、先述の浅間祠や三角点を見つけることができた。

おそらくひと昔前は、あまり展望の無い山頂だったのだらうと思われるが、皮肉なことに山が切り崩されたために、見晴らしが良くなっている。白猪山、堀坂山、観音岳の山並や麓の集落、田畑がよく見える。青竹をかつぎ上げる神事は、この山ではもう行われていないのかもしれない。祠から麓へ続いていたであろう山道を少しくだると、切り通しの崖の上に出たので、山腹を右へ廻って元の工事現場に下り立った。

（平成18年8月29日歩く）

▲コースタイム▼
根本峠（25分）大河内浅間山三角点（20分）根本峠

▲地形図V2万5千：大河内

大河内から射和、相可方面に向かう時に通る根本峠を越えて櫛田川左岸に出ると、目の前に形のよい小山が見えているので、いつか登りたいと思っていた。

地形図を見ると、三角点も無く山名も無かったが、現地に行き、畑に出たおられた男性に尋ねて「浅間山」とわかった。さらに話を聞けば、道は荒れているかもしれないが、幣を上げる神事が続いているとのことだった。

心強く思っ川沿いの道を進む。山際に立つ天満宮の鳥居から上に石段が続いていたが、駐車場所が無いのでさらに進み、西光寺の駐車場に停めさせてもらった。ここから大明神山を望むことができる。

寺の中を通って山道に入るのだが、初めてだったのでそうとは知らずにいったん川沿いの車道へ出てから、寺の東側を上り始めた。道沿いに行くと、左に炭焼き窯跡らしい石積みを見る。谷間は水田跡だろうか。

山道らしくなり、右手に大岩を見て



矢津浅間山 行者祠

（四五百年の暮）や市街の大きな建物が目視できる。かつて松阪港での打ち上げ花火もよく見えたらしい。

帰りは大岩下部に廻り、役行者像を拝んでから、南西に山道を開く。麓の八雲八柱神社に参った後、これだけは歩き足りない、伊勢道橋脚下を経て大河内城跡へ向かった。

戦国時代、圧倒的な兵力の織田信長軍が攻め落とせなかった、国司北畠氏の城跡である。

親類の話によると、伊勢道を隔てた西の山中に寺があ

あつて、城と橋で結ばれていたのだそうだ。発掘調査によって橋の遺構が見つかっているらしい。

ひと昔前まで、矢津の人たちが大河内（広阪）へ買い物に通っていたという山裾の道を進むと、左に城跡の石垣が現れた。

本丸跡は案外広いのだが、林に囲まれているため展望には恵まれていない。北畠×織田合戦四百年記念碑が立っている。まむし谷を越えた標高109.7mの西ノ丸跡には、護国神社がある。

大河内城跡の山は、50年前には狐もまだ多くいて、子供たちがその巣穴を広げて遊んだそうである。そういえば私も、子供の頃、コンクリートによる護岸工事などされていなかった近所の川の土手で穴を掘って遊んだものだ。昔は、ちよつと危ないが魅力的な遊び場所が今より多かった気がする。

（平成18年8月26日、同21年1月3日歩く）

▲コースタイム▼
大河内小前（20分）矢津浅間山三角点

紀行

越部古道を歩く

祇園嶽から城山城跡

木村 太郎

播磨

「播磨風土記」の掛保の郡、越部の里条に「欄坐山」の記事があり、山に坐す石が欄に似る山名由来を伝えている。

この山は、中世の歌人藤原俊成が荘園を構えた越部の里（竜野市新宮町市野保）の祇園嶽を指しているという。

「千載和歌集」の撰者藤原俊成の子に、嵐山の小倉山で「百人一首」を編んだ藤原定家がいる。定家の姪には、晩年越部の里に住んだ薄幸の歌人、越部禪尼がいる。

中世歌人たちゆかりの土地、石棚で形づけられた岩峰の山、いくつかのキーワードに興味をひかれ、JR姫新線播磨新宮駅へ足を運んだ。



本郷浅間山山頂 浅間社

左の山腹をジグザグに登って行く。一時、右（東）がクヌギやコナラの疎林となり、日当たり良好で汗ばむほどだ。落葉樹越しでも展望は良くならず、西側も、大明神や堀坂山が何とか視認できる程度だった。

やがて、右後方にくだる尾根にのる。落ち葉で滑りやすいが不明瞭な道では

なかつた。最後のひと登りが少し急だ。山頂の奥には小さな社があり、その前木の間に幣を付けた竹が括り付けられている。役目を終えた竹も10本ばかり寝かせてあった。

社の右に石窟があり、中には二体の石像が前後に並んでいる。ヤマモモの大樹の陰から獅子ヶ岳や神岳がからうじて望める。北側の木がもつとまばらなら、海まで見えるだろうに。

登頂プレートに記された山名は「本郷浅間山」だった。下山後、西光寺境内を通してもらったら、山側に行者さんの石窟があった。車での帰り道、根木峠道への合流地点（地形図中の65㍓標高点）あたりから見た本郷浅間山は、いかにも神奈備山然とした姿に見えた。

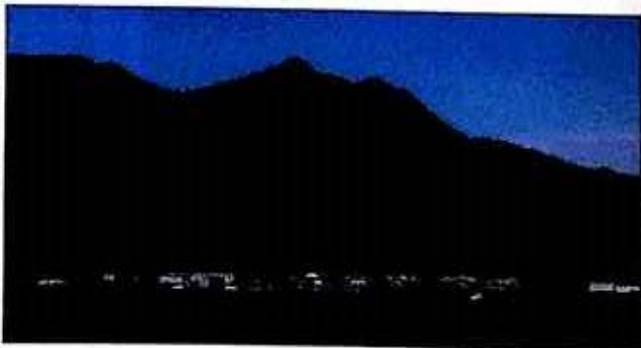
（平成21年1月6日歩く）

根木峠下より見た本郷浅間山



△コースタイム△
西光寺（30分）本郷浅間山（25分）西光寺
△地形図V2万5千△松阪

栗栖川西岸より祇園嶽



駅前から西方を眺めると、小高い西山公園の上に新宮町のシンボル、銅板製の配水池塔が見えている。配水池塔を目当てに新宮駅前の国道を横切り、小道に入れば栗栖川東岸に突き当た

る。川沿いを南へ進み、西光橋を対岸に渡れば道標が立つ。右は西山公園の重岩を、左は城山城跡を指している。川の緑地でサギが群れている長閑な風景を横目に、栗栖川西岸沿いを城山城跡方向へ曲る。稲穂が実る田圃の片隅で、新宮高と龍野北高統合による新校舎が建設工事中である。サギが飛ぶ田圃地の先に、新宮から竜野にかけての山並が屏風を立てている。

夕立の雲間の日かげ晴れそめて

山のこなたを渡る白鷺

『玉葉和歌集』には、藤原定家の印象鮮明な白鷺を詠んだ叙景歌が載る。サギに関する山名として、『播磨風土記』の越部の里条に「鷺住山」の記事もある。越部の里一帯は、昔からサギが多く棲む土地のようである。緑の山並の一角に、鋭い三角を尖らせたような岩の鋭さを纏った峰が見える。

その鋭峰を祇園嶽だと確信し、山を目指して田圃を通り抜け、車道に出る。道端に「越部里条」石碑が立つが、越部の里の旧名は皇子代の里という。安

ている。橋が果実をつける荘園の片隅でうたた寝をしながら、小袖を着飾っていた娘時代の華やかな都の夢を見ていたと詠まれている。

藤原俊成には3人の子があり、越部の荘園を三分割して、五条上（長女）、成家（長男）、定家（次男）に譲った。五条上に娘が生まれ成人して他家へ嫁ぐが、政変で夫と離別し、子供も早世したので、五条上娘は越部荘園に隠棲して越部禪尼と呼ばれた。建長六年（1254）この地で命を終えたという。

てんかさま祠から越部八幡神社の通りに引き返し、集落の道を南進して竹やぶを抜ければ、山根川に沿う小道に出合う。水無し川だが雨後には大水が出るのか、コンクリートで護岸されている。山の裾野を横目で見て、荒草が茂る谷の小道を行けば、「通り抜け不能」と書かれた立看板で行き止り、石橋を対岸に渡る。

石橋の傍らには、水布弥口と祇園嶽を矢印で結ぶ道標が立ち、先ほど開い

閑天皇の御代、寵愛をうけた但馬君小津が皇子代君となり、三宅（定倉）がつくられて皇子代の地名が付いた。その後で但馬の部民が越してきて、越部の里になったと風土記は言及している。

「城山城周辺史跡案内図」の大看板を見て車道を離れ、市野保集落の車道に入る。火の見櫓が立つ辻で地元の人に出会ったので、祇園嶽の登山口を尋ねた。自分も好きで山を歩くという男性は、水布弥登山口への道順だけでなく、荒れている水布弥谷登山道の様子まで話してくれた。

観光用の道標を手掛かりにして、祇園嶽山麓に建つ越部八幡神社へ立ち寄る。承平二年（932）に播磨国司の藤原村雄が創建、神功皇后ほかを祭神としているが、境内社に水布弥（祇園）神社を合祀する。水布弥神社は江戸時代頃まで祇園嶽の頂上に置かれていたが、現在は越部八幡神社に遷座する。神社の氏子は、市野保・段の上・井野原の三集落にまたがるが、それらを

た登山口に入る。林のなかに入りすくに、尾根に取り付く道標があり、疎林の急坂と向い合う。踏跡を隠す羊歯類をストックでかき分け前進する。

踏跡を探して谷沿いの尾根を登って行く途中、背丈を越す荒草の茂る場所に出た。「水布弥谷は歩道が何ヶ所か崩落し通行困難なので谷道へ入らず、尾根通しに進路をとること、尾根の頭に出る手前で祇園嶽に通じる道に出合う」と、言っていた分岐点に出たようである。

尾根を見上げると、樹木に赤いリボンが付けてある。荒草に覆われた右手の谷道を見送り、迷うことなく水布弥谷南尾根へ突き進んだ。尾根を捲くゆるやかな谷道と違い、尾根道は急斜面で歩きにくい。樹木が折れ曲がり茨や棘の付いた枝木もあり、簡単には登らせてくれない。

雑木から松が主体の道になり、次々に露岩が現れる。道を踏みはずしようのないやせ尾根で、登高するにつれ振り返れば、新宮の町と田園風景が視界

合わせて越部の里と呼ばれている。神社からさらに山麓奥に向かつて、山根川の石橋を渡り、定家の姪である越部禪尼の墓、知恵の神様と近在で信仰されている「てんかさま」へ歩く。

橋のほふあたりのうたた寝は夢もむかしの袖の香ぞする
てんかさま祠そばには「新古今和歌集」の越部禪尼の歌碑と説明板が立つ

「てんかさま」祠と越部禪尼墓



に広がる。特異な祇園嶽の岩峰が視線の右手前方に見えだし、滑り落ちそうな露岩地帯を四つん這いになって登る。

左手前方に他から派生した尾根の高まりが見え、尾根の頭が近づいた。登高時に見えていた祇園嶽の岩峰が視界の後方に去り、尾根真ん中を大岩が塞いでいる。その岩場を右に捲いていると、リボンを吊るし急降下している山道が谷側に現れた。

樹間に張ったロープにすがり、少し後戻りをさせる角度で急坂をくだる。尾根中腹の山道に合流し、祇園嶽の鞍部に当たる十字路にたどり着く。十字路の右手は水布弥谷、左手は祇園嶽の背面を市野保から廻り込んでいる縮手谷で、祇園嶽への道標が直進を表示する。

祇園嶽南面の道を登ると、雑木の道に露岩が出てくる。露岩を乗り越え、城山の出城道標を見送り、祇園嶽（340.4m）三等三角点へ走る。山頂の狭い台地には、頭部の水の字が欠け

た「布弥神社跡地」の石碑が立つ。山頂から身を乗り出し、岩壁下の森をこわこわ覗いた。

新宮の町と田園は言うに及ばず、南東には播磨灘、北東には飾磨や六粟周辺の山々が見えている。山頂の眺めは高山と遜色なく秀逸なものだが、祇園嶽頂上は高くない山の宿命で、真夏の太陽が照りつける。

来た道を少し引き返し、尾根の頭を捲いて進めば三叉路の平地に出る。尾根の頭を跨ぐ道を背に、城山城跡への



祇園嶽・城山城跡付近図

道に折れ曲る。山肌が崩れている登りと、山道にありがちなアップダウンを繰り返して、姥塚古墳がある大手道登山口へつながる馬立分岐に着く。亀山への登り道となり、途中で亀池へ寄り道をした。亀池は山中の溜池と思えない神秘的なたたずまいを感じさせた。道標は井関神社奥宮と中垣内へ導くが、亀山への道にとって返し、つじ尾根を進み、切株を椅子にした展望休憩所へ進む。

展望休憩所には「越部古道散策マップ」

気を開けた前方に、いくつかのピークを越えたその果てに、見覚えのある鉄塔が立つの場山が見えた。
真夏並みの強烈な太陽が照りつける縦走路、樹木のない稜線を的場山、さらにJR本竜野駅までの長い行程を歩く自信はない。掛保川を眺めながらの絶景の道であっても、体力が落ちた今の自分が歩くには荷が重い。



亀山(城山)山頂

城山城跡に引き返し、下野田へ通じる兵糧道と呼ばれる谷沿いを出る。下山の途中で見張り岩に出る。血なまぐさい戦乱の世が遠い昔のように、見下ろす播州平野は平和な風景画を広げている。穏やかに過ぎていく時の流れの中で、持参した最後のペットボトルのお茶の栓を開けた。

栗栖川にかかる下野田橋へ下り着く。朝はサギが飛んでいた川の緑地に、季節なのかもうトンボが群れている。そういえば竜野は童謡の里、「赤とんぼ」を作詞した詩人三木露風を生んでいる。

掛保川は東十里よ忘れぬ
堤に沿ひし萱葺の家
三木露風が処女詩歌集「夏姫」に所収した歌である。北原白秋と白露時代を築いた露風の故郷の歌を思い出し、船渡の交差点を渡り掛保川を目指して東へ歩く。

鶴崎山が前方に見える掛保川岸が近づいて、振り返れば新竜アルプスの緑色の山並が美しい。鶴龍山が頭部で

「ブ」の案内板が立ち、新宮の祇園嶽から竜野的場山までの縦走路を記し、「新竜アルプス」の名で紹介している。越部古道は一部、近畿自然歩道に編入されている。

亀山(城山)には、四等三角点と標高458.8と記した山名板が立つ。地元で新竜アルプスと呼ぶ稜線上の最高点である。山城の門礎石や石塁を示した標識を見送り、亀山からさらに南へ進路をとり、三基墓と呼ぶ城山城跡に出る。山城は室町時代に赤松一族の手により築城されたが、足利幕府軍との嘉吉の乱(1441)で落城したとい

う。
薄暗い杉木立のなかに、城山城の説明板と乱の戦死者を弔う供養塔が立ち、的場山道標を置く。的場山は以前、「ファミリーハイック」の例会で登っており、白鷺山、的場山、鶴龍山(龍野城跡)へとめぐり、帰路に龍野城下を散策したのが懐かしい。

想い出に誘われて少しだけ、城山城跡から縦走路を進んでみた。視界が一場山と亀山を身体に見立てた寂寂と呼ぶ姿である。

掛保川の川岸に磨崖仏群がある。崎崎西詰から鶴崎山登山口の古宮天満宮がある橋東詰に渡る。すれ違った人に駅へ出る道を探ねて、線路のそばに播州素麺の倉庫が並ぶ東勢崎駅にたどり着いた。(平成20年9月9日歩く)

《コースタイム》

- JR播磨新宮駅(10分)西光橋(30分)
- 越部八幡神社(10分)てんかさま祠(10分)水布弥登山口(55分)十字路(10分)祇園嶽(35分)馬立分岐(10分)亀池(10分)展望休憩所(20分)亀山(10分)城山城跡(的場山展望地往復15分)城山城跡(10分)見張り岩(35分)下野田橋(30分)勢崎橋西詰(15分)JR東勢崎駅
- △地形図V2万5千1安志・龍野

新ハイ関西 108号
標高△△08mの山

- 大川入山 (1908m) 南信州
- ハライド (908m) 鈴鹿山脈
- 小日向山 (1908m) 北アルプス

大川入山

この山の名を知らない頃、「南信州にある1900以上の山」と聞いても皆目見当がつかなかった。私の頭の中では、図体の大きい恵那山が長野県最南端の山としてピリオドが打たれていた。その南にまだ長野県が存在し、ましてや1900以上の山があると知って、知識の空白地域を発見したことは喜びであった。

三宅さんとふたりで信州から三河へ抜ける国道153号にある治部坂峠へ

向かう。中央道の恵那山トンネルをいったん信州に抜け、そのあと国道を南進して行くこと自体、不思議な気持ちを感じた。

治部坂峠奥の登山口でテント泊した。急な登りをしばらくこなせば、あとは歩きやすい道になった。大川入山の優しい姿が早くから望まれ、とてもいい山にきたという喜びが湧いてきた。ササ原の優美なスロープを登るにつれ、遠くに南アルプスの雪の白い山並も見渡せ、気分の高揚する道だった。

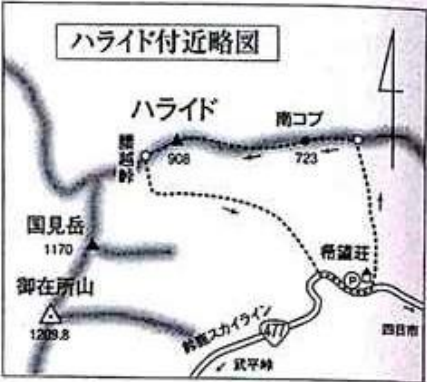
次の日は向かい側に見えている蛇峠山に登ったが、車道にゲートがあ

ハライド

この山を知ったのは、西尾寿一著の「鈴鹿の山と谷」だった。表紙写真の御在所山と鎌ヶ岳の姿が新鮮で、それが南コブという地点からの展望と書かれており、その記述を読んで本を買うことにした。

時高さんと西村さんの3人で鈴鹿スカイライン(国道477号)を湯ノ山温泉分岐を通り過ぎ、登山口の希望荘の前まで行く。

井戸谷に沿った東海自然歩道を風越峠へと登った。峠は主稜線の国見岳の



ハライドより御在所山と鎌ヶ岳 (左奥)

少し北から東へのびる長い尾根の一角だ。この峠から展望の尾根歩きが始まるかと思うと期待が一気に高まった。

自然林のなかに花崗岩が点在し、ザレ場が明るいアクセントとなっている。尾根は、予想通りすばらしい所だった。御在所山がキリリと引き締まった姿で近くに見えるのが新鮮だった。左には鋭い鎌ヶ岳、右には優美な釈迦ヶ岳と、雄大な展望に恵まれた。細かな登り下りの繰り返し、ザレ場のトラバースや岩場の登下降などで緊張する所があったり、ブナ混交林の穏やかな樹林のなかに入ったりと変化に富んでいた。

山頂は一層主稜に近づき、迫力ある展望が楽しめた。腰越峠へザレ場を一気にくだった。腰越峠からは岳参道を希望荘へと向かった。

(平成10年10月25日歩く)

《コースタイム》
希望荘(4時間30分) 風越峠、南コブを経てハライド(1時間30分) 腰越峠を経て希望荘

△地図▽昭文社「御在所・霊山・伊吹」

小日向山

小日向山は、鍾温泉へ登る道を行き、温泉手前の鞍部から少し東に登った小さな円峰だ。しかし、そんな見過ごしそうな山も積雪期であれば登りこたえがあるだろうと、時高さんが計画して5人で行った。

猿倉より1時間30分登った標高1500以上の付近の雪の上にテントを張り、小日向山を往復した。

双子尾根を登って杓子岳に行く登山者や小日向山までポードを担いで一気に滑り降りるグループなどで、たいそう賑やかな山だった。

曇ひとつない完璧な快晴で、白馬岳の豪快な雪の姿がたいへん美しかった。

(平成20年5月3日歩く)

《コースタイム》
猿倉(3時間) 小日向山(1時間30分)

△地図▽昭文社「白馬岳」

丹沢主稜縦走から三ツ峰コース

ひのきばらまる ひる

たけ たんざわ

檜洞丸・蛭ヶ岳・丹沢山

関東

田中 明

ツツジ新道展望園地から富士山



丹沢山塊は、最高峰の蛭ヶ岳でも1673と中級山岳である。山域は東西40、南北20に及び、神奈川県西部に広がる。地形の複雑さもさることながら、関東方面の登山者には人気の山域といえるようだ。

この山域を気にするようになったのは、まるで船名のような檜洞丸を見てからで、以前、大倉から塔ノ岳、丹沢山へ登ってますますその感が強まった。

山が晩秋となる頃にまた丹沢へやってきたのだが、10月下旬ですてにお花は終わり、期待してした紅葉にはやや遅かった。

頂上小屋に置かれたガイドブックで判明したのだが、どうやらこの丹沢山塊に咲くイワシャジンとわかり、初見の花に感動したが、三ツ峰方面にまでずっと見ることができた。

さらなる急登となり、クサリ場をやり過ごす。「ミツバツツジがこのあたりから咲くようだ」と話が出ると、展望園地に到着した。きょうのお目当ては、紅葉と雲峰富士に出会うことだが、何とここで叶えられた。ゆつくりと20分近くもカメラタイムをとり、休憩する。富士を見てみな納得顔である。

さすがにツツジ尾根といわれるほどにシロヤシオが多く、初夏には花の道そのものだろう。しかし、アップダウンが繰り返され続け登山道には体力を相当使ったのではなからうか。

大山など東丹沢は何度か歩いているが、今回は西丹沢のデビュー戦であり、事前調査も怠りなく、加えて道標がしっかりしている。青空の中に紅葉が染まり、すばらしい景観が楽しめる。大自然の中にある自らの心ともべ

入山は、これまた名前にあこがれていた西丹沢自然教室からで、7時頃出発した。ミツマタが多く残る山腹道やブナの自然林が続く道を行くと、ゴリラ沢に飛び出た。ここで顔の汗を流れに濯ぐ。

急な階段が出てくると、青紫色のシャジンがきれいに咲き残っている。

ストマツチングである。まるで我が身は「大海の一粟」ではないのか。いつも小心とはいえなくもないが、これからは何事にも怯えることなく月日に添うように生きたいものだ。大きなブナに身を任せながらの想いであつた。

ブナやバイケイソウのなかの木道を進む。きょうの登高標高差は1133だが、まずは一つ目のピーク檜洞丸が近くなったと思うころ、右へ石棚出合の案内が木のそばに立っている。このあたりから紅葉が残っているとは、下の様子からではとても予想できなかつた。

すでに1000は登ってきたはずだと高度計で確認し、「檜洞丸にはもうすぐですよ」とメンバーに声をかけながら振り向くと、富士山もにっこりとほほ笑んで、「頑張ってください」と応援しているように感じるのであつた。

富士を見て、コミネカエデ・シロヤシオ・ナナカマド・ガマズミなどの紅葉を背にしなから、檜洞丸(1601)へ約3時間半もかけて到着した。





蛭ヶ岳山頂

頂上は広々と明るくアルプスのどこかにも登ってきたような趣があり、一本立てるには絶好である。だが、プナなどの大木が林立して眺望にはやや乏しいが、それでも少し大越路方向に移動すれば何とか富士山も見られた。ここで大休止である。昼食をとりながら「まだ蛭ヶ岳まで倍残っているのか」と弱気な声も出たが、「いやあ、倍よりもっとあるよ」と誰かの脅しのような激励の声に、「わかりました」とおどけて応えるのが精いっぱいであった。

一般的に、縦走ならば40分もの大休止はしないのだが、10時頃の休憩で、それにきょうは時間的に余裕のある小屋泊まりである。念願の檜洞丸で心ゆくまで語らい合おうとの計画通りとなった。しっかりと歩いてもらったメンバーにこのうえない感謝であった。

元気になった我らはすぐに背い屋根の「青ヶ岳山荘」と看板を掛けた小さな無人小屋の前に出た。あたりには真っ赤な実を付けたカマツカも見られ

とができた。

さらなる急登から広いササ原の頂上の白ヶ岳に着くと、真正面にここより213m高い蛭ヶ岳が覆いかぶさるようになり大きく飛び込んで来た。

みんな、「えーあそこまで登るの？」と憧れよりも辛い気持ちのほうが強そうなる声も出る。檜洞丸のピークからここまで1時間40分、辛いアップダウンをこなしてきたのだから思いは同じだ。東京から来たという若いふたり連れの重そうなかメラザツカの両人とも

た。

この小屋は土・日曜のみの営業だが、平日でも玄関に鍵をかけた、緊急時には誰でも利用できる配慮がなされている。このような温かい心遣いになれると、山を愛するものにとって最高である。後で聞いた話だが、クリスマスには毎年登山者を迎え、盛大なパーティでもてなす人気のイベントもあるようだ。

とりあえず来年の初夏には、加入道山、大室山を登って大越路から檜洞丸を踏み、存分にグリーンシャワーとシロヤシオを楽しみ、この山荘で泊まり、憧れの同角山稜から「ユーシンロッジ」にくだるコースを歩き、「青ヶ岳山荘」の心に浸りたいなと思うのだが、この思いは「槐安の夢」と消えるのだろうか……

檜洞丸から蛭ヶ岳のルートについて、昭文社の山と高原地図でも記述があるが、「丹沢主稜の中というより丹沢の登山コースの中で特に起伏が激しく、予想外に時間がかかり体力も消耗らつとあいさつしたが、逆方向にくだつて行き、後は我らだけでのんびりとひと息つけた。「ここまでの道は相当なものだった」「ここまでよく登ってこれたね」と称え合うものの、やけっぱちともとれるような慰め合いが続いた。

「いや、そんなこと言ってる場合ではない。まだ最後の急登が待ってるのだ」と言い、ササ原の白ヶ岳を後にし、北東から眺みつけるように見下ろしている蛭ヶ岳を目指すことにした。

だからだと半時間程くたり、小ピークがミカゲ沢ノ頭で、これより直角に東へ方向を変えてからがまた大変だった。それは、体力を使い果たした面々をさらに痛めつけるほどの岩やクサリの直登があり、さらに道沿いのイバラの刺が歩行を妨害するなど、散々苦しめられながらロープやクサリに助けられ、ようやく丹沢最高峰の蛭ヶ岳(1673m)にたどり着いた。

まだ14時30分にもかかわらず、冷たい風が吹き抜け夕暮れかと思える薄暗

するので体調万全で臨みたい」ととの文を思いだしながら、踏跡のやや薄い登山道をたどってササ原をのんびりくだつて行く。乾いたやせ地にはリユウノウギクが白い花弁を見せ、ササの周辺にも青紫色のリンドウがひっそりと咲き残り、衰れを癒してくれた。

その後に出てくる金山谷乗越、神ノ川乗越のガレたやせ尾根・崩壊地に注意しながら梯子や棧橋を通過した。

急登を何度もこなしながら高度を上げて行くと、薄暗い山腹で花弁を振るわせるように見える縁が糸状に細く裂けているユキノシタ科のシラヒゲソウが、谷沿いの湿った場所で見られ、(へー、丹沢でも咲くのか)と立山以来の感動の再会であった。

ヒメシヤラの多い樹林帯から進むと、今度はやや乾いた木蔭を好むキク科モミジハグマ属のテイショウソウ、オクモミジハグマなどの仲間であるキッコウハグマが現れ、もっときれいなのをと探しながら登ると、やや五角形の柄の長い特徴ある葉を見つかるこ

さで、まして富士の顔などどこにも無い。すぐさま「蛭ヶ岳山荘」のドアを叩いた。

にこやかな笑顔の小屋番が立ったままで出迎えてくれた。我らは檜洞丸から3時間30分もかけて登ってきたので、まずは休ませてもらいたいと思いであったが、彼は話好きで、次から次へとまるで紙鉄砲のようにとぎれることなく饒舌が延々と続くのであった。

夕食の頃にわかったのだが、ひとりで一週間毎交替で東野から上がってくるらしいが、この間はひとりっきりのため、客が無いと話し相手が全くないらしく、話し相手がようやくできたと思ってしまう。

きょうの客は我らとあと北海道から来たという人と登山道直しの人夫さんらの計10人しかなく、我ら6人は大広間で眠ることができた。何しろ、私はこの部屋で60人近くがこたつたがえしたのを経験しているだけに天国のような気持ちでぐっすり朝まで休ませて

らった。考えてみると、小屋番の一週間の話を聞くくらいは十分にお釣りがくるといふものであった。もつとも食事の内容はほとんど期待できなかつた。

期待した朝の天気はガスっていて何も見えないが、バスの時間から6時間には小屋を後にした。ササ原とガレ場の鬼ヶ岩、またササ原の棚沢ノ頭、不動ノ峰を過ごし、東屋の休憩地はもちろん、丹沢山まで来てもガスは消えなかつた。



山行中ずっと見たイワシャジン

ただきつい登りを過ぎると山頂直下には珍しいツバキ科ナツツバキ属のヒコサンヒメシヤラに出会えたのにはニマリであった。ヒメシヤラの近縁種であり九州福岡の英彦山の名をとったものらしいが、分布範囲の狭い樹木で花期は7月であり、他の二種より遅く咲くようだ。なお、簡単な見分け方は、樹皮が赤から黄褐色でほとんどの個体に横線の皮目が目立ち、ヒメシヤラより汚れがある感じというのが、私なりの見方である。

さて、日本百名山の看板がやけに目立つ一等三角点の丹沢山(1587.1)で休んでいる間にようやくガスが薄くなったようだが、もちろん富士などどこにもなく、すこすこと最後の後線である丹沢三ツ峰コースへの下りにかかることにした。こちらは紅葉真っ盛りですばらしい風景が繰り広げられている。しかし太礼ノ頭、円山木ノ頭、本間ノ頭と、1300以上のピークの登降でけっこう膝にくる。しかし危険な所は全くな

く、その後も総じて下り一方であり、金冷しのクサリ場も何なく通過できたが、これまでのピークでの展望は無いに等しく、最後の高畑山の展望台でも期待を裏切られた。

宮ヶ瀬湖を見下ろしながら、(きょうの長い尾根くだりの終着駅が近づいたなあ、次の富士見山行は中央沿線の山だ)と考えるながら、予定通り出発から6時間30分でバス停に下山できた。

(平成20年10月21、22日歩く)

△コースタイム▽

△1日目▽小田急新松田駅(タケシー1時間)西丹沢自然教室(45分)ゴウラ沢(45分)展望園地(1時間15分)槍洞丸(1時間)白ヶ岳(1時間30分)蛇ヶ岳(泊)
△2日目▽小屋(1時間20分)丹沢山(1時間35分)本間ノ頭(1時間25分)高畑山(1時間15分)三叉路バス停(バス45分)富士急本厚木駅(電車)JR小田原駅
△地形図V2万5千▽中川・大山

紀行

大東市から生駒山系南部縦走と山越えで三郷町へ

暗峠・鳴川峠・立石峠

小山 誠次

生駒

筆者の職場はJR住道駅(大東市)近くなので、いつも生駒山北部を眺めながら通勤している。息子は大学生で奈良県の三郷駅近くの学生マンションに住んでいる。

そこで、かねてからの山行計画案をいよいよ実行に移すこととした。さしづめ、山歩きと言いながらも、息子の品行偵察に行く父親の体でもある。

平成20年11月22日の前日の天気予報では、大阪府は西の風で朝晩は曇り、奈良県北部は南の風のち北東の風、昼前から晴れとのことである。降水確率は前日の午後6時から6時間

(写真1) 住道駅から暗峠・鳴川峠を望む



が22日にはだいぶ緩和されている。さらには、当日朝発表の日の降水確率は、奈良県北部は変わらないが、大阪府は0/0%と改善している。

当日朝、平日と同じ時刻に起床。窓から外を眺めると、西の空が朝焼けし、自宅の屋根が濡れているので少々気にかかる。愛宕山は層積雲に覆い隠されている。

いつもの時間帯に京阪とJRを乗り継いだり、気分的にも平日と比べてかなり余裕があり、混雑していない。車

中で見る顔にも馴染みの人が多い。本日の取付駅までの運賃は定期券使用なので、「最も安上がりだなあ」と心の中ほくそ笑んでいると、8時42分、住道駅に到着した。

天気予報通り快晴である。今から石切神社を経て国道308号をたどり、まず生駒山系の暗峠に達する予定である。そのため、住道駅から暗峠と鳴川峠を望む写真を撮った(写真1)。左から二つ目のコルが暗峠で、右端の先が鳴川峠になる。その後で、それぞれの峠までの方位角を測定しようとしたが、架線上の高圧電流のための磁場障害で、なかなか磁針が定まらない。改札口を出て階下に下りたところで準備運動し、9時5分に出発した。先ずはJ Rに沿って東に向かうが、途中から住道駅前団地の中を横切り、阪奈道路の下り線に出た。そこから恩智川に出会い、左岸の堤防上を南下して南新田橋を渡り、そのまま南新田団地の南を東進し、落合橋を経て国道170号(大阪外環状線)を渡った。

二度目の「らしくらく登山道」との合流点では、国道308号の道幅のほうがはるかに狭く、軽自動車でも脱輪しないかと思うくらいだ。

再び民家が立ち並ぶなか、最後は石畳となって暗峠に到着した。標高455m。目前は信貴生駒スカイラインで、国道はその下のトンネルへと続いている(写真2)。現在は11時20分、標高55mの近鉄奈良線からここまで44分間を要した。石切神社を出て弁当を買ってからというもの、トイレ以外は



(写真2) 暗峠

そのまま布市町から日下町に到着して、もう一つの国道170号(通称バス通り)に達して南下する。このあたりまでは普段、看護師の運転する車の助手席に乗ることが多く、仕事上の行動範囲である。中石切町に到着、バス通りの東側のまっすぐ南に向かう道を選ぶ。ここからは地図に頼るようになるが、しばらくは今のままで南進する。

そのまま進むと、前方に近鉄東大阪線の高架が視界に入ってくる頃から、十字路では左側に注意を払う。石切神社に参拝するためである。左折する角を人に確かめ、すぐ近くの神社に詣でた。相変らずお百度を踏んでいる人が多い。筆者の患者さんにも石切神社のお守りを身に着けている人をよく見かける。

参拝後、境内を南下し、絵馬殿を抜けて新しく建立された大鳥居をくぐるが、純白の石製の鳥居が快晴の空に威厳をもってそびえている。近鉄東大阪線の線路を足下に跨いで、元の予定通のノンストップだったので、ゆっくりと飲水休憩をとる。先ずは暗峠に立ちたいとの長年の希望を叶えることができる。

ここまでアスファルトやコンクリートの路面ばかりだったので、足底に肉刺を発生したようだ。やれやれ、これから先、まだまだ長いのに……。息子に電話を入れておく。

さて、ここからは峠の茶屋すぐ西側の生駒縦走歩道(生駒山ハイキング道)をたどる。この道が大阪府と奈良県の境界になっている。左手にスカイラインを見下ろしながらコンクリート製の歩道を登り、本日の最高点であるピーク522mに到る。このあたりは「大阪府民の森」である。ようやく土の上を歩くことができる。現在は11時40分だが、昼食にはまだ早いので先を急ぐ。案内標示は親切で特に迷うこともなく下りの階段状の道をたどっていると、12時ちょうどに鳴川峠に到達した。やはり立体交差となっている。スカイライン上の紅葉がきれいだ。日照

りの道に戻り、近くのコンビニで弁当を買った。後はこのまま国道308号に出合うまで直進する。

国道308号を東に向かい、近鉄奈良線のガードをくぐるとすぐ目前に、一方通行西向き狭い急傾斜の国道が続いている。第一歩を踏み出し、本道にこれが国道なのかと訝しく思ったが、国道308号との標示がある。

狭いコンクリート製の道を行き交う車に注意しながら登って行く。最初は民家が立ち並ぶが、やがて右側に豊浦溪谷を見ながら登る。時々牧園神社から続く山道が橋を渡って繋がっている。民家が途切れると、寺や神社が散在するだけでなく、松尾芭蕉の句碑も建てられている。やがて溪谷を渡る。

しばらくそのまま息急ぎ切りながら登っていると、「らしくらく登山道」と合流し、「近道していますね」と声を掛けてくる人があった。どうもこの道は急坂であり、かつ交通安全のためにもあまり人がたどらないようだ。ようやく山上の開けた平坦地に到着したが、

の強弱で紅葉の進行が違うのがよくわかる。

5分後に大阪市、東大阪市を見渡す眺望所にやってきた。感動しながら写真を撮る(写真3)。手前の緑地は花園ラグビー場と花園中央公園で、遠くに大阪市街地のビル群も立ち並んでいる。生駒山ならではの風景である。

5分後に出発する。歩いて4分後には、初めてスカイラインの側道を歩くことになったが、どうもスカイラインは歩行禁止のようだ。12時38分、「誓いの鐘」と名付けられた大きな展望台にやってきたので、ここで大阪市街地を見渡しながら昼食をとる。

直下にはスカイラインの駐車場があり、車を停めて登って来て風景を楽しむ人が多い。食事中、大阪市内を北東方向に進む飛行機が飛んでいるのがはるか遠くに眺められた。また、ここからの生駒山頂電波塔を望む風景は、全山の色彩変化がよくわかる。

13時7分、昼食を終えて出発する。18分後に、十三塚の道標を確認して立



(写真3) 大阪市・東大阪市を見渡す



体交差の十三時に到達した。今回は十三塚を訪ねることは予定に入れていない。ここからはスカイラインから一見外れるように左に折れる。そのまま進むと、すぐに道標に従って「高安山・信貴山」方面への細い道をたどり、間もなく右手に沼を見ながら、地形図で道を確認する。このあたりは山腹をトラバースする最も細い道である。13時50分、立石峠に到着した。ここから「服部川駅・信貴山口駅」への案内標示と共に、やはり立体交差である

ことを確認する。この少し前からはずっとスカイラインに沿ってのアップダウンの道が続くが、これならばスカイラインを歩いたほうが楽だ。しかし、本日は歩道を忠実にたどるつもりである。間もなくトンネルをくぐると、スカイラインから分岐した少し大きな車道に出合った。このまままっすぐ南に進みかけた所で地形図を確認した。改めて、少し戻って左に折れる細いほうの車道を選ぶと、徐々に東に向いて行き、

ついにスカイラインの跨線橋を渡る。14時9分、スカイラインともおさらばである。ここまでは予定通りだ。

このまま東に向かう下りの細い車道をたどり、14時23分、信貴山を南正面に見据えて分岐路をたどることとした。信貴山からは談経の鐘声が聞こえる。信貴山に登るため、地形図上の車道から谷間へと続く歩道に期待した。しかしながら、谷間へは通じたものの道は途絶えており、引き返さざるを得なくなった。やぶ漕ぎは予定してない。元の下りの細い車道まで戻ったが、17分間のロスであった。

一度振られたので、別ルートから信貴山に向かう気になれず、直接大きな車道に向かうこととした。西和広域農道である。片側一車線の立派な舗装路だ。後はこの道をたどり、15時7分、三郷町に入った。さらにそのまま進むと、右手800mに信貴山朝護孫子寺が見えてきた。やはり、ここでも談経の鐘声がよく聞こえてくる。もう日もだいぶ斜めに傾いている。

後はこのまま車道に沿って三郷町内のメインストリートをとどろが、このあたりは何度も自家用車で通行した覚えがある。15時55分、JR三郷駅に到着した。ここから息子の住む学生マンションまで3分である。

息子が三郷町に住むようになってから、自家用車で何回か訪れたが、かねてから一度、筆者の通勤駅から徒歩で行ってみたいと思っていた、それを叶えたものであった。が、正直なところ、暗峠までの国道308号の登りを始めとして、固い路面歩きが長かったため、少々辟易した。全長20・4km。

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に託す。

生駒晩秋如画
燦然紅葉满
独居年半迢迢
万径钟声欲近
生駒山の晩秋は絵画の如くである。

光輝くような鮮やかな紅葉と一杯に広がる大都会の風景。さて、息子は独り住むようになって一年半、はるかな高い夢を抱きつつ、ところで、今たどっている道の到る所で談経の鐘声が聞こえているが、もう夕暮れに近づこうとしている。

(平成20年11月22日歩く)

- ▲コースタイム▼
- JR住道駅(28分)大阪外環状線(10分)
- バス通り(5分)分岐点(15分)石切神社(22分)近鉄奈良線(44分)暗峠(7分)
- P522(17分)鳴川峠(5分)眺望所(23分)誓いの鐘「展望台」(18分)十三峠(22分)立石峠(19分)信貴生駒スカイラインを跨ぐ橋(14分)信貴山への道分岐(17分)元の道(20分)西和広域農道(55分)JR三郷駅(3分)息子宅
- ▲地形図・地図▼
- 2万5千「生駒山・信貴山」
- ゼンリン住宅地図「東大阪市(牧岡)」
- 生駒山系広域利用促進協議会「いいこまっぶ」

旗振り通信の新研究⑨

連載 旗振り通信の情報発信

柴田昭彦

山から山へと手旗信号(夜間は松明で火振り信号)によって驚くほど迅速に、西は九州北部、東は関東地方へと伝達された。相場通信を行った中継地点の山を旗振り山・相場旗山・旗山(福山)などと呼ぶ。伝達速度は時速五百キロ前後で、新幹線よりも速く、飛行機に匹敵していた。

【旗振り通信の情報発信】
○平成19年10月、明治安田生命・関西を考える会代表の真野修三氏から、次年度の冊子に掲載するアンケートの依頼があった。以下のような回答を送り、「関西の道を巡る」(明治安田生命保険相互会社大阪総務部・関西を考える会発行、非売品、平成20年6月、82頁)に掲載された(冊子の本文は、明治安田生命のHPで読むことができる)。

「江戸時代、天下の台所、大坂には、全国から物資が集まり、経済的繁栄を

誇っていた。全国から米も集まり、大坂堂島の米市場は、一七三〇年、幕府の公認するところとなった。組織化された取引所において、集中した形で先物取引が行われたのは、大坂の米会所が世界で最初のことであった。米価は諸物価の基準となっていたから、堂島の米相場情報は、各地に一刻も早く伝えることが求められた。

電信電話の未発達な時代、江戸中期から大正前期まで、大坂堂島の米相場情報は、望遠鏡を使い、見通しの良い

り山」の本を読んで思いを強くした。こ

となどであったという。
平成20年6月19日、「関西の道を巡る」の拙稿を読まれた押田榮一氏(情報通信学会の「情報通信文明史研究会」主宰)から、今年度4回実施予定の研究会の3回目に、「旗振り通信」を取り上げたいという依頼の手紙が届いた。

第1回研究会(6月27日)では、中野明氏(「腕木通信」の著者)が「情報通信史にみる破壊的イノベーション」と題して発表することだった。講師依頼については前向きな返事をして、一緒に発表する予定の吉井正彦氏と打合せをすることになった。

押田氏は、神戸市灘区在住。電電公社本社技師長室、電話局長などを歴任、N T T発足に際して「N T T情報文化センター」の設立を提唱し、初代所長に就任、平成2年退職。元・龍谷大社会学部教授。工学博士。現在、情報文明研究所所長、関西学院大総合コース講師、災害時医療連絡協議会会長。河

内厚郎編「神戸からの伝言 瓦礫に響いたパッパ」(東方出版、平成8年)に「威力を発揮したミニコミ」を執筆。日時の研究もある。「関西の道を巡る」には、神戸市・交通網・災害対策などの話題10編を寄稿されている。

吉井氏は、西宮市在住。広告代理店・博報堂関西支社勤務。「日本旅のベンクラブ」会員(ペンネーム「達坂御堂」)。お笑い学会員。昭和56年、旗振り通信の再現実験を行う。平成19年より、国立民族学博物館の客員教授(応用民族学)。幻の東神戸新聞を発見(平成19年)、阪神淡路大震災の後に掲示された「赤

赤の伝言カード」の発案者(博報堂関西支社の同僚であった)の謎を解明した(平成20年)。「関西の道を巡る」に「生田川」を寄稿している。「歴史と神戸」271号(平成20年12月)には「ラヂオ塔」を知りませんか」を掲載し、戦前に設置された公衆用ラジオ放送聴取施設を紹介している。筆者は、平成12年9月に初めて吉井氏と連絡することができ、再現実験のレポートやビデオ

の提供を受け、研究に生かすことができました。

平成20年9月14日、梅田で押田氏および吉井正彦氏と研究会について打合せを行った。吉井氏は録画ビデオを見ながら再現実験の話を行って前座を務めるとのことであった。吉井氏は電報暗号の本を見せながら、ずっと以前、旗振りの暗号表(一枚刷)を三重県の高書店で見つけたが、2万円と高値だったので買わなかったが、もう見つからないものであり、今では後悔しているとのことだった。

筆者からは、昭和56年当時に吉井氏が古老から聞き取った証言のまとめを、多忙を口実にして徹底に眠らせておかないで早く「歴史と神戸」に公表してほしいと要望しておいた。本誌58号の90頁に記した未作成の状況が今でも同様であることは残念でならない。

平成20年9月5日、筆者の職場(東大阪支援学校)にテレビ番組「探偵！ナイトスクープ」の関係者から電話が入り、岡山ルートの旗振り再現実験につ

いての間合せであった。数日後に再現実験をしたという依頼であった。二つのビル同士ならともかく、即座の実験は無理であること、山頂間の場合は準備に数ヶ月必要であることを伝えたい。実績のある吉井氏を紹介しておいた。打合せの場で吉井氏に確認すると、お笑い番組だと内容が変更されてしまうので困ったなと思っていたが、結局、音沙汰無しとのことであった。手間がかかること、二番煎じであることがわかり、メリットがないと判断したのである。

○平成20年11月7日、関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて、第3回情報通信文明史研究会「旗振り通信」が開催された。吉井氏による録画ビデオを見せながらの旗振り再現実験の話に続いて、筆者による旗振り通信の話を行った。用意したレジュメには、これまでの経緯、筆者のホームページ「旗振り通信」の「旗振り通信Q&A」の40項目、インターネットをめぐって、旗振り通

信の位置づけ、旗振り通信が一般によく知られていない理由、参考資料（通信ルートと写真など）を盛り込んだ。

「情報通信学会誌 第88号」（第26巻第3号、平成20年12月）に掲載された研究会報告のうち、発表の概要は次の通りである（一覽表については省略した）。

「1.はじめに」

私は障害児教育に携わり、体力づくりのためのハイキングと「新ハイキング関西」誌へのガイド投稿を通じて「旗振り山」に出会うようになりました。

旗振り山の本格的研究のきっかけ

は、図書館で元・八日市市史編纂室長の中島伸男さんの旗振り通信ルートの研究を発見したことでした。古老への聞き取り調査は地元に限られておりましたので、私はそれを全国に広げようと考えました。旗振り通信の行われた場所の悉皆調査は、私のライフワークとなり、今も継続しています。

2. 旗振り通信について

元禄時代には、旗振り通信はなかったようです。1706年、角屋号三

の高い上等的場合、エラー防止の合い印を用いる「照合通信」でもありました。

旗の色には地域差があり、滋賀県では白黒、三重県・兵庫県・岡山県では白赤を用いました。旗振り師の給金は結構いい金額と推測でき、日雇い労働者の1日の給金（50銭）より高額を支給され、当時の小学校教員の初任給ぐらいでしょう。

夜間は松明の火振りでした。雨・霧だと通信は無理で、米飛脚、電報、電話が用いられました。米相場以外に、金銀・油・株式相場も旗振りで伝えられました。明治中期には、相場電報の利用も増えました（引き札が発行されています）。旗振り通信は、予約電話が可能になった1914年にはほぼ終わりを告げ、1918年には、完全に消滅しました。

旗振りの遺跡が残り、岩に刻んだ矢印や旗さし穴、旗振り台が知られ、記念碑や案内板もあります。マイクrouエーブは直進する性質を持ち、中継

所の立地条件が旗振りと似ており、「空間光通信」である点では、のろし・腕木通信と共通性があります。

3. インターネットをめぐって

旗振り通信は、忘れられた歴史と言えます。江戸・明治期のインターネット、光通信・パケット通信の元祖という評価もその外れではないでしょう。

当時の最先端の道具を用い、世界に封しても自慢できるようなユニークな通信方法と言えます。日本でのインターネットの普及に伴い、のろし（1997年）、伝書鳩（2000年）、腕木通信（2003年）、旗振り通信（2006年）というように、3年毎に電気通信以前の情報通信の本が出ました。これは、インターネットの普及によって、原初的な情報通信が持つ性質を改めて見直そうという機運が高まったためと考えられます。「温故知新」という言葉に象徴されるように、昔の通信方法に、現代的な情報通信との共通性を見出したものです。

次（すみやよそじ）が摩手信号で儲けた話が伝わり、相場信号の起源とされています。1743年に大阪歌舞伎で演じられた大門口鉦（おおもんぐちよろいがさね）という芝居の序幕に、望遠鏡と幟によって相場を知らせる話があつて、これが確実な、旗振り通信の始まりと言えます。

江戸時代、大阪・江戸間の金銀相場通信に8時間かかり、箱根八里は飛脚が走りまわりました。この伝達速度は、吉井さんの再現実験とはほとんど同じでした。

明治時代の旗振り通信は、時速200kmの新幹線よりも速く、時速400kmの飛行機に匹敵していました。時速750kmの記録も残っています。1891年の大津事件で、旗振り通信によって、大津から大阪まで510分で伝えたといいますが、イロハ信号で伝えたことから考えて、実際には、30分かかったというのが、妥当でしょう。旗振り通信は、予め発送しておく暗号表を用いた「暗号通信」で、値段

4. まとめ

旗振り通信がよく知られていない理由には、いろいろありますが、結局「資料不足」に尽きると思います。大学の研究者のテーマに採り上げられて、本格的に取り組まれていたらと悔やまれます。「旗振り通信」に関心を寄せた人もいましたが、刺身のつま程度の採り上げ方であったことが多いようです。体系的な研究が不十分と言えます。旗振り通信は民俗学的な研究の魅力に乏しいと思われ、キャンブル性の要素も、日陰者扱いになりやすかった理由と言えるでしょう。

情報通信の本で、腕木通信・手旗信号にふれながら、米相場の旗振り通信には全くふれないものも多いようです。傾向として、男性のほうが強く旗振り通信に興味を寄せ、女性は一部の例外を除いて、無関心なケースが多いように感じられます。日本の情報通信・交通の発達を概観する一覽表を作ってみました。視覚通信、移動通信、電気通信の比較には便利ではないかと思

ます。

今後の展望として、旗振り通信の研究を、刺身のつまから、確固とした地位へ高めることが必要と考えます。もともと、民俗学のテーマに採り上げるべきでしょう。旗振り山さがしは、素人に任せておけばよいという風潮があり、研究の停滞の原因でしょう。私自身は、旗振り山さがしのオンラインワンであり続けていきたいと思っています。

最後の質疑では、江戸時代と明治時代の断絶、旗振りの徒弟制度の有無、旗振りの利用システム、石堂ヶ岡頂上の旗振り記念石碑が巨大な理由、旗振りの具体的な方法、などの質問が出されました。実際に再現実験を試みた吉井さんからは、大風の際の旗振りの困難さ、臨時の通信や通常と逆方向の通信をどうやって受信したのか、など、今後、解明したい問題提起を以て、しめくりとなりました。

今後、旗振り通信が、世界的にも周知され、広く認められるようになることを期待したいと思えます。」

- ・江戸時代と明治時代の断絶、旗振りの利用システム、石堂ヶ岡頂上の旗振り記念石碑が巨大な理由、旗振りの具体的な方法、などの質問が出されました。
- ・実際に再現実験を試みた吉井さんからは、大風の際の旗振りの困難さ、臨時の通信や通常と逆方向の通信をどうやって受信したのか、など、今後、解明したい問題提起を以て、しめくりとなりました。
- ・今後、旗振り通信が、世界的にも周知され、広く認められるようになることを期待したいと思えます。」

11月5日発行の一部が貼り付けられており、珍しい通信引き札と共に、貴重な資料となった。

とを期待したいと思えます。」

報告は以上の通りである。以下、関連する内容について、補足しておこう。イロハ信号で約20文字分を送るには一回の送信に5分程かかり、大阪から大坂までの伝達には六回の送信が必要であったので、結局、30分必要であったことになるだろう。

資料の検討の結果、岡山ルートでは白旗と赤旗が使用されたことが明確になった。

明治末期の小学校教員の初任給は、月10、13円で、一人前の番頭の給金は月15円、雇人(丁稚)は月3円であった。当時の10円は、現在の8、15万円ぐらいの貨幣価値があった。

明治中期には、相場電報の利用が増え、引き札が発行されている。「東國間鉄道之因」(引き札、明治21年発行)は、筆者が平成20年にインターネット検索で見つけて入手したもので、研究会の参加者26名にも回覧して紹介した。明治24年に開通した東京・岡山間の鉄道路線図・駅名と蒸気機関車の絵が描か

が、コツさえつかめば、誰でも行うことができた。他の職人のような高度な熟練度が要求されることはなく、徒弟制度は設けられなかった。見よう見まねで振り方を覚えたというケースも報告されている。

石堂ヶ岡頂上の石碑は、ゴルフ場の開設者である後藤田義夫氏によって開場記念として設置されたものであり、豊富な資金によったので、巨大であった(本誌97号参照)。

引き札 (明治24年、大阪)



れ、次のような文面である。

「東京 大阪 名古屋 定期米相場電報通信 米況商況 書翰通信 東京 横濱町芝丁目會所前 大阪堂島米會所 横町角 名古屋塩町三丁目 相場急報舎」

この相場急報舎は、旗振り通信社とも呼ばれた東京急報社(六角政太郎が明治20年に相場専門の通信社として設立)や大阪急報社と同系列の会社であろうと思われる。

なお、この引き札の裏側には、「米商要報第六十四号」(米報急、明治28年)があるのかという鋭い質問もあった。送信の際、本当の数字から変換した数字を送る必要があることから「一〇〇」を含み、右で百位、十位の「一〇」、左で一位の「〇」を信号すれば問題なく送れることを説明しておいた。

旗振り通信が広く世界に知られるようになるためには、インターネットでウィキペディアに立項され、英文によるレポートが公表されることが必要ではないかと思う。今後の進展に期待したい。

など、もう少し詳しく知りたかった」
「面積的な広がりにはよくわかったが、その時系列的展開も知りたい」という意見が寄せられ、押田氏自身も「これから何を学ばべきなのか」という意味で、「お上、役人からの抑圧に負けずに続けた根性の源は何だったか、単に金儲けだけでは無かったのではないか」などの意見を交わしたかったという。今回の研究会は「啓蒙」みたいなものであり、本来なら、少人数でもよいから、ある程度、知識のある人が集まって、旗振り通信について語り合う場が必要ではないかとのことであった。全く、同感である。

誰がどのようにして最初に仕掛けたかについては、米市場の発展と、望遠鏡の日常的普及が原動力となり、特定の個人というよりも、同時多発的にみんなが「望遠鏡を使う旗振り通信の方法」を思いついて、盛んに利用するようになったというのが真相であろう。生産者などのようなメリットがあったかについては、米相場情報を迅速に

得た生産者が、米の出荷調整（時期、米市場の場所の選択）に生かしたということが言われている。

時系列的発展については、江戸時代はデータが著しく少ないので示すことが困難である。明治時代では、初期に出来たルートの設置の過程を電信・電話の普及と併行してたどることはできるだろう。ただ、各地における旗振り実施年代のデータは不十分であり、概要程度しかわからないだろうと思われる。

江戸幕府による禁令は、生活権を守るために米飛脚たちが幕府に圧力を加えたことよって出されたものであり、役人からの抑圧という捉え方だけでは一面的となる。公認されなかった江戸時代の人々が禁令にもかかわらず、抜け商いといわれる旗振り情報に飛びついたのは、幕府に衝突するというよりも、金儲けをしたい一心であったに違いない。もちろん、なかには反骨精神を発揮したという人もいたのだろうが、それを実証するような文献は見

当たらない。

押田氏は、2004年12月のAC・New例会で旗振り通信について探り上げておられる（情報通信学会誌、2005年1月）。当時から、筆者の日記記事（2004年2月、旗振り山）見返し（参照）にも注目し、筆者が取材を受けた日経大阪本社の岡松卓也記者（現・京都支局長）に提供した基本文献（本誌79号参照）は、今では押田氏の手元にあつて活用されているとのことであつた。文献が無駄にならずに生かされていることは喜ばしいことである。

【新発見の旗振り山】

平成21年3月5日、伊賀市で、従来知られていなかった、米相場の見当を振った山、「ケント山」（下阿波）、「ケントヤマ」（上阿波）、「見遠山」（長田）、「樺平山」（長田地区、百田）の四つが見つかった。7月には、NHK「熱中時間」に出演した。詳しくは、後の連載号で報告することにした。（つづく）
（平成21年2月7日成稿）
（平成21年8月1日追加）

紀行

三角点を訪ねて ⑥

古い峠道を利用して

連載

水無山から正座峰

磯部 純

朽木

前週の日曜日、若狭の山行が雨のため中止になったが、翌日から上天気が続いている。どうにも体がうずき、物集女の彼にメールを入れると、「朽木の古屋にある水無山から正座峰へ縦走するので、参加しませんか」との案内がきた。

正座峰へは平成3年9月に単独で、水無山へは平成4年7月にふたりで登っているが、特に、水無山では忘れられない出来事があった。車に戻ったらキーが無い。ポケットにキーと磁石を入れていたが、何回か磁石を取り出す時に落としたりに違ひなかつた。友人に腕で待ってもらい、再度山頂まで探しながら登つたが見つからず、車を置いてヒッチハイクして、梅ノ木まで戻つた苦しい思い出だ。

弓坂越の石碑



それ以来、水無山へは足を踏み入れていないが、正座峰までの縦走と聞いて、15年ぶりに訪れる山がどう変わったのかを知りたくて、参加をお願いした。

8時20分に坊村西広場へ集合する。リーターから、「桑原へ車一台を置き車して、古屋から登る」と説明を受けた後、参加者6人は二台の車で出発す

る。

梅ノ木から西へ入り、河合の橋を渡ろうとする時、「平良で工事があり、それより北へは平日通行禁止」の看板が立っている。「何とか通れるだろう」と、横着な気持ちで小川まで行くが、ガードマンに追い返されてしまった。山行を諦めるわけにもゆかず、朽木市場廻りで行くことに決定した。

朽木市場、能家、生杉と走り、9時45分に古屋上頃橋に到着。東の能家から登ることなど全く頭になかったのである。下山口の桑原へ置き車に行つて戻り、出発したのは1時間遅れの10時5分。道脇の愛宕大神の案内板から古い墓地の横を通つて山裾へ分け入ると、谷脇に道がのびている。道はすぐ左の尾根をジグザグに登っていく。道には枯れ葉や小枝が散乱していたが、シッカリした道が刻まれている。

この道は古屋と能家を結ぶ峠道で、その歴史は平安時代にまで遡る。昭和50年代まで、この道を郵便配達の人が通つて来たというから驚く。栗やミズ越と呼ばれる峠道のなだらな。峠の西を覗いてみたが、そこには道跡を見つけることができない。この尾根を歩くと聞いた時、相当のやぶ漕ぎを覚悟していたが、尾根には微かな路跡があり、ここまでのところやぶ漕ぎはなかったので、植林帯が続く限り、尾根には仕事道が残つていと思われ、この後もやぶ漕ぎはないと、期待を抱く。

早谷越から登りにかかると、尾根にはオオイワカガミの葉が絨毯のように敷きつめられている。春であれば花に見惚れるのに、この時期に花は残っていない。口々に「ここに来た時期が悪い」「春に来たらよかった」「また花の時期に来たら？」とブツブツ言いながら登って行く。いくぶん煩くなってきたやぶを払いながら20分も尾根を登ると、雑木林に囲まれた平坦なピークに着く。ここが標高638mである。時間は11時50分。この場所で昼食とった。

輪になつての昼食。車を運転してい

ナラ、松のある雑木林のなかを何度か蛇行を繰り返して、右手へ登ると20分程で峠へ着いた。この峠は弓坂越と呼ばれる峠で、峠の杉の根元には、江戸時代に置かれたという「南無阿弥陀佛 養塔」と自然石に刻まれた石碑が立っている。この石碑は、当時の記憶そのままに残っていた。

峠から南の尾根を登る。尾根には、15年前には無かつた踏跡がしっかりと付いている。尾根の東側はやぶで西側は灌木の林。登つて行くとすぐに左手は檜林に変わる。あちらこちらにオオイワカガミの群生を見た。

この尾根を、15年前のキーが落ちていないか探しながら登つたが、もちろん見つかるはずはない。落ちていたのは真っ赤に熟れたナナカマドの実だけ。左槍右手雑木の平坦な尾根にのり、ひと登りすると水無山山頂。峠からわずか25分の登りだった。15年前に登つた時には、峠から山頂まで45分かかったことを思うと当時、いかにやぶがキツかつたかが偲ばれる。

なければ、ここでキュッと一杯いきたところだったが、運転してきたのは忍の一字。うまそうに飲んでいる彼や彼女たちを横目で見ながら、ひたすら食べるしかない。すぐに手持ち無沙汰になつてしまふ時間を持ってあつた。30分の昼食タイムで出発となつてしまった。守山の彼が参加していたら、「出発が早過ぎる」と文句タラタラ聞かなければならなかつただろう。

12時20分出発。比較的広く平坦な雑木林の尾根を東へ進む。ゆるくくだり、その先でコブを越えて右手へ向かうと、峠の太さ30m以上もあるようなミスナラ・ホオノキ、名も知れぬ木が立ち並ぶ疎林の尾根にのる。それまでの灌木の里山から深山へ来たように思えたひとときだった。

再び、左から檜林が近づいてきて、目の前に立ちほだかる急坂をフウフウ言いながら登ると、Ca690mのピーク。林に囲まれ、全く展望の無い山頂だった。ピークから東へくたると、北斜面は伐採斜面。北方の展望が開け、

水無山の山名は、古屋の玉泉寺から山頂へ突き上げる谷の名前から付けられたといわれている。山頂は檜や雑木林に囲まれて展望は全く無い。以前来た時には、まわりに林は無く、膝までのササやぶに覆われた山頂で、北には百里ヶ岳から地蔵谷峠、東には能内山、南には正座峰、東には経ヶ岳と四方を眺めることができたが、この15年の間に全く山の様子が変わつていて、当時、ササやぶをかき分けながら三角点を探したのが、まるで夢のように思えた。

三角点は山頂広場のほぼ真ん中に立っている。標高680.7m、点名は東の谷名からとつた「早谷」。標石は北向きで、北から西へ10度振つている。

山頂でひと息入れ、記念写真を撮つた後、すぐに出発する。山頂から左槍右手雑木林の尾根を南へ歩き、急な尾根をくだつて方向を西へ振り、その先で細い尾根をくだると鞍部へ下りた。ここには東から道が来ているが、早谷

北西には水無山が谷を挟んで座つていて、その後ろには高く高く百里ヶ岳の姿が見えていた。北方正面には地蔵谷峠の連なりが横たわつている。その光景を満喫したのち、尾根を東へ歩き、急勾配の尾根を登ると標高707mのピーク。ここで最後の休憩となつた。山頂から尾根を東南へくたるとすぐに林道に出会う。早谷からのびた最近出来た林道らしく、持つてきた私の地形図には載つていない。林道は尾根に沿つて走り、正座峰の東を捲いて東の尾根へとびているので、その林道を歩くことにした。林道は尾根の下を通つていて、小ピークを捲き再び尾根に添うと、その先で下り始めた。道は無かつたが、ここから再び尾根へのつた。

尾根をゆるく登つて小さなコブを越えると、その先のピークが正座峰山頂。16年前には、林の間から百里ヶ岳や東の山々を見ることができたのだが、今では林に遮られ、展望の無い山頂へと変わつていく。



叫越の道標

あり、京と小浜をつなぐ鞍馬街道が使われていた頃、丹波越の基点である桑原から、北川沿いの上村、大塚峠、市場へ繋がる峠道として、この叫越も重要な役割を果たしていたと思われる。峠は小さな広場になっていて、二本の杉が立っている。西の杉の木の下には、「右ハくわはら道 左ハへら道」と刻まれた高さ50cm程の自然石の標石が立っている。そのそばに真新しい朽木山行会が立てた道標が立てられている。北の杉の根元には、宝珠を両手に持った柔和な顔をした30cm程の地藏座像が鎮座していたはずだが、地藏尊は姿を消し、前面に「萬靈等」と刻銘された台座と線香立てが転がっているだ

けだった。峠から桑原への道をくだる。斜面をゆるく切るように北へとくだって行く。あたりの林はミズナラやトチノキも多く、気持ちいいユリ道である。その林を楽しみながら30分もくだると、スギ谷の出口にあたる桑原の集落へくだった。「車は？」と見ると、車はどこにも見えない。無いことに動揺し、てつきりこの登山口を通り過ぎた所へ車を置いたと思ひ込み、地形図で確認せずに、物集女の彼といっしょに南へ歩き出す。ドンドン歩いてても車は無く、平良の集落まで行って、初めて車は登山口の北へ置いたと気づき、慌てて引き返す。頭が真っ白になり、私が先に小走りで行くと、後ろから車が来て呼び止められる。見ると、後ろを歩いていた物集女の彼が乗っているではないか。ヒッチハイクをして、車に乗せてもらったのだ。ここで私と交代して北へ走り、皆の待つ場所を通り過ぎて車の所まで戻ったが、何と車は、

登山口の300m程北の尾根を廻り込んだ所に停めてあったのだ。そこから古屋へ走って、水無山登山口で物集女の彼が残りの人を乗せて戻って来るのを待つ。全員が揃って解散したのは、桑原へ下山してから55分も経った15時20分であった。15年前は、車のキーを落とし、ヒッチハイクをして梅ノ木へ向かった。今回は、最初に道路工事で通行止めをくらったうえ、下山時に、車を置いた場所を勘違いして、車の駐車場と反対の方角へ向かってしまった。「水無山」は魔物が棲み、トラブルが発生する鬼門の山としか思えなかった。(平成19年10月31日歩く)

▲コースタイム▼
古屋上項橋(20分)弓坂越(25分)水無山(30分)早谷越(20分)標高638m(35分)標高707m(30分)正座峰(15分)叫越(30分)桑原叫越登山口へ地形図V2万5千1古屋・久多



水無山・正座峰付近図



正座峰山頂にて

正座峰、以前から我々が生婆峰と呼ばれていた山である。別に、生婆谷山、佐慶美山、叫山、桑原の東なども昔から呼ばれていた。呼び名が変わったのは、雲洞谷でこのピークの東にある佐慶美谷の支流を正座谷と呼んでいたことから、正座峰の山名が広がり、この山の名を正座峰と、「近江百山」「近江湖西の山を歩く」の本で紹介されて以来、正座峰の山名が定着するようになってきたと思われる。

三角点は広場の中央に立っている。

標高724.8m、点名は「朽木」。標石は西向きで、西から南へ20度振ってある。標石が少し大きいように思えたので、測って見ると角柱は15.4cm四方の大きさだった。人間の目の確かさに、我ながら驚く。山頂で休んだ後、南へ尾根をくだる。ゆるやかな尾根で美しい雑木の疎林が続く。尾根にはしっかりと踏跡が付いている。尾根の傾斜が急になると、左は灌木林だが右斜面に手入れされた松林が現れる。その急斜面の尾根を下りると平坦な尾根へのり、右手は若い松林。16年前、この尾根を登った時には、東側が伐採斜面で、東の山々を見ながら登った記憶があるが、今では木々が成長し、展望は全く消えてしまっている。そんな思いに浸りながら、山頂から15分もくだると、峠の三叉路へ下りた。この峠は叫越と呼ばれる。叫越の由来は、峠から大声で叫ぶと、下の民家まで聞こえたことによるという。叫越は上村から桑原と平良へ越える峠道で

港町旅情と日本統治時代の面影を訪ねる

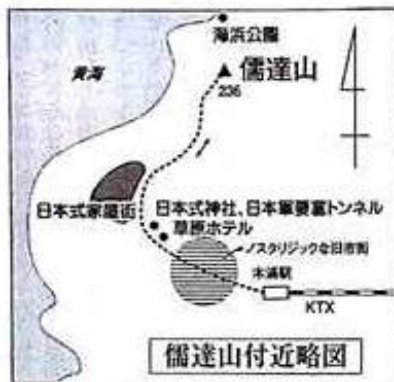
連載 モツポ ユダル
木浦市と儒達山

韓国

ヨシミスポーツ 吉見英樹

木浦市は朝鮮半島最南西部全羅南道に位置し、歌謡曲「木浦の涙」や大田ブルースの歌詞の中にある「木浦行き各停列車」で有名になった旅情あふれるグルメな港町で、日本にゆかりの深い町である。いきなり歴史的話から始まるのだが、半島最南西部という土地柄、早くから列強諸国の影響を受け、李朝鮮時代末期にいち早く、キリスト教が伝わったり、日本統治時代には多くの日本商社や日本人が一攫千金の夢を抱いて上陸した。街中至る所にある日本式家屋、中国風家屋など、異国情緒あふれる街になっている。韓国独自の問題から、朝鮮戦争後の開発でも全羅道はかやの外にあり、ほとんど開発されず取り残されてきた。

者が多く、金大中氏になって、初めて全羅道出身者が大統領になった。中国、朝鮮半島には、一族で優れた者に同族が集まるという歴史がある。これはと思われる人間に一族が出資し、科擧に及第させ、出世していく過程で、利益の分配を求めて皆が集結していくという構図だ。古来からこの図式が変わらず、長い間中央官職は全羅道の人間はかやの外であったようだ。戦後開発も鉄道網のソウル釜山線が基本に行われ、大田・大邱などの大



きな都市も全てこの路線上に位置している。金大中氏が大統領になり、初めて開発の手が全羅道にいったぐらいである。開発が遅れたということは、裏を返せば、昔の姿が多く残り、街並は大変ノスタルジーを感じさせてくれるのである。今の時代は返ってそのほうが、街としての魅力があり、最近では韓国人がこの雰囲気求めて全羅道へ旅に来ると聞く。木浦には、多くの日本式家屋、商社建築、統治時代神社跡や軍部トンネル跡が残り、歴史好きの日本人にとっても、とりわけ魅力のある街並になっている。特に国鉄木浦駅から港までの曲がりくねった道は路地も多く、ほとんどが日本式家屋で、私などの中年には50年前にタイムスリップしたような錯覚に捕らわれるのだ。

私が初めて訪問した6月の話をさせていた。韓国旅行最後の夜は、梅

儒達山



古くは、高句麗・百濟が滅亡し、統一新羅が成立した時、都は東京(今の慶州)に移された。その後、高麗、李氏朝鮮時代を経ていくが、政府中央の要職は半島南東部、今でいう慶尚道出身者が多く占めてきた。

朝鮮戦争後、イスンマン氏が大統領になってから後の大統領も慶尚道出身

アタッテ痛い靴の 巾広げ します

靴底張替承ります!



通販も可能です。



〒543-0054 大阪府天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/



TEL. 06-6772-7231 ●12時～18時 / AM10:50～PM8:00 (日曜は10:00まで)

毎週木曜日定休

雨間近かで妙に蒸す夜であった。宿は戦後からある草原ホテル。設備は古いが丘の上であり、独特の雰囲気がある。ホテルで、夕食を済ませた後、暇で仕方がなく、何かおもしろいことないかな?と駅の方に歩いて行った。

明日の新幹線の切符を買う必要もあったのだが、切符を買った後、街の灯に魅かれ、ぶらりと駅裏街に入っ



要塞トンネル

浦まで行くにはかなり無理があるの
で、内蔵山(100号参照)や月出山(102号
参照)のついでに山として立ち寄るの
がよいだろう。

私が泊まった草原ホテルのすぐ裏か
ら歩くことができる。裏山には日本統
治時代の神社跡と日本軍が掘った要塞
トンネルがある。神社の説明版に、「日
帝時代が云々」と書いてあり、朝鮮半
島の人に無理やり参拝させた姿を想像
すると、何とも心苦しい。

日帝は常に悪い意味で使われている
ので、韓国を旅して、この日帝の文字
を見る度に、自分がしたことではない
のだが、なぜかいつも「困ったな」と
いう気持ちになってくる。

たまたまいた管理人が親切にも、そ
の横にある要塞トンネルの鉄扉を開け
て中を案内してくれた。細長くクネク
ネとした手彫りのトンネルだが、話に
よると、はるか郊外まで抜け道がある
とか、日本帝国軍の軍資金が隠してあ
るといふ噂が絶えないらしい。我が国
の徳川埋蔵金のような話だ。

いった。日本式家屋をそのまま利用し
た居酒屋の前を通った時に、思わず「ホ
ー」と声を上げてしまった。

そのたまたまは、まさに50年前そ
のもので、淡い黄緑色のペンキは日焼
けて退色し、何ともさびしそうでは
あるが、家庭的なほのかな街灯が点つ
ていた。大昔に引つ張り込まれるよう
な感覚を覚えた。しばらく外からじつ
と眺めていたが、中がとても気にな
り、結局フラッと立ち寄ってしまった。
ゆっくりと時間が過ぎ、気がつけばす
でに23時になっていた。

「チャル、モゴッソヨ」(ごちそう
さま)と外に出ると、蒸し暑かった
街は、気温が下がり、霧が少し立ち込
めてきている。

草原ホテルまではクネクネ道をた
どって20分で着けるが、街は次第に霧
が深くなりムードは抜群。酔いも手伝
い、石原裕次郎の「夜霧よ、今夜も有
難う」を口ずさみながら帰った。

ホテルに帰着し、居酒屋で土産にも
らった水筒を肴にもう一度飲み直す。

神社跡を辞し、住宅街を抜け、散歩
道が坂の上のびている。20分程歩くと
広場に出る。ここは駐車場になって
いて、観光バスなどで来る備達山遊山
の専用になっている。尾根道をたどる
本道は全て舗装されていて、スニー
カーで十分。頂上まで1時間ぐらいで
到着する。もちろん、いろいろな枝道
があり、あちらこちらから人が現れる。
山腹の枝道は土道なので、こちらの道
もなかなかのものだ。

途中には、イ・スンシン将軍の銅像
があり、海を睨んで立っている。イ・
スンシン将軍は、壬申倭乱の時、豊臣
軍を亀甲船で撃破した朝鮮史上三大英
雄のひとつだ。ここよりプラプラ歩い
て30分位で頂上に到着する。

頂上は360度大展望の岩の塊、山
は低くとも十分に満足だ。多島海海上
国立公園が目前に広がり、山上から眺
める海と島々は、瀬戸内海のようにと
ても長閑な風景で、人を心底リラック
スさせてくれるのである。眼下には木
浦の街並が見える。

窓を開け、椅子を窓際に寄せて、夜景
をもう一つの肴にして飲むのだが、霧
は次第に深くなっていた。韓国の街
灯はオレンジ色で、もの侘びしい感じ
がする。その上に霧が被さるので、侘
びしさ更に勝りけり。となっていく。
「夜更けの街に、潤む夜霧よ、
知っているのか、別れの辛さよ」夜は
更けていった。

さて、本題の山歩きの話に転じよう。
備達山は、港の横にある小高い丘のよ
うな海拔236mの山である。山とい
うよりは、表現として丘が正しいかも
知れない。しかしながら、海の際なの
で展望は最高、頂上からは多島海を行
き来する貨物船などを悠然と眺めるこ
とができる。

山自体は低くても山容は韓国ゆえ
やはり岩峰になる。道自体、メインル
ーは舗装されている。でも枝道は土と
岩の道であるので、散歩がてらの山歩
きとしては、それほどがっかりするこ
とはないと思う。でもこの山だけに木
訪れるのに最高のシーズンには、春ら
しい。多島海といえは、桜といえは
多島海と言うぐらいで、春には海岸線
や島々がピンク色でおおわれるとのこ
とだ。山頂ではハイカーが食事したり
酒を呑んだり、皆ゆっくりにくつろい
でいる。眼下には、行き交う船がノン
ビリ汽笛をならして通り過ぎていく。
初夏の日差しがとても気持ちがいいの
だ。

散策後のもう一つの楽しみは、何と
いっても食道楽だ。港町の魚市場へ繰
り出そう。波止場に陣取るこの刺身
居酒屋街は韓国でも有名で、特に活水
蛸刺身(センナクチ)は最高である。口
の中に引つづくタコの吸盤、暴れる足
を感じながら呑むジンロ(韓国焼酎)
トントンチュがお勧めである。
ノスタルジックな木浦を、日本人登
山客もぜひ訪れて欲しいものだ。

△コースタイム△略

ぬばたまの黒髪山を訪ねて

くろかみやま

松永恵一

車衆の女人たち

佐保路・佐紀路の古寺はやさしい。般若寺、興福院、不退寺、海竜王寺、法華寺、秋篠寺。小さな寺々は尼寺であったり、美しい御仏がおられたり、それぞれに花に彩られ女性的である。なだらかに続く丘陵佐保山と佐紀山の裾は平城山と呼ばれ、大小の古墳が散在している葬送の場であった。これらの陵墓が本当にその名の人々を葬っているかどうかの考察は専門家の考証にまかせるほかはないが、女帝や皇后たちの御陵が多く残る。古くは垂仁天皇の皇后・日葉酢媛、仲哀天皇の皇后・神功皇后、仁徳天皇の皇后・磐之媛命など。奈良時代以降は奈良七代

の初代元明天皇、第二代元正天皇、聖武天皇の皇后・光明皇后、道鏡事件にからむ孝謙（称徳）天皇などの名があげられる。

黒髪山の名の由来が伝わる。兄の「狭穂毘古の叛乱」に加わった第十一代垂仁天皇の皇后狭穂姫命は兄の陣営で皇子を産んだ。皇子を天皇に渡そうとして、捕まらぬように長い黒髪を切つてこの山に埋めたという。

ぬばたまの黒髪山を朝越えて
山下露に濡れにけるかも

【万葉集】巻七一一二四一

（女の黒髪の名で呼ばれる黒髪山を朝越えたと、黒髪とのきぬぎぬの別れのあつたように木の下の露でしほりと濡れる。）

般若寺 コスモスと本堂



てしまったよ。）

ぬば玉の黒髪山の山すげに
小雨ふりしきしく思ほゆ

【万葉集】巻十一一二四五六

（黒髪山の山の草に、小雨が降りしきるように、後から後からしきりなしに、黒髪の愛しい人のことがしきりに思われ。）

般若寺

般若寺は木津川を越えて奈良平城京に入る奈良坂の鞍馬地を占めている。東大寺造立の根拠地ターミナル寺院般若寺は、大和と山城（昔）の国境、南都と平安京との主要な交通路上にある。興福寺・東大寺がよく見通せる軍事的要衝は、しばしば戦場となった。治承四年（1180）平重衡は南都攻撃の際、般若寺を本陣として焼討ちを行った。大仏殿の巨船にも似た堂を眼前にし、右手に興福寺の五重塔を望むこの地が、作戦本部となったのもうなずけるし、大仏殿焼亡の却火は世紀の見せ物であったろう。

元弘の乱、さらに永祿十年（1567）の松永久秀と三好三人衆の権力闘争など、般若寺の歴史は戦いと深い関わりをもっている。

鎌倉時代に般若寺は復興の機を得て、十三重石塔が民衆の信仰の結晶として造営される。続いて文永四年（1267）には西大寺中興観摩上人発願の文珠菩薩騎獅像が本尊に迎えられた。

北山十八間戸

北山十八間戸は鎌倉中期、寛元元年（1243）、西大寺の敬尊上人の理想を継承し実践した忍性が、ハンセン病患者を保護・救済するためにつくった福祉施設。「元亨釈書」によると、ハンセン病の歩行不自由な者を晩に背負つて市に置き物を乞わしめ、夕になると之を負つて送り返し寒暑といえども欠配することがなかったという。

はじめは名の通り奈良の北山、般若寺の北東にあつたが、永祿十年（1567）に戦災を受けて焼失し、寛文年間（1661-1672）に現在地に移された。

鎌倉時代の姿を継承した白壁瓦葺きの東西約37坪の細長い建物は、十八室に区切られている。東端の大間に仏間がある。裏戸には「北山十八間戸」と刻まれている。大正十年に国の史跡に指定されている。

南西に開け奈良盆地が広々と見渡せ、世の中から悲惨な虐待を受けた人々を慰めるかのように見事な眺めである。

奈良豆比古神社の祭舞

秋祭りの宵宮、10月8日の夜「翁舞」という能楽の古い形を残す舞が奉納される。志貴親王（天智天皇第七皇子）の子春日王の病氣平癒を祈願して舞つたのが始まりという。平成十二年重要無形民俗文化財に指定されている。

町内の翁講の人たちによって演じられる。篝火に照らされるなか、神主・笛・小鼓・大鼓・地頭・地謡・三番叟・脇・千歳・太夫の順で拝殿に進み、中央で左足立て膝の形を取つて拝礼し着座。笛の吹き出しによつて小鼓が打たれ、大夫が「とうとうたらりたらり」とと踊り前詣が始まる。

次に千歳舞。千歳が「なるは滝の水日は照るとも」と長寿を祝いながら舞う。「千年の鶴は萬歳楽とうとうたり」と大夫舞。大夫に脇のふたりが加わり「天長地久こまん円満、」とと富貴栄華を祈願する翁三人舞。三番叟と千歳との問答。互いに向かい合うことなく神へ語りかける。最後に三番叟の後舞。



北山十八間戸

コース概観

奈良市街の北、平城山は「万葉集」にも多く詠まれ、遠い日の物語や歌を聞かせる所であり、美しい古寺や庭園、墳墓を見せてくれる。大宮人の跡をたどると、かなたの山並から春日山原生林まで見渡すことができる。奈良市街を取り巻く自然がいつまでも保たれることを願いながら佐保周辺から黒髪山界隈を歩いてみた。

近鉄奈良駅下車。登大路を東へ。登大路駐車場を左に折れ、かつての奈良坂越京街道に入る。転害門(国宝)は東大寺創建当時の姿を残す唯一の遺構。江戸時代は奈良の表玄関で京街道沿いに旅館や商店が立ち並び賑わった。北に進み佐保川に架かる佐保橋を渡る。道が二股に分かれる。左は奈良少年刑務所。赤レンガ造りの重厚な建物が美しい。明治の洋風建築を代表する建造物である。右の道を上る。右手に白燈に囲まれた瓦葺の細長い建物、北山十八間戸がある。向かいに永正六年(1509)興福寺僧浄風遺立の銘がある夕日地蔵が立つ。会津八一の歌。

ならさかのいしのはとけのおとかひに、こさめなかるるはるはきにけり。奈良坂(般若寺越)と呼ばれる道は、東大寺建立時に木津川で水揚げされた木材を運んだ道であった。平安時代中頃には「初瀬には、あなおそろし。奈良坂にて人にとられなばいかせむ」(二更日記)と書かれた、山賊や追剥が出没した道でもあった。南都焼き討

ちで、東大寺炎上の罪を問われた平重衡が木津川の河畔で処刑され、首を鼻されたのも奈良坂だった。吉川英治が描いた「宮本武蔵」の「般若坂の決斗」の舞台もこの坂である。

般若寺に出る。鎌倉時代の楼門(国宝)が実に繊細で美しい。雄大な石造十三重石塔(高さ11.2m)が屹立している。初層塔身に刻まれた見事な四方四仏。荘厳華麗な薬師(東)阿弥陀(西)釈迦(南)弥勒(北)の顕教四仏。建長五年(1253)頃に東大寺の再建に従事した宋の石工伊行末らによってつくられた。子の伊行吉が亡父の追善供養と母の無病息災を願い建立した笠塔婆二基(重文)、元弘の変で大塔宮護良親王が難を避けた経蔵などが残る。石仏を彩って咲くレンギョウ・ヤマブキ・アジサイ・コスモスなどが美しく、花の寺として知られる。

楼門前の植村牧場さんのソフトクリームが美味しい。ランチも楽しい。北に進むと奈良豆比古神社が鎮座する。中央に、産土の神・平城津彦神、右に

奈保山(東陵、西に第二代元正天皇の奈保山西陵があり、母娘が並んで葬られている。文武天皇が亡くなった時、首(あたま)皇子(後の聖武天皇)は7歳、草壁皇子(後の元明天皇、文武天皇の妹の元正天皇)が続いて立ち、成長を待った。

「黒髪山神社」と鳥居に書かれた小さな楠荷は、鮮やかな朱色の鳥居が奥まで続いている。「史跡 大黒芝 佐保山西陵七ツ石 聖武天皇生母藤原宮子后宮嘉陵石」と記された看板がある。宮子は文武天皇の夫人。首皇子を産むが心的障害に陥り、長く皇子に会うことはなかった。聖武陵の西北、大黒芝と称する地で火葬にされ葬られたという痕跡をとどめている。

南のこんもりとした木立は聖武天皇の基皇子の那富山墓。獣頭人身像を線刻した半人石が墳丘の四隅に立つ。光明皇后を母として誕生し、生後33日で皇太子となり国をあげて祝福されたが、翌年満1歳にも満たず病没する。

「続日本紀」は「天皇甚だ悼み惜しみたまふ」とつけ加えた。



黒髪山付近略図

すこし行くと奈良ドリームランド跡に突き当たる。胸躍らせた子供の頃は思い出として色褪せていく。

鴻ノ池陸上競技場の奥の平城山万葉苑に大養孝博士の書かれた歌碑がある。鳥玉 黒髪山 山草 小雨零散 益益所思

閑静な住宅街の間の坂を南下して、興福院の前から近鉄奈良駅に向かった。

〈コースタイム〉

近鉄奈良駅(25分) 転害門(15分) 般若寺(5分) 奈良豆比古神社(15分) 黒髪神社(15分) 興福院(15分) 近鉄奈良駅

△地形図V2万5千:奈良

△費用V
近鉄奈良駅→近鉄奈良駅 540円
般若寺 500円
問い合わせ先
般若寺 ☎0742(22)6287
奈良豆比古神社 ☎0742(23)1025
植村牧場 ☎742(23)2125

山の地名を歩く⑦

知床岳

西尾 寿一

「知床」の名はアイヌ語の「シリ・エトク (Siritokko) を和名訳した日本語である。

シリ・エトクは北海道とその周辺のアイヌ語圏にいくつもあり、礼文島・カラフトのものはよく知られている。その意味するところは、「地の突出部、つまり地の涯」となり通常、岬となつている。(北海道の地名(山田秀之)。

観測地探検の松浦武四郎も「ヌサウシ、第一岬、則此所をシレットクコ云ふなり」(「知床日誌」)とあるから、シリ・エトク、つまりシレットコは岬という決着をみている。

法が違っているだけだ。問題はチャチャスプリアが羅臼岳なら、図面上のラウシ岳(羅牛岳)は半島の付け根の別の山になつてしまふ。

「知床日誌」の他の部分でチャチャノホリは知床の最高峰で「羅臼岳」とあるから、これは現在の「羅臼岳」とみられ、図面との差異がみられ混乱するが、「知床日誌」を解題し、現代語訳にした丸山道子氏は新しい「知床日誌」でこの点を指摘しつつも、なお不思議な点は残ったままである。

松浦日誌で「石門のかなたには、ヲファイ岳、あるいは知床岳と呼ばれている山が見えるが……」とある石門とは、おそらく現在の観音岩で海岸まで迫り出して通過困難な場所、これに乗越すと一気に海岸が開けてヲファイ岳(現在のウイスプリアと思われる)と知床岳が見えることになつている。続いて「ホロムイ岳があり、そこから見える山がホロムイ岳で……」とあるのを、先の現代訳の丸山道子氏は注釈で、「ホロムイ岳は知床岳」と言っている。

ところが、アイヌ族は生活に密着した場所を細かく特定して地名を付すので、半島のうちのどの突出部をいうのが問題となる。その辺り帯という漠然たるものではすまない。

松浦武四郎は、その部分を特定して「オ・サ・ウシ・イ」山が尻を浜につけている処。となつて、そこが「ヌサ・ウシ」海神の幣場のある所。つまりその場所が岬で、岬の先端の少し西に寄つた場所であると特定される。

小生はこの場所を知っている。確かに山足が最も海に突出した所であり、少し平坦な場所もあつて鮭の定置網がある。知床半島を縦走して地形図を失い、コンパスを真北にして尾根を忠実にたどり着いたのがヌサウシだった。この厳しい知床半島の背骨の先端が海中に没する位置こそがヌサウシで、神の幣場だったのだ。ヌサウシがオサウシとなり、そしてシレットコとなるわけである。

シレットコは始め「岬」の名をもつ村(コタン)の名であつたものが次第に出た。実は、ホロムイは現在のポロモイで浅い湾になつて番屋が数件ある所だが、そこから知床岳は見えない。知床岳は半島のウトロ側のポトピラベツ川付近の海上5、程沖から見ることが可能だが、松浦日誌・丸山日誌とも、ポロモイ台地から北に続く△992・4位の通称ポロモイ岳一帯を、知床岳と認識されたようだ。

松浦武四郎を案内したアイヌ人が地元民と共に知床岳などという山名を指摘したとはどう考えても考えられない、シレットコは岬の先端にあり、山名ではないからだ。

アイヌ民族は生活に直結する海岸線の浜や川筋に興味を示すことはあつても、山の尾根や頂に登ることはなかつたのではないかと思われる。

おそらく、松浦武四郎一行を案内したアイヌ人たちは和人が興味を示した山頂の名を知らず、コタンや浜、河川、特徴的な岩などの名を教えたのである。観音岩を越えたとウナキベツ川が海に入る浜には一軒の番屋があり、川

世して人が住まなくなつてもなお、名前だけが知られるようになっていった。知床の名は今や半島全体の代名詞となり、自治体名にもなり世界遺産となつて大変な出世を遂げている。

その知床の名を付した山が半島の最高峰でないのはなぜなのだろう。その謎を解くのはやはり松浦武四郎の「知床日誌」に頼るしかないようだ。

日誌には半島の地図が付されており、びっしりと地名が書き入れてある。それによると、ラウシ岳は現在のラウス岳とすると、半島の先に向かつてイワヲノホリ(岩尾ヌプリアで現在の破黄岳)となり、次にチャチャノホリがある。これが難題で、チャチャとは「祖父」のことで、チャチャスプリアは北方の島にもあり、まずその地域の最高のスケールをもつた山である。

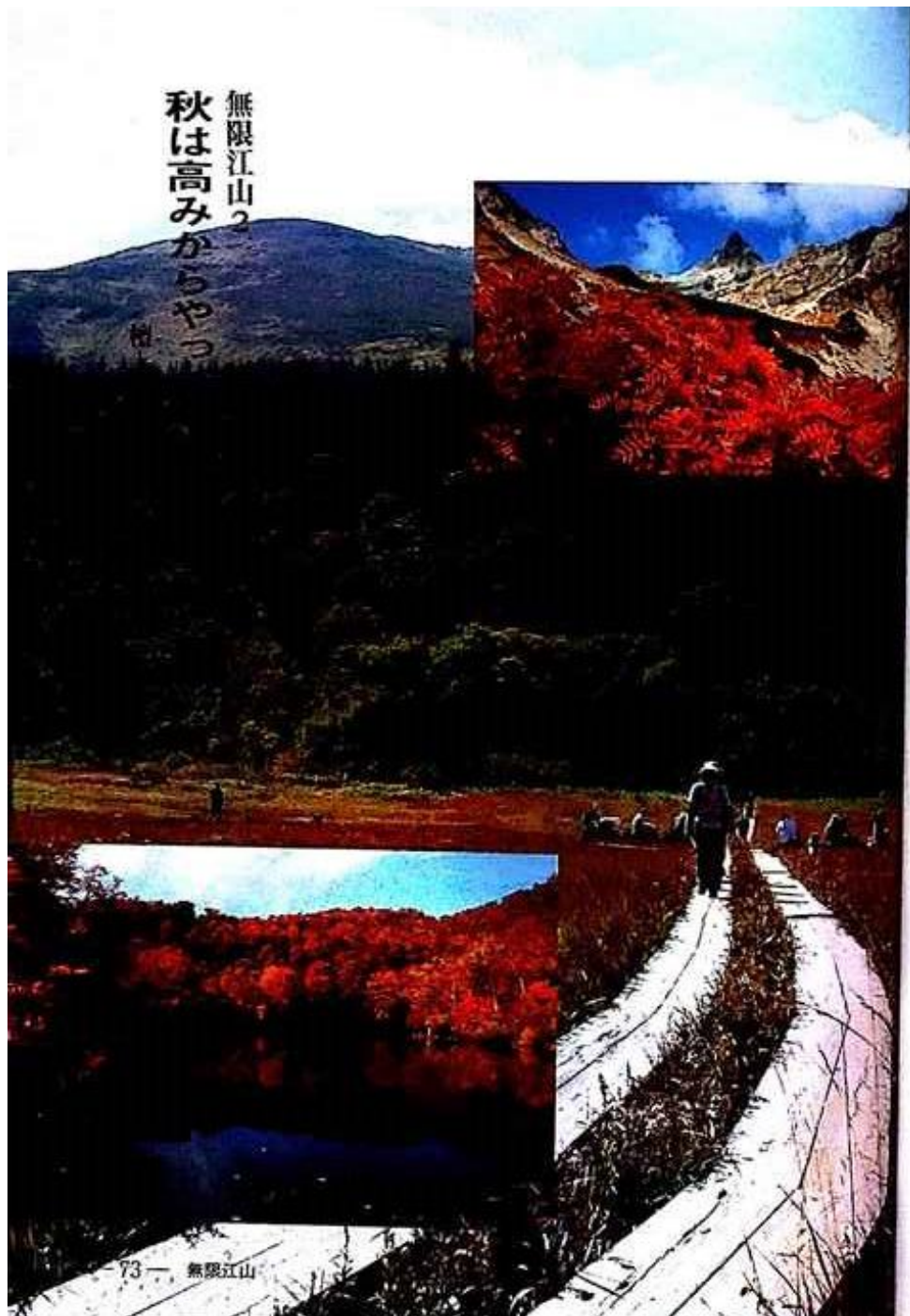
しかし、その位置は現在のものとは全く異なつている。ホロナイノホリ(ポロモイ岳)・ウファイノホリ(ウイスプリア)もルシヤ川以北であるはずだ。ノホリはヌプリア(岳・山)のことであり、表現

名のウナキベツを使っているが、昔はホロムイであつた。丸山日誌ではホロムイ岳は知床岳である、と注釈している。

ポロモイ岳の北には知床半島最先端の△651・9位があり、これを通称ウイスプリアと呼んでいる。松浦日誌に付属する地図に「ウファイノホリ」や「ヲファイ岳」が出てくるが、同じ山で現在のウイスプリアである。しかし、それらの山を知床岳とするのが松浦・丸山両日誌で難解である。松浦日誌に付属する図面によれば、ルシヤ川と呼ばれる川が半島の両側から水源に向かつて浸食する特徴的な鞍部から北には一つだけ山名が書かれており、その山名は「ウファイノホリ」で、位置関係からみてこれがどうしても知床岳になつてしまふ。松浦日誌のデータ処理の困難さが浮き彫りとなつた形だ。

知床半島の山を歩いた最初の人はずいぶん前に積雪期に狩場として利用したもので、登山者のように山頂を目指したのではない。

無限江山？
秋は高みからやっ



したがって、海からの視点をベースとしながらも、陸上に行くアイヌ狩人の使う地名を集約できれば完璧なものになったのかも知れない。

日本の山で初登は誰か、の質問は意味をなさないが、強いて言えば三角点を埋めた測量班だったのだろう。

知床の魅力の最大のもは「地の涯」の強烈なイメージである。リアス式海岸の日本には地の涯はたくさんあるが、知床がその代表として独占した形になったのは、半島の先に人が住まない、北方領土を見る好位置、放置されてきた豊かな自然環境、などが挙げられ、半島先端への憧憬などがある。

知床プームは周期的な波となって現れるが、小生の20代の頃も各大学ワンダーフォーゲル部の初縦走競争が繰り広げられた。松の太木を寝かせたような道松や人を寄せつけない強靱なやぶとの戦いに、鋸や山刃を使っていくつかの隊が成功した。

そんな時代の昭和38年夏、小生と友

人のたったふたりがサポート無しで半島の縦走に出かけた。無謀だと言われたが自信はあった。

まず、ウトロから船で半島を観察し、岬の先端に降りしてほしいと頼んだが不可能だった。

ウトロから羅臼平にテントを設置して、羅臼岳から硫黄山などを縦走して羅臼へくだる。知内別まで人が住み、その先は徒歩で観音岩を越えウナキベツの番屋へ着いた。一軒だけの番屋に不用な荷を預け、5日分の食料を持ってウナキベツ川を遡って行く。情報では、大学隊は知床沼のあるポロモイ台地をテント場としたらしいが、小生たちは短期決戦なので急峻なルンゼを直登して△1181・81をテント場とした。知床岳は西へ1・2の先である。動物の強い臭気がするが、疲労ですぐ寝る。翌朝、道松を分けて山頂へ。オホーツク海に半島の先端が刃を突き立てたような不思議な形状がめずらしく、去り難い先を急ぐ。

ポロモイ台地では知床沼から大量の

水が得られ、大部隊のベースに最遠とみえて踏跡がある。しかしその先は猛烈な道松の海となった。ポロモイ岳で日没ビバークとなる。3泊目はウイヌプリとの中間点。4泊目はウイヌプリ山頂、5日目にしてようやく岬へ出て、海岸を赤岩の番屋まで歩く。6日目は漁船でポロモイへ向かい、後はウナキベツの番屋まで歩いて帰りついた。7日目、再び漁船で知内別に戻り羅臼へ。長くてもわたらしい日々だった。

小生はこのとき足が大根のように腫れて歩行困難となり、急ぎ釧路の病院へ。手術でダニの頭部が二ヶ所から摘出され、尻にペニシリンを打つても出なかった。ツェルト一枚だけ、寝袋なし、着替えなしの貧しい装備のツケが廻ってきたのである。

知床岳は今日でも一般向きの山ではないが、ポロモイ台地のルートは踏跡が道になっていくようだ。その他の半島部分は昔とほとんど変化はないと思われ、国立公園・世界遺産の綱がかけられ入域禁止の部分もあるようだ。

自然の諸相の中でも紅葉は、昔の人が残し伝えてくれた豊かな自然あつたものであり、雪の積もる厳しい冬に向けての準備をしている姿である。滅



山あたりから北へ行けばブナの純林となる。紅葉はひとからげにして考えられがちだが、山によって実に多彩で、個性的なものである。

北は冬に積雪の多い中央分水嶺から南は亜熱帯気候の南紀まで、私たちの住む関西は気候や植生の移行帯にあつて、山の高低差とあわせて南北差の変化を手軽に楽しむことができる地方ということが出来る。さらに伊吹山以北の湖北の山の頂に立てば、白山ばかりか北アルプスの槍・穂高、乗鞍、御嶽山が並び立つ様をはっきりと見ることが出来る。

私は山という自然に多くのことを学んできて40年になるが、これだけ続けられても飽きるところがますます山の虜となつていく。生きものには縄張りがあるように私にとつても身近な生活圏内に並び立つ低山に親しみ、その先にそびえ立つ高みがあれば、それにも通い、自らの版図に組み入りたいと願つてきた。

日本アルプスといえども山上に至る

びゆく美しさなどではなく、春を迎えるための壮大な儀式であることがわかる。全山紅葉の感動的な点描の世界から学ぶことははかり知れないほど多い。

私たちの前に広がる無限江山のすべてに輝かしい歴史があり、その多くは埋もれていてそれを知らないだけだが、だれもが親しむ紅葉の名所を例にしてみるとわかりやすいかもしれない。

上高地には3000以上の植物の垂直分布があつて、日本を代表する紅葉の名所のひとつといえるだろう。そうして一度は見えておきたい名所のすばらしい風景を、ここを越えていた鎌倉街道の古い時代から、眺めた人がいたと考えてみるといい。その時代の人と私たちは共通体験をしていることになり、味わいは二倍にも三倍にも増すこととなる。まただれもが山に登つた感動を家族や友人に伝えるが、それはとても大切な作業であると思う。

感動とは、私たちの先の世代からバトンを受けて次に伝えることであると私は思う。それは謙虚な気持ちで書か

まで先人の足跡が印され、その自然は大型動物を頂点とする豊かな生態系が育まれていく。先人が歩いた古道を忠実にたどり、生きものが通るけもの道を自由に歩くことができたなら、それはどれだけすばらしいことだろう。

自然は、その広がりや横軸、時系列が縦軸で考えられると見えやすい。歴史は自然そのものの歴史と自然の中で人間の歴史があるが、それらをあわせてはじめて山の全体像が見えてくる。40年といえば、伐採地であつたところが二次林の森に戻るくらいは時間であり、私にとつて貴重な自然を見るモノサシとなつていく。

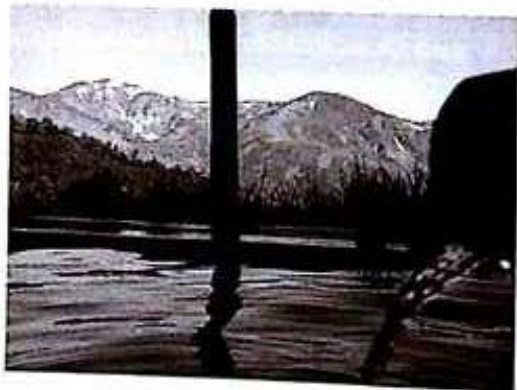
自然に興味をもつ人たちの間で、里山という言葉が氾濫しているが、人間の意のままになる自然の領域という過つた使い方が多い。道標の歴史をふりかえつてみれば、里山とはあくまで願ひであり、幻想であることがわかる。その逆に原生自然という言葉にも同様の危うさを感じる。木地師、山師、猟師を始め、山に生きた人たちの歴史を

れた先人の山の木に親しんだり、尊敬する先輩の取り組みを目の当たりにして、私たちの山登りがあることからもわかる。

長い槍沢を登り水河公園で見える槍ヶ岳の雄姿も、尾瀬の木道での憩いも、それを肯定的に受け止めているからこそ、大きな感動が生まれるような気がする。妙高の影に隠れていた雨降山（アメノリ）のすばらしさも、百名山の本を讀んだことが大きくプラスしていることはまちがいない。残雪や新緑に包まれた姿以上に紅葉の山は私たちの心を揺さぶるほど美しい。

日本の紅葉は外国のものとは違うというが、それは森が単一の樹木が優勢となる極樹林と気候の移行帯特有の常緑樹と落葉樹の混生林という森の違いが大きいようだ。日本列島でも北海道や東北日本と西南日本では森の様子が随分と違う。ブナ林をとつてみても私のホームグラウンドである湖西高島トレイルのブナ林などミズナラやアシウスギが並び立つブナ混生林であるが、白

追えば、足跡が印されていない領域など日本列島にはないことがわかる。人の踏み入つたことのないというような概念を外国から持ち込みあてはめただけで、これまた虚構というほかない。これらを体験的に知る登山者は自然の使者として正しく伝えたいものだ。



(里山シリーズ52 河内・熊川)

楽しいブナ林の県境尾根

寒風山から628メートル峰

一般コース(★★)

長宗 清司

JR近江今津駅からJRバス小浜行きに乗り、天増川口バス停で下車。

左後方の擁壁上に閃電が金属製の梯子階段を新設。これに取り付き、やせ尾根から鉄塔下に出て寒風山を目指す。背後には熊川宿が細長く望める。コブを二つ越し、蒲鉾型の尾根を登り切ると、高島鉱産の採石場最上部に出る。展望がすばらしく一大パノラマだ。北方には、国道をまたいで湖北武奈ヶ嶽(古名・武神嶽)が堂々と腰をすえた格好でそびえている。

尾根が削られて、細々と馬の背状となり、西側の谷には木が一本もない。急勾配の斜面は一応支付けしてあるが、横切るには大変危険だ。注意を払って次のピークに向かう。やがて県境尾根487にかかる。このあたりからは根曲がりブナを含む自然林が広がる。昔は、ササやぶだったと思われる尾根も、今はシカの食害?によつて下草もなく、ゆるやかな斜面や鞍部からは先が見通せて歩きやすい。まだ葉の無い木々の間からは、周辺の山並が遠望できる。落ち葉の積もった地面は、弾力さえ感じる快適な県境尾根である。559.6の三角点があるピークが寒風山で、倒木?伐開で広くなった台地に礫石は容易に見つかった。落ち葉の尾根道は足に優しく、歩行距離の二つ目のピーク487を越えてしばらく高低差のない尾根が続く。登り切った小ピークや、疎林で展望のきく位置に立つと、三十三間山や百、里ヶ岳が確認できる。

昔は、「小原峠」とか「河内越」と呼んだ鞍部を通過したが、このあたりは、東の椋川集落から河内集落へ行き

寒風山 三角点



来したのであろう。今はその面影はなく、自然に還っている。

やせ尾根の続く453あたりで大きな岩塊に出くわした。有名な山の途中であれば、その形から何なりと名前を付けるだろうが、地元の人でも入らない県境尾根は、林業者以外はその存在を知らない。

今日のコースでいちばん高い562のピークを過ぎたあたりで主尾根の位置をコンパスで確認する。やがて、過日、雨のなかを林道終点から支尾根上へ導く白杭を数本、下見がてらに訪ねたさいに見つけた628峰に着き、ほっとする。目的を達した安堵感で、林道終点地に踊るように下り立つ。

あとは成り行きで、山の斜面を腹巻き、幾度か小谷をU字状にまたいで高度を下げ、明神谷道に出る。ついこの間まで、かすかに残っていた森林公園

への近道、風情ある白石神社の小さな森、駒ヶ岳と明神谷の交点にあった茶店風の宿「やまびこ」など、ダムが出来るために跡形もなくなり、熊川宿背後の山の裏側(南側)中腹に集落ごと全体が移転してしまった。その代わり、明神谷と河内林道の交点近くの向こう側に移転後の集落への取付道路が工事中だった。

明神谷との交点から川下に向かって歩くと、左手、高い位置に架かる赤い橋を確認してT字路を左折。この鉄橋

の下を通り抜けて谷沿いに登り切ると道は二分する。今度は右折して腹巻き道をたどれば新河内集落に出る。掃路は、反対へ集落を抜け、いちばん外れにある「リステルやまびこ」で汗を流すのもよい。遅くなれば宿泊も可能である。

最後は熊川宿の手前、河内川上流50

ほどの所に出る。

《コースタイム》

JR近江今津駅(バス23分)天増川口バス停(30分)採石場最上部(1時間)寒風山(1時間20分)P628(10分)林道終点(1時間15分)河内林道と明神谷との出合(45分)熊川宿(3分)橋町バス停(バス28分)近江今津駅

△地形図V2万5千。熊川・妻庭野(問い合わせ先)

西日本JRバス(近江今津営業所)

0740 (22)2136

福井県若狭町上中観光協会

0770 (62)1111



古代遺跡を巡る

貝吹山から益田岩船

一般コース(★★)

数木 伸人

3月28日、近鉄で飛鳥へ向かった。目指したのは高取町・橿原市境の貝吹山だが、せっかくなので周辺に点在する古代遺跡も巡ってみることにした。

飛鳥駅北側の踏切を渡るとすぐ、右手に岩屋山古墳(7世紀)がある。高さ121程の方墳で、立入自由の玄室内は天井高2.6mと案外広々としている。

貝吹山までは古墳を経由して行ききたかったが、道がわからなかったのだった。やがて貝吹山登り口の目印となる乾城古墳が見えた。この円墳は崩落

が進み、シートで覆われていた。玄室内天井高は5m以上あったと推測されているが、羨道入口から覗いて想像するほかない。

少し戻るように右方向へ進むと、貝吹山登り口の標識がある。登路は明確で、途中竹林を上って行く。杉の枝で孟宗竹の節間を叩いて楽しんだ。矢竹が出てくると頂上は近い。ロープの垂れた急坂を上ると、城跡に特有の遺構が見えた。かつて越智氏の城砦があった山頂には三等三角点が埋設されている。核には早く、展望もわずかだった。

次の目的地、真弓鎌子塚古墳はどこだろう(乾城古墳の脇にも「鎌子塚」への道標があり、おや?と思ったが、これは与楽鎌子塚という別の古墳だと後でわかった)。地図を見ながら明日香村に戻ってすぐ(道標は無かったが)左の道に入ると、真弓丘陵の鎌子塚へはすぐに着いた。遠くからも、その円墳の全景がわかったが、残念ながら立入禁止。山際の道を先に進んでお地蔵さんの

益田岩船



前を左に折り返し、峠のような所でわかりづらい目印に従って右折すると(直進すると益田岩船に至る)、牽牛子塚古墳に着いた。珍しい八角形墳の可能性が強いとの説明があり、興味深く玄室内を覗いた。「牽牛子」は朝顔の漢名だが、古墳名の由来は書かれていなかった。

飛鳥駅前で戻って昼食をとった後、今度は東へ向かった。7世紀後半の古墳石室の蓋石である鬼の雪隠と底石である鬼の俎を見た。鬼の雪隠は、コン



貝吹山付近図

クリで固められたうえ、無粋な鎮で囲われており、興ざめだった。あるがままの姿で保存しておいてほしかった。再び西へ戻る欽明陵への道すがら、犬養孝先生揮毫の万葉歌碑を認めて足を止めた。

佐楯乃熊 拾限川之 瀬平 早
君之手取者 將縁言説

(巻七-1109)

(拾限川の流が速いので、あなたの手を取って渡ったなら、人が噂するだろうか)作者未詳らしいが、初々しく微笑ましい歌だ。

明日香村では唯一の前方後円墳、欽明陵では、カイツブリの声を聴き、ミシシippアカミガメに目を留め、吉備姫王墓では、ユーモラスな「猿石」に見入ることしばし。

最後にぜひ見えておきたかった益田岩船に向かう途中、偶然、中大兄の三山の歌碑を見つけた。こんもりした小山は沼山古墳(円墳)で、ここも南側に開口部があった。

岩船には、登り口からわずか3分で

到着した。下部には格子状の削り痕が生々しく残り、上面には方形の孔二つが天水を湛えて竹林を覗んでいる。何とも不思議で巨大な石造物だった。これが何に使われたのかについては、古星台、物見台、碑の台など諸説あるようだが、見ているうちに、やはり何らかの建造物が上に載っていたように思えてきた。台石がこれだけの大きさで、上面の孔が柱を固定するために利用されていたと仮定すると、かなりの高さの建造物だったのだろうか。

春の日の遺跡巡りを堪能して、近鉄岡寺駅から帰りの電車に乗った。

《コースタイム》

近鉄飛鳥駅(2分)岩屋山古墳(25分)乾城古墳(35分)貝吹山(15分)乾城古墳(15分)真弓鎌子塚古墳(10分)牽牛子塚古墳(12分)飛鳥駅(25分)鬼の俎(15分)猿石(25分)沼山古墳(10分)益田岩船(20分)岡寺駅
△地形図V2万5千・畝傍山

近江滋賀里より崇福寺跡を経て
夢見ヶ丘(青山)から壺笠山

一般コース(★★)
松尾 一郎

登りは滋賀里から東海自然歩道をと
り、天智天皇の時代に創建された崇福
寺跡に立ち寄る。際川源流をつめて比
叡南部主稜ピークの青山から東へ突き
出た支尾根に取り付き、琵琶湖の好展
望地である夢見ヶ丘(青山)に足をの
ばす。

帰路は旧白鳥越の一部である支尾根
に戻り、尾根突起の神輿山と壺笠山に
登り、穴太・唐崎へ下山する。

壺笠山山頂付近には戦国時代末期、
天下統一を目指す織田信長と抗争を繰
り返した越前朝倉氏が築いた山城の石
垣が一部残っている。



夢見ヶ丘一望

寺支院「弥勒堂跡まで80m」の標識が
右手に立っている。ここも礎石と説明
板があるだけだ。

なおも際川沿いに左岸林道を行くと
道は再び右岸に移り、上流には小型の
堰堤が連なり、やがて林道が終わる頃
再度左岸に移る。際川源流部には新し
い巨大な堰堤群三基が行く手に立ち上
りだかっている。ここより文字通り自然

京阪滋賀里駅で下車。西へ県道を渡
り、志賀八幡宮境内で左に曲がって通
り抜ける。東海自然歩道を西進し、西
大津バイパス(国道161号)陸橋を渡
る。古代渡来人の墳墓である百穴古墳
群を右に見ると、左より際川が近づい
てくる。

簡易舗装の林道が際川を渡って右岸
に移ると、右手の小さな御堂に志賀大
仏が鎮座している。さらに西進し、志
賀越を左に見送ると砂利道となり、崇
福寺金堂跡(注1)を左に分ける(道
標あり)。史跡まで200mの登りな
ので立ち寄ってみたい。礎石のほか、
「崇福寺舊址」石碑と説明板が設置さ
れている。

分岐へ戻り、際川右岸を測ると林道
は北に向きを要えつつ薄暗い切り通し
を過ぎ、やがて谷から轟音が聞こえて
きて、右下の川原に金仙滝が現れる。
落差5mにも満たない小滝だが水量豊
富な五段の立派な滝で、川原に下りて
ひと休みするのもよいだろう。
金仙滝の上流部で左岸に移り、崇福

歩道となり、際川の水流は左(右岸)
の狭い支流の方へ移り、広い谷の本流
に通常水の流れはない。

際川源流部は急勾配なので、豪雨の
ときなどの山津波防止のため、平成16
年に下流側に新たに堰堤三基が建設さ
れた。この堰堤群を見上げながら、い
よいよ山道に取り付き。第一堰堤は左
岸を高巻き、次いでいったん川原に下
りて湖沢を渡って右岸に移り、第二堰
堤は右岸を高巻き。第三堰堤は左岸を
高巻き、以後は際川源流左岸道を登り、
古い第四堰堤を過ぎると、第五堰堤に
たどり着く。

ここが際川源流部で、比叡主稜・夢
見ヶ丘(青山)から東に派生する尾根
道(旧白鳥越)への取付点だ。登路は
端から急な木の階段が始まり、尾根直
前までは急勾配が延々と続く。うんざ
りする頃に階段は終わり、左へ廻り込
むように旧白鳥越の尾根道に登り着く。
木目状の安全橋でガードされた東海
自然歩道を西に進むと、やがて自然歩
道が右へくだる小宅谷下降点に着く。

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルな
デザイン。トップとフロントに大型のポケット、
両サイドには、ストック等の収納に便利なラウンド
ポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰り
から一泊用のノンフレームの軽量ザックです。

☆25L☆

- ・カラー フルーメンイビー・レッド×イビー
・ブルー×イビー・スレンジ×イビー
- ・重量 328g
- ・素材 ナイロン/ポリリップ
- ・価格 ¥13,500

イモック山道行くらぶ
春夏秋冬、季節を問わず、
登山・登山・登山を問わず、
お気軽に御参加下さい。
詳細はお問合せ下さい。

イモック
KORSE
〒603-0028 神戸市東灘区東灘4丁目1番10号
カフゾノビル
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:30-20:00 日曜日休業



「崇福寺舊址」石碑



夢見ヶ丘へは、まっすぐ進んで比叡山
ドライブウェイに出て、車道脇を行け
ば夢見ヶ丘(注2)バス停に着く。琵琶
湖・大津方面の展望が良い。

眺望を楽しんだ後は、先ほどの小宅
谷下降点まで戻り、このコース最高峰
の青山(535)へも登ってみよう。
山頂が行き止まりで展望は無い。尾根
道に戻り、先ほど階段を登ってきた自
然歩道との分岐に着く。壺笠山へは左
の尾根道に入る。あまり踏まれていな
いが、しばらくで鳥居の柱だけが残り
三差路に着く。左は四ッ谷川(平子谷
林道)へくだる道。

壺笠山へはまっすぐ神輿山(約
440)を乗っ越すもよし、右へ山
腹道を捲くのもよい。先の鞍部で捲道
は山頂ルートを併せ、浄利結界跡碑の
前に着く。すぐその先で右に大谷から
登ってくる踏跡(注3)を見て、雑木
林の崩壊地を慎重に左に高巻き、次い
で小沢状の岩場を捲く。薄暗い杉植林
を抜けると、左に穴太・四ッ谷川方面
への枝道(裏返った防火標識に案内表示

あり)を分け、壺笠山へはまっすぐ尾
根を行く。やがて中世城跡の石垣(注
4)が現れ、階段状の石垣を通り越し
て急登し、山頂の廻り道に出て左をと
ると、壺笠山(421)に着く(注5)。
山頂は雑木が生い茂っていて薄暗く、
眺望は北側に釜立山や比叡主峰がどう
にか見通せる程度だ。

さて穴太への下山は先ほどの分岐ま
で戻り、右へ曲がって穴生・四ッ谷方
面への下りに入る。途中ザレ場を慎重
に捲き、雑木のなかをくだって行くと
林道(土道)に飛び出す。下山口には「壺
笠山登り口」の標識が木の枝に掛かっ
ている。この林道を左(西)へやや
登り気味に進むと(右は行き止まり)、
すぐ右から別の林道がY字状に合流し
三差路(道標なし)となる。

ここは壺笠山と忠兵衛山(約390
)の鞍部で明智ヶ馬場といい、林道
をまっすぐくだれば四ッ谷川沿いの平
子林道に出て穴太へ行ける。旧白鳥越
穴太へはここで右へ反転気味に林道
(東方向)に入る。この林道は手入れが

行き届かず、草木がかなり繁り倒木も
多く、進むに促し道幅がだんだん狭
まる。林道はついに堀割状の山道と
なって、薄暗い道をなおもほとんど
下って行き、左へ登る小道(高圧電線
鉄塔Aへの巡視路)を分けると、鉄塔A
の右袂に着く。木の間越しに見上げれ
ば鉄塔Aがそびえており、地形図で位
置確認できる。

ここでは右に山道を二本(注6)分
けているが、いずれも行き止まりであ
る。ここはまっすぐ進み、なおも行け
ばルートは堀割道を離れて右(注7)
の植林の中に入り、そのままくだれば
穴太三丁目の住宅街へ出る。車道を住
宅街の中を右に廻り込むように行く。
やがて住宅街を外れ山中の車道となり、
東進すれば県道に出る。京阪穴太駅は
信号と踏切を渡ればすぐそこで、高穴
穂神社へは左の踏切を渡り住宅街を東
進し、神社裏の森から小道を行くと神
社本殿前に着く。堀割は鳥居の建つ正
面参道入口に出て、右へ南下するとJ
R唐崎駅だ。なお、京阪穴太駅からJ

R唐崎駅へは約10分。

(平成20年7月20日・9月7日・10月19日、
平成21年2月22日歩く)

《コースタイム》

- 京阪遊里里駅(15分)百穴古墳群(10分)
- 崇福寺分岐(8分)崇福寺舊址碑(5分)
- 崇福寺分岐(6分)金仙滝・弥勒堂跡分岐(20分)林道終点・第一堰堤(10分)
- 第五堰堤・階段道登り口(15分)尾根・壺笠山分岐点(17分)小宅谷下降点(3分)夢見ヶ丘(3分)小宅谷下降点(3分)青山(2分)小宅谷下降点(12分)壺笠山分岐点(2分)鳥居の柱(1分)神輿山(5分)浄利結界跡碑(10分)穴太分岐(8分)壺笠山(6分)穴太分岐(8分)林道下山口(1分)明智ヶ馬場(15分)山道分岐・鉄塔A下(10分)穴太三丁目(15分)京阪穴太駅(5分)高穴穂神社(10分)JR唐崎駅
- * (サブルート)明智ヶ馬場(8分)平子谷林道(35分)県道(5分)京阪穴太駅

△地形図V2万5千 京都東北部

(注1)崇福寺は、大和から近江大津へ遷都した天智天皇が大津京の弥栄を願って、天智七年(668)に創建した。肝心の大津京は壬申の乱(672)で灰燼に帰し廃京となったが、崇福寺は戦火を免れ奈良時代終末期まで隆盛を極めた。平安朝に入り寺運は衰微し、12世紀末頃廃寺となった。

(注2)このコース唯一の展望が期待できる場所である。夢見ヶ丘は毎年3月下旬〜11月末日間営業しており、喫茶・軽食が利用できる。なお、スーパードライ(ボブスレイ)・サイクルモノレールなどの遊戯施設(日曜・休日と夏休みの間営業もあり、童心にかえってみるのも楽しいだろう)。

(注3)このルートは唐崎道の一部であり、大谷川沿いに進むと遊里二丁目の自衛隊官舎北側に下り立ち、倭神社を経て京阪遊里里駅に通じている。中級向きコース。

(注4)天下布武を目指す織田信長に対し、一大抵抗勢力となった北近江の浅井氏と越前の朝倉氏は連合して幾度と

なく織田氏と干戈を交えた。壺笠山の山城は元亀元年(1570)の坂本合戦のとき、南方に築城された織田方の宇佐山城に対抗して、朝倉氏が築いた山城である。

(注5)壺笠山山頂から先への踏跡は、山頂を一周しており元の所に戻ってくる。(注6)1、右前方斜め尾根への踏跡は高圧電線鉄塔Bへの巡視路で行き止まり。B鉄塔から琵琶湖方面の見晴らしがよく鉄塔A・鉄塔Cが見え、これから下りる穴太三丁目の住宅街が見下ろせる(分岐→往復10分)。

2、右へ直角にくだる小道(木止めが置いてある)は地形図に記載されているルートだが、途中の丸木橋が朽ち果てており通行できない。

(注7)ここから左尾根に登る小道は高圧電線鉄塔Cへの巡視路だが、そのまま穴太三丁目の住宅街にくだることができ(10分)。

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。
 一行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、「ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。」

題字 故 小林破瑠三

5月18日、鈴鹿の駅通ヶ岳に拓かれた中尾根道を登ってきた。朝明沢谷へは、豪雨横復旧工事のため南からは車両進入不可。県民の森林由で入る。

見返橋に駐車し、崖崖谷を渡ってテント村へ。中尾根登山口の指導標から落葉樹林内を登る。随所で道を拓かれた方の労を思いつつ、快適な尾根歩きが楽しめた。駐車場から1時間で鳴滝コバに着き、因見方面を眺める。

登るにつれ雨乞も顔を出し、雨宿と県境後線も見えてきた。

大森のガレ手前から山頂部を降り、点在するシロヤシオが花盛りで、新緑との対比がすばらしかった。

歩き始めて2時間で最高点に到達。昔、林道を歩き鶴岳登山で登った時は3時間近くかかったのに、ベニドウグンの書が風に揺れ、コマドリが鳴いていた。崖崖谷道から来られた登山歴40年の男性が、とても気さくな方で下山に同行してくれた。話が途切れることなく楽しい時間となった。下山タイムは約1時間半だった。(谷原市 藤木伸心)

6月半ば、友人と矢田寺のあじさいを愛でようと近鉄南生駒駅に降り立った。

石仏や石標などを見ながら松木峠を越え、子供の森を過ぎると、矢田寺の薔が見え、参詣者も多く、梅雨空の下に咲くあじさいは、30種3000株ともいわれている。

味噌なめ地蔵の赤前掛け、大輪あじさいの青色、煙草のなかに映える本堂、堂前の石灯籠などの借景によって際立っていた。また、地蔵信仰の名刹で石仏の多いのでも有名である。

昼食は、南僧坊にて「昔茶(あじさい)弁当」を興味しながら、花と空間の中に身を置く。さきょう1日の無事を感謝し帰阪の途についた。(大森市 藤原豊彦)

高山を敬遠している私は海外でも此山に限定しているが、これまでにも最も印象に残っているのは、世界最大の一枚岩であるオーストラリアのエアーズロック

4月4日、例会で嶺山に行つた。オオミスミソウとキタザキイチゲは見事だった。

5日、奥獅子吼山ではカタクリが咲き出し、初見のキタバオウレンも多く見られた。

11日、美濃の北山では多くの花が見られた。50種ほど。

12日、藤原町での観察会。花も多くて60種ほど見られた。

18日、二つ森山に行つた。山頂の大岩に三角点が埋められていた。

19日、高時山(1563m)へ、西側から行くと展望が良かった。山頂にいたグループ5人は新ハイキング関西の会員だった。それも福井の人たちだった。

24日、オキナグサを見に塩尻の霧訪山へ。簡単に登れて保護された花を見た。その数10株。隣の大芝山も歩いたが、こちらもカタクリなどが多かった。

26日、オサンババの予定が雨で位山に変更。山頂部に雪が残っていた。これで東海三県の300名山は黒部五郎岳だけが残った。

29日、伊吹山の笹又から古道を歩いて山頂へ。ドライブウェイから上のコースは例会でも使えそう、秋にでも歩こう。

5月2日、初めて新田の山、梅海新道の尻高山に行つた。白鳥山が雪を被って見えた。

3日、佐渡のアオネバ沢谷からドンデン山を廻り、カタクリの敷に圧倒された。多くのシラネアオイも見られた。

4日、角田山に行つた。春から初夏の花に移行していたが多くがあった。ナゴユリは数えられないくらい群生していて、灯台コースの見晴らしも良かった。

5日、多宝山に行き、一等三角点と四角形の天淵点を初めて見た。三重・愛知のものは八角形。弥彦山には多くの人が来ていた。彌彦神社にも参拝した。

10日、例会で天蓋山と大嵐山に行つた。標高差が600m以上も2山だと1200mになり、きつかった。大嵐山の「次三角点」を見に行つた。

23日、17日に雨で中止とした南沢山と横川山に行く。白花の

ク(863m)の登頂である。

砂岩とは滑りやすいので雨天時は登山中止となるし、風の強い時は閉鎖され、気温36℃以上では登山禁止の制約がある。

1日目は、バスでエアーズロックを眺めながら山麓を一周した後、夕方のサンセット見学では雲ひとつない晴天の下、岩肌が茶色から紫色、そして赤色へと朝々と移りゆくさまを堪能した。

翌日はまだ晴い中を出発して日の出のエアーズロックを鑑賞した後、登山口へ廻って登山を開始した。

登山道は40〜45度の急傾斜であるため途中からは役に立たず、鎖に頼らざるを得ない。登つてゆくにつれ、雨雲が切り立つた崖となつている場所も出てくる。最も狭い所は実に狭く鎖がない場所もあり、もう無理である。「引き返します」と悲鳴をあげる奥様方も出るほどだ。平坦な場所に上り着くと、今度は風が激しく、吹き飛ばされそうな感じだった。

エンレイソウが見られたが終わりかけた。浜松からの団体35名他、40人が来ていた。

24日、観察会で御池岳へ。多くのジエビネが見られ、モリアオガエルの産卵も始まっていた。

26日、御池岳の西北、御池谷に新たなクラと洞が見つかったので見に行つた。その名も狸洞と狸クラ。その背大岩の炭焼きの人が呼んだネコマサノクラを探すと見つけた。狸洞の下部100m程に、私が背確認したネコマサノクラらしきイワクラはある。狸洞の中は大きく、高さは10m以上ある一種の鍾乳洞だ。

30日、青海黒龍山に行つたら予想外の展望があったが、北からの登山道は昨年から通行止めで西の横立コースのみ入れる。花も多くシラネアオイやサンカヨウが見られた。

31日、小雨の中、米山に行つた。原三角点を確認。あと二ヶ所、雲取山と下仁田(白鳥岩)にも原三角がある。

(海津市 山田明史)

その後は岩の波を乗り越えて進み、頂上に着したが、標高差約340mの登りに1時間を要した。一本一草もない岩上なので風も強く吹きまくっているが、有名なマウンテンオルガの遠望を含み、遮るものがない360度の展望は実にすばらしい。頂上を歩き廻ったり、方位盤の横に立ったりして写真を撮りまくつたけれども、9時には下山を開始せねばならず、滞在時間30分とは残念だった。

下山後はイマラングの展望台を訪ね、エアーズロックを感慨深く再展望した。さらにヘリコプターの遊覧飛行に搭乗し、エアーズロックの全容やマウンテンオルガを空から眺め下ろしたのである。夕方には、夕陽に包まれてゆくエアーズロックを背映とし、賑やかに野外ディナーを食した。

3日目は、リゾート内を歩き廻り、コインング展望台で感奮の気持ち込めてエアーズロックをじっくり眺めた。

(枚方市 東谷 窓)

山行計画
(9・10月)

新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一対)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確約のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなかった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日取りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパン契約)

- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
- ・入院保険金 日額 5000円
- ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解放時まで、事故があった場合は解放までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)
期日
住所〒
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
血液型
電話番号・FAX番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返付ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達しキャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3~4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6~7時間コース)
 - (やや難向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6~7時間コース)
 - (難向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください。(係から連絡はしません。降雨山行の様い方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

		9月		10月			
期日	行先	定員	リザーブ	期日	行先	定員	リザーブ
29日	丹波・三郎ヶ岳・北倉峠			3日	飛騨越中・水無山・金剛堂山	10	
27日	紀伊高原・雲山峠	30		4日	鈴鹿・神崎川	*	
27日	大峰・扇形山・笠木峠	26		8日	湖西・木地山峠・駒ヶ岳	24	
26日	敦賀・野坂山			10日	飛騨・西ウレ分水嶺	10	
26日	尾鷲・須賀利大池			10日	北八ヶ岳・横岳・穂科山	30	
26日	湖西高島トレイル・近江坂・寒風	24		11日	湖北・カナ山	24	
22日	比良・鵜川左段・湖山・トビ岩			13日	六甲・山寺尾根・摩耶山	26	
20日	比良・日本コバ・衣掛山	*		15日	台高・積取峠・大滝山		
19日	北アルプス・穂高岳三山	25		17日	湖北・太尾山城・鎌刃城跡		
17日	三重・アマネ山・黄田黒山	26		18日	台高・明神平・捨塚	*	
16日	醍醐・香羽山・行者ヶ森・高塚山			18日	敦賀・西方ヶ岳・燃燐ヶ岳	24	
13日	湖西・東山	24		22日	大峰・天狗堂・松葉山	26	
12日	飛騨・雁立	10		24日	京都市北山・品谷山・鹿村八丁	40	
12日	京都北山・五波峠・中山谷山	24		24日	京都市北山・品谷山・鹿村八丁	24	
10日	大峰・滝山・白六山	26		25日	飛鳥・高取山	30	
6日	鈴鹿・閉ヶ岳・七人山	*		25日	京都市北山・花背峠・大見尾根	40	
5日	奥美濃・釈道嶺・若丸山	10		29日	奥美濃・伯母子岳	26	
5日	湖東・金剛アルプス天狗岩			31日	比良・岳山・見張山		
3日	奥高野・古休場・六本松	26		31日	敦賀・岩籠山		

*リザーブは山行

		10月	
期日	行先	定員	リザーブ
3日	飛騨越中・水無山・金剛堂山	10	
4日	鈴鹿・神崎川	*	
8日	湖西・木地山峠・駒ヶ岳	24	
10日	飛騨・西ウレ分水嶺	10	
10日	北八ヶ岳・横岳・穂科山	30	
11日	湖北・カナ山	24	
13日	六甲・山寺尾根・摩耶山	26	
15日	台高・積取峠・大滝山		
17日	湖北・太尾山城・鎌刃城跡		
18日	台高・明神平・捨塚	*	
18日	敦賀・西方ヶ岳・燃燐ヶ岳	24	
22日	大峰・天狗堂・松葉山	26	
24日	京都市北山・品谷山・鹿村八丁	40	
24日	京都市北山・品谷山・鹿村八丁	24	
25日	飛鳥・高取山	30	
25日	京都市北山・花背峠・大見尾根	40	
29日	奥美濃・伯母子岳	26	
31日	比良・岳山・見張山		
31日	敦賀・岩籠山		

*各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

奥高野
古休場峰から六本松
(初級向き)

9月3日(日) 日帰り **行初バス**
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
登山口→古休場峰→
1019分峰→六本松
→炸原(バス)→西吉野
温泉(きずみ館)(入浴
バス)→橿原神宮前駅(解
散17時)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千→猿谷貯水池
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
野道川村の里山で起伏の少
ないおだやかな尾根。静かな
山歩きが楽しめます。下山後
は西吉野温泉で汗を流します。
小雨決行

金曜里山ハイキング20
湖東・金剛アルプス天狗岩
(二級向き)

9月5日(日) 日帰り
集合 JR草津駅8時30分
行程 草津駅(タクシー)金
勝寺→竜王山→白石峰
→耳岩→天狗岩→落ヶ
滝分岐→鶴冠山→上桐
生(バス)→草津駅(解
散16時頃)
費用 約1500円(草津駅
からタクシー・バス代)
地図 2万5千→瀬田・三雲
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
金勝寺から金剛アルプスの
岩峰を歩く。奇岩怪岩を見な
がら縦走し、天狗岩の上で昼
食をとる。鶴冠山まで足をの
ばし、琵琶湖を展望する。
雨天中止

展望の山60
奥高野・釈迦嶺と若丸山
(健脚向き)

9月5日(日) 6日(日)
1泊2日
集合 (5日) JR大垣駅北
口8時00分
行程 (5日) 大垣駅(車)
ウツ峠→釈迦嶺→(往
路)→ウツ峠(車)→藤
橋星の家(泊)
(6日) 星の家(車)
冠峠→冠平→若丸山→
(往路)→冠峠(車)→藤
橋温泉(入浴・車)→大
垣駅(解散)
費用 約15000円(宿泊
入浴・車代等)
地図 2万5千→冠山・古木
・広野
係 ○山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の
19 山田明男まで
*定員10名程度
美濃のやぶ山二山を目指す。

釈迦嶺には切り開きがあるが
若丸山へはやぶなので尾根通
して挑戦します。天気が良け
れば5日夜は西美濃天文台を
見学する予定。雨天決行

9月6日(日) 日帰り **マイカー**
集合 国道477号武平峠西
広場8時30分
行程 広場→イップク峠→沢
谷峠→イイナのコバ
→人寄りのコバ→雨乞岳
→七人山→武平峠(解
散)
費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・雲
仙・伊吹』
係 ○岩野 明○山田景三
○後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
武平峠から新ルートが郡界
尾根を雨乞岳に登ります。イ

大峰・滝山と白六山
(二級向き)

9月10日(日) 日帰り **行初バス**
集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
高野辻→1100分峰
分岐→滝山→1100
分峰分岐→高野辻→白
六山→展望所→高野辻
(バス)→橿原神宮前駅
(解散17時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千→南日英
係 ○西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名
高野辻から滝山と白六山の
二峰を往復します。高野辻は
標高1040分の峠で東方は

京都北山歩き133
五波峠から中山谷山
(中級向き)

9月12日(日) 日帰り **行初バス**
集合 JR京都駅八条口7時
40分
行程 京都駅(バス)五波峠
→尾根分岐→中山谷山
→P766→観音谷
林道→芦生山の家(バ
ス)→京都駅(解散18時)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社『京都北山』
係 ○村田智俊
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで
五波峠から若丹国境尾根を
東にたどり、中山谷山三角点
からは南東尾根を横倉谷林道
にくだる。南東尾根付近には

大峰山脈、西方は紀伊山地と
抜群の展望が楽しめます。
小雨決行

ブナの自然林が展開してすば
らしい。雨天中止

自然観察山行270
飛騨・岐阜
(二級向き)

9月12日(日) 日帰り **レンタカー**
集合 JR岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(車)ひめしや
がの湯→蔵立→原八丁
→どんびき平→三ツ滝
→ひめしやがの湯(車)
岐阜駅(解散)
費用 約5000円(岐阜駅
からレンタカー代等)
地図 2万5千→飛騨小坂
係 ○鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況
により減員あり)
日本一の沼谷流を仰ぎ、滝
を巡ります。小雨決行

近江の山シリーズ25
湖西・東山
(二級向き)

9月13日(日) 日帰り **行初バス**
集合 JR京都駅八条口7時
30分
行程 京都駅(バス)マキノ
追分峠道の駅→方路峠
→四等三角点→電波反
射板→東山→大崎分岐
→大崎寺(バス)→京都
駅(解散16時頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千→海津
係 ○森脇貞義
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名
万路峠に登り、海津大崎の
東山へ縦走します。4年前
に一度例会で行っていますが、
再行します。雨天中止

北山ちよつと歩き1-1
 麗園・音羽山から行者ヶ森・高塚山
 (一般向き)

9月16日(火) 日帰り
 集合 京阪大谷駅9時00分
 行程 大谷駅―蟬丸神社―音羽山―桜の馬場―行者ヶ森―高塚山―長尾天満宮―醍醐三寶院
 (解散15時30分頃)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 京都東南部
 係 ◎金谷 昭
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで

東海自然歩道を利用して音羽山に登り、桜の馬場へくだる。後は、あまり歩かれていない行者ヶ森(440m)に登って高塚山へ縦走し、醍醐三寶院にくだります。
 雨天中止

三重
 アマネ山から青田裏山
 (一般向き)

9月17日(水) 日帰り 貸切バス
 集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
 行程 橿原神宮前駅(バス)―加杖坂峠―アマネ山―マスカタ山―青田裏山―赤部谷左岸尾根―青田(バス) 橿原神宮前駅(解散16時30分)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千 七田市
 係 ◎西上和
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで

奈良県側から高見トンネルを抜けると前方に見える秀麗な山がアマネ山です。山頂の展望は望めませんが、縦走路からは台高の前衛峰迷岳など一望できます。小雨決行

北アルプス
 穂高岳三山 (健脚向き)

9月19日(土) 23日(祝) 貸切バス
 4泊5日
 集合 (19日) JR京都駅八条口7時40分
 行程 (19日) 京都駅(バス)―平湯温泉(バス)―上高地―明神池―徳沢―横尾山荘(泊)
 (20日) 横尾―本谷橋―沢沢―穂高岳山荘(泊)
 (21日) 山荘―奥穂高岳―前穂高岳(往路)
 穂高岳山荘―沢沢岳―北穂高岳―北穂高小屋(泊)
 (22日) 北穂高小屋―沢沢―パノラマコース―新村橋―徳沢ロッジ(泊)
 (23日) 徳沢―明神―上高地(バス)―平湯温泉(入浴・バス)―京都駅(解散20時)

近江坂経由で抜土から寒風の高島トレイルを歩きます。下山後、希望者はさらさらの湯に入浴します。雨天中止

費用 約53000円(バス、宿泊・入浴代等)
 地図 昭文社「槍ヶ岳・穂高岳」

係 ◎村田智俊
 申込 〒610-0121
 城陽市寺田大町10の10
 村田智俊まで
 *定員25名(會員に限る)
 秋の穂高を周回し、沢沢の紅葉と岩場歩きをゆっくりコースで楽しむ。雨天決行

約1000歩を歩く317
 日本コバ・衣掛山
 (中級向き)
 9月20日(日) 日帰りマイカー
 集合 日本コバ登山口如来堂8時30分
 行程 如来堂―南東尾根838m―日本コバ―衣掛山―岩屋―約の穴―如来堂(解散)
 費用 交通費各自
 地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 ◎岩野 明 ○山田景三
 ○後藤康幸

申込 〒610-0121
 城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで
 如来堂から尾根に取り付き、日本コバの湿原から衣掛山・約の穴を巡ります(29号山・約の穴を巡ります。雨天中止
 54ページ参照。雨天中止

比良を歩く78
 瀧川左股から滝山・トビ岩
 (一般向き)

9月22日(祝) 日帰り
 集合 JR北小松駅9時00分
 行程 北小松駅―瀧川出合―瀧川左股―直角の滝―滝山―オトシ分岐―扇の間―トビ岩分岐―トビ岩―トビ岩分岐―北小松ヒル―北小松駅
 (解散16時頃)
 費用 約13000円(京都から)
 地図 2万5千 北小松
 昭文社「比良山系」

係 ◎桑 康夫

申込 〒610-0121
 城陽市寺田大町10の10
 新ハイキング関西まで
 瀧川左股を源流まで通ります。気象条件がよければ、トビ岩から絶景が楽しめます。雨天中止

週末ハイイク95
 高島トレイル⑨
 湖西・近江坂から寒風
 (一般向き)

9月26日(土) 日帰り 貸切バス
 集合 JR京都駅八条口7時40分
 行程 京都駅(バス)―ピラダスト今津―近江坂―抜土―大谷山―寒風―マキノ高原さらさらの湯(入浴・バス) 京都駅(解散18時30分頃)
 費用 約3000円(バス代)
 地図 2万5千 熊川・海津
 係 ◎狩野東彦
 申込 〒610-0121

係 ◎高島伸浩

9月26日(土) 日帰り
 集合 JR敦賀駅9時00分
 行程 敦賀駅(車)―井ノ口川―源流―野坂山(往路)―井ノ口川源流(車)―敦賀駅(解散)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 敦賀

三重の山105
 尾鷲・須賀利大池
 (中級向き)

9月26日(土) 日帰り 貸切バス
 集合 国道42号紀伊長島道の駅「まんぼう」9時00分
 行程 「まんぼう」(車)―矢口浦(車)―島勝浦須賀利―小池―大池―小池―須賀利(車)―矢口浦(車)―道の駅「まんぼう」(解散15時30分頃)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 島勝浦
 係 ◎稲垣逸夫
 申込 〒519-0311
 鈴鹿市大久保町2665

稲垣逸夫まで
 きれいな浜で弁当を。急坂歩きが長く滑りやすいので杖を持参ください。雨天決行

敦賀の山
 野坂山 (一般向き)
 9月26日(土) 日帰り
 集合 JR敦賀駅9時00分
 行程 敦賀駅(車)―井ノ口川―源流―野坂山(往路)―井ノ口川源流(車)―敦賀駅(解散)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 敦賀

大峰・扇形山から笠木峠
 (一般向き)

9月27日(日) 日帰り 貸切バス
 集合 JR敦賀駅9時00分
 行程 敦賀駅(車)―井ノ口川―源流―野坂山(往路)―井ノ口川源流(車)―敦賀駅(解散)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千 敦賀

集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)
旧小南峠―扇形山―
993以峰―笠木峠―
笠木トンネル(バス)

費用 約3000円(バス代
時30分)
橿原神宮前駅(解散16
時30分)
地図 2万5千〃中戸
係 ◎西上利和
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名

旧小南峠から取り付いて
小南隧道へいったんくだり、
1169以のピークの山腹を
掻きながら扇形山から笠木峠
へと歩きます。小雨決行

地図読み山行93
紀泉高原・雲山峠
(二般向き)

9月27日(日) 日帰り
集合 J R山中溪駅9時40分

行程 山中溪駅―四ノ谷山―
雲山峠―青少年の森展
望広場―三差路―紀伊
駅(解散)
費用 約1800円(大阪か
ら)

地図 2万5千〃岩出・淡輪
係 ◎塚元一彦〇中村 登
申込 〒536-0008
大阪府城東区四目4の
14の9の901
塚元一彦まで
*定員30名

新ハイキング関西支部合同
紀泉高原は山座同定の宝庫で
す。地形図とコンパス(磁石)
の使い方を勉強します。シル
バⅢ型コンパスを持参くださ
い。初心者歓迎。
雨天中止

火曜ハイク62
丹波・三郎ヶ岳から北倉峠
(二般向き)

9月29日(火) 日帰り
集合 J R千代川駅9時10分

行程 千代川駅(バス)旭―
松尾神社―北尾根―三
郎ヶ岳―南尾根―北倉
峠―出雲神社(バス)

費用 交通費各自
地図 2万5千〃亀岡
係 ◎仲谷礼司〇沖 伸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
三郎ヶ岳を縦走する形で歩
きますが、道が荒れている所
もあります。雨天中止

展望の山61
飛騨越中
水無山と金剛堂山
(徒脚向き)

10月3日(土)4日(日)
1泊2日
集合 (3日) J R西岐阜駅
行程 (3日) 西岐阜駅(車)
上ヶ島林道―水無山―

(往路)―上ヶ島林道
(車)五箇山温泉(入浴・
車)民宿「やじべい」
(泊)

費用 約15000円(宿泊・
入浴・車代等)
地図 2万5千〃飛騨古川・
白木峠
係 ◎山田明男
申込 〒503-0535
海津市南濃町松山624の
19 山田明男まで
*定員10名程度

富山の一等三角点、金剛堂
山(200名山)と岐阜・富山県境
の水無山に挑戦します。水無
山はやぶ漕ぎになります。紅
葉にはまだ早いかな?
雨天決行

鈴鹿を歩く318
神崎川を歩く(徒脚向き)

10月4日(日) 日帰り
集合 紅葉尾神崎川橋広場7
時30分
行程 広場(車)瀬戸峠下(置
車)武平峠―沢谷峠―
根の平峠―広沢出合―
天狗滝―白滝谷出合―
神崎川林道(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社〃(御在所・雲
仙・伊吹)
係 ◎岩野 明〇山田景三
〇後藤康幸
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

神崎川の源頭、沢谷峠から
瀬戸峠下の林道までの長大な
神崎川に沿って歩いてくだり
ます。雨天中止

平日ふれあいハイク72
湖西・木地山峠から駒ヶ岳
(二般向き)

10月8日(日) 日帰り
集合 J R京都駅8時40分
行程 京都駅(バス)木地山
―木地山峠―桜谷山―
与助谷山―駒ヶ岳―焼
尾東谷―木地山(バス)
京都駅(解散18時30分)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千〃古屋
係 ◎寺井恒夫
申込 〒610-0121
城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名

高島トレイルの木地山峠か
ら駒ヶ岳は分水嶺であり、ブ
ナ林が美しい尾根です。やや
長いコースなので、タイム、
天候によっては、西谷方向へ
尾根をくだります。雨天中止

自然観察山行271
飛騨・西ウレ分水嶺
(二般向き)

10月10日(土) 日帰り
集合 J R岐阜駅7時30分
行程 岐阜駅(車)せせらぎ
街道西ウレ峠―馬瀬川
源流―西ウレ分水嶺―
ブナ原生林―神様イテ
イ―西ウレ峠(車)岐
阜駅(解散)
費用 約5000円(岐阜駅
からレンタカー代等)
地図 2万5千〃六蔵
係 ◎鷺見守康
申込 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1
の19の5
鷺見守康まで
*定員10名(申込状況
により減員あり)

岐阜県立自然公園に指定さ
れている貴重な天然林内を歩
きます。小雨決行

北八ヶ岳・横岳と藤科山
(中級向き)

10月10日(土)12日(日)
2泊3日
集合 (10日) J R京都駅八
条口7時30分
行程 (10日) 京都駅(バス)
ビラクス山麓駅(ロー
プウェイ)山頂駅―七
ツ池―横岳―亀甲池
―天祥寺原―大河南
ヒュッテ(泊)
(11日) 大河南ヒュッ
テ―藤科山―大河南
ヒュッテ―双子山―双
子池―大石川林道―雨
池峠―縮枯山―茶臼山
―大石峠―麦草ヒュッ
テ(泊)
(12日) 麦草ヒュッテ
―丸山―高見石―白駒
池―駐車場(バス)藤
科温泉(入浴・バス)
京都駅(解散19時30分)
約32000円(バス・
ロープウェイ・宿泊代

費用

等)

地図 昭文社「八ヶ岳」

係 ○村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで

*定員30名(会員に限る)

なだらから紅葉の美しい北
八ヶ岳を縦走する。雨天決行

近江の山シリーズ26
湖北・カナ山 (中級向き)

10月11日(日) 日帰り 貸切バス

集合 J R京都駅八条口7時

30分

行程 京都駅(バス) 近江高
山キャンパ場(車) 霜
谷橋―尾根取付点―稜
線―夜叉ノ妹池―カナ
山―(往路)―榎谷登
山口(バス) 京都駅(解
散17時30分頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 近江川合・
虎御前山

係 ○森路貞義

鈴鹿を歩く319
猿ヶ山・比婆山・イワス
(健康向き)

10月18日(日) 日帰り 貸切バス

集合 河内線屏風岩下広場8
時30分

行程 広場(車) 風穴手前寺
院広場―高畑―猿ヶ山
―比婆山―イワス―大
向―屏風―集合広場
(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・靈
仙・伊吹」

係 ○岩野 明 ○山田景三
○後藤康幸

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名(会員に限る)

新ルートのおむしたカレン
フェルドの岩稜、やぶ漕ぎの
秘境のルートを歩きます。

雨天中止

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員24名

やぶを漕いで夜叉ノ妹池か
らカナ山へ行きます。夜叉ノ
妹池は神秘的です。コース変
更あり。雨天中止

火曜ハイク63
六甲・山寺尾根から摩耶山
(二般向き)

10月13日(火) 日帰り

集合 阪急六甲駅9時10分

行程 六甲駅―袖谷登山口―
山寺尾根―摩耶山―天
狗道―学校林道―旧摩
耶道―地下鉄新神戸駅
(解散15時10分頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社「六甲・摩耶・
有馬」

係 ○仲谷利司 ○沖 伸

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

台高・明神平から松塚
(中級向き)

10月18日(日) 日帰り 貸切バス

集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
登山口―明神平―明神
岳―松塚奥峰―松塚―
ヌタハラ出合―富の谷
出合(バス) 橿原神宮
前駅(解散17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 大豆生・七
日市

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名(会員に限る)

紅葉のすばらしさには定評
のある明神平から台高線走路
を歩き、眺望抜群の松塚を巡
り、三重県側にくぐります。

小雨決行

尾根道は少しきついです
が、山頂でゆっくりとします。帰
路は旧道から。雨天中止

台高・讀取峠から大滝山
(二般向き)

10月15日(日) 日帰り 貸切バス

集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
天理教管理事務所―讀
取峠―奥船山―大滝山
―白髪峠―新道峠―み
つえ青少年旅行村(バ
ス) 橿原神宮前駅(解
散17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 菅野

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名(会員に限る)

深まりゆく秋を満喫しなが
ら、ややロングコースの県境
尾根を縦走します。小雨決行

大峰・天狗窟から松葉山
(二般向き)

10月22日(日) 日帰り 貸切バス

集合 近鉄橿原神宮前駅中央
口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)
旧小南峠―1196比
峰―天狗窟―1091
比峰―松葉山―蛇峠
(バス) 橿原神宮前駅
(解散16時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 中戸

係 ○西上利和

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員26名(会員に限る)

ほとんどの登山者の訪れるこ
とのない、マイナーな洞川の
里山歩きます。小雨決行

金曜里山ハイキング21
湖北
太尾山城から鎌刃城跡
(二般向き)

10月17日(日) 日帰り

集合 J R米原駅9時10分

行程 米原駅―青岸寺―湯谷
神社―太尾山城(北・
南城跡)―香場袴揚寺
―鎌刃城跡―蓮華寺―
香場(バス) 米原駅(解
散16時30分頃)

費用 交通費各自

地図 2万5千 彦根東部

係 ○村田智俊

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
村田智俊まで

湖北の二つの山城跡を巡る。
番場宿は中山道の主要な宿
場として栄えた。鎌刃城は、
湖北では小谷城に次ぐ規模を
誇っていて、城跡には自然林
が広がっていて、その広大さ
にはびっくりする。
雨天中止

週末ハイク96
教習
西方ヶ岳から蝶螺ヶ岳
(二般向き)

10月24日(日) 日帰り 貸切バス

集合 J R京都駅八条口7時
40分

行程 京都駅(バス) 常宮神
社―展望台―鎮名水―
オウム岩―西方ヶ岳―
カモシカ台―蝶螺ヶ岳
―長命水―油底―原電
明神寮(バス) 京都駅
(解散19時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千 杉津

係 ○狩野東彦

申込 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10
新ハイキング関西まで

*定員24名

秋の教習所を見ながら教習
半島の縦走路を、西方ヶ岳か
ら蝶螺ヶ岳へ北上します。
雨天中止

山行報告
(5・6月号)
新ハイキングクラブ関西

湖西・箱館山から滝谷山

5月2日(出) 晴れ

(集合) J R京都駅7・40 (バス) ビラアスト今津9・40 10・00 箱館山スキー場11・20 (昼食) 12・00 Cコース 奥女湖12・45 滝谷山登山口東屋12・55 13・30 滝谷山14・30 近江坂出合15・15 20 近江坂登山口16・15 17・00 近江坂16・30 40 (バス) 京都駅18・40 (解散)

*狩野リーダーの都合が悪く村田が代行して実施した。
箱館山からシヤクナゲ咲く道を奥女湖へくだった。滝谷山から近江坂もシヤクナゲが多く満開だった。ブナ林の新緑もきれいだった。(参加者) 沖 伸 巻田 晃 林 正義 大林 進 岡崎知子 高木忠夫 山根弘美 南 利憲

5月3日(出) 晴れ

(集合) 多賀町役場8・25 (車) 御池林道近江坂の峠8・55 (車) ミノガ峠9・10 滝谷山9・40 11・15 大見晴12・00 (昼食) 12・40 1万野12・55 林道14・00 ユリゴ峠14・50 近江坂15・50 (解散)

山目覚め、山笑う。萌黄色のカラマツの滝谷山、シヤクナゲが満開の展望地を歩く。春の山菜を摘みながら、幻のユリゴ峠から近江坂へすばらしい山旅となった。(参加者) 塩田義博 奥野太一郎 岩本彩子 一芝義雄 一芝美知子 杉野茂樹 神野孝允 高原芳彦 教野政枝 大西節郎 水戸鉄治 櫻田勝利 磯部 純 寺井博子 木下朝子 池田隆一 澤崎 實

加藤浩二 堀江房麿 大園加代子 若林文夫 木村 豊 岩佐 修 繁田広美 岡安紀雄 岩崎由紀子 磯田安弘 岡田憲章 船越みよ子 川上久堅 須藤浩子 (計24名) ○村田智俊

滝谷山・大見晴・万野

5月4日(出) 曇り

(集合) J R京都駅8・00 (バス) 中河内10・30 140 長野尾峠11・10 20 池内山12・05 12 池内山12・50 池内山13・40 50 案内板入口13・10 20 (バス) ウツテイバル 余興14・55 (入浴) 16・00 (バス) 京都駅18・05 (解散)

ユキツバキの花を見て敦賀の山を歩いた。温泉はミツガシワが咲いていた。(参加者) 高久光裕 永富律子 小田潤子 岡崎知子 菅 キヤウ 半田輝英 宮野祐子 中嶋日出男 小池一郎 市岡晴美 松上美代子 木内範文 植原良彦 安田文美江 藤原榮寿 松井明忠 岩田富美子 堀家正嗣 堀家洋子 高岡富美子 小尾末吉 森井 潔 森井順子 宮路ちへ子 ○沖 伸 (計26名) ○村田智俊

山口光代 池田繁美 多田 徳 谷 守 貴堂飛路 居原田幸弘 北村正美 栗岡克子 ○山田豊三 ○後藤康幸 ○岩野 明(計28名)

湖北・池河内温泉

5月6日(出) 曇り

(集合) J R京都駅8・00 10 (バス) 山門水原の森駐車場10・10 15 30 140 管理舎14・45 55 1 駐車場15・00 (バス) 京都駅17・05 (解散)

コースを8の字に周遊し、若葉の森で森林浴を楽しんだ。(参加者) 渡部和美 濱本美和恵 岩田有士 多賀久子 武部美英子 植原良彦 市岡晴美 柳川常雄 栗栖崇吉 栗栖君子 南 利憲 中尾博子 木村 豊 入江 勲 小谷和子 山高義治 山高多恵子 塩尻香織 田尾 肇 田尾玲子 三野 旭 小尾末吉 橋本正子 前田初雄 有吉桂三 杉本多美雄 杉本昌士 大嶋 勉 島野光代 ○安倉正勝 ○村田智俊(計31名)

湖西・山門水原の森

5月6日(出) 曇り

(集合) J R京都駅8・00 10 (バス) 山門水原の森駐車場10・10 15 30 140 管理舎14・45 55 1 駐車場15・00 (バス) 京都駅17・05 (解散)

コースを8の字に周遊し、若葉の森で森林浴を楽しんだ。(参加者) 渡部和美 濱本美和恵 岩田有士 多賀久子 武部美英子 植原良彦 市岡晴美 柳川常雄 栗栖崇吉 栗栖君子 南 利憲 中尾博子 木村 豊 入江 勲 小谷和子 山高義治 山高多恵子 塩尻香織 田尾 肇 田尾玲子 三野 旭 小尾末吉 橋本正子 前田初雄 有吉桂三 杉本多美雄 杉本昌士 大嶋 勉 島野光代 ○安倉正勝 ○村田智俊(計31名)

室生・牛ヶ平山

5月7日(出) ○西上利和

*バス定員未満で中止しました。
敦賀の山・三角点(緑谷) 5月9日(出) 晴れ (集合) J R敦賀駅9・00 (車) 間時登山口9・40 11 香見 10・35 1 飯渡山11・05 1 1 緑谷 11・55 (昼食) 12・55 1 香見登山口13・50 (解散)

6人の山菜ツアー。昨年9月、関西電力の鉄塔改修中4人が落下し2人が死亡した鉄塔を通った。(参加者) 神野孝允 高島松崎 谷 守 磯部 純 加藤國計 ○高島伸浩 (計6名)

奥美濃・花房山

5月9日(出) 晴れ

(集合) J R大垣駅7・30 (車) 登山口9・00 105 1 標高約800 (1/2標高) 地点10・35 1 花房山12・20 (昼食) 13・00 1 標高約800 (1/2標高) 地点14・10 1 登山口15・25 (車) いび川温泉16・30 (入浴) 17・15 (車) 大

大嵐山は昨年とは別ルートで行くが、急な斜面が暑さも加わってきつかった。大嵐山の先5分の(三角点)まで行った。(参加者) 山田彰彦 高原芳彦

垣駅17・45(解散)

登山道にはびっしりとイワウチワの群生が続き、上部では花も咲き残っていた。(参加者) 石川 敏 荻野美紀恵 堀田輝子 松村雅子 神谷恵美子 若林文夫 佐々木三千代 ○石井照雄 ○野見守康(計9名)

飛騨・天蓋山と大嵐山

5月9日(出) 夜10日(回)

前夜発1泊2日 (9日) (集合) J R西岐阜駅19・00 (車) 上宝民宿21・30 (宿) (10日) 晴れ 民宿6・40 (車) 天蓋山登山口7・25 1 天蓋山9・05 30 1 登山口10・45 (車) 岩井谷林道車止11・20 (昼食) 11・45 1 登山口12・15 1 大嵐山13・45 1 山林局次三角点(往復) 14・00 1 登山口15・00 1 林道車止15・25 1 50 (車) 西岐阜駅20・00 (解散)

鈴鹿・日本コバ

5月10日(出) 晴れ

(集合) J R京都駅7・30 13 (バス) 如来堂前登山口8・58 19 10 1 休憩地9・50 10 1 00 1 岩屋11・03 15 1 政所分岐11・22 1 日本コバ11・50 (昼食) 13・00 1 政所(川西)分岐13・25 1 衣掛山13・35 1 川西分岐13・50 1 休憩地14・25 1 40 1 政所(川西)15・16 1 1 バス待機所15・25 1 43 (バス) 京都駅17・20 (解散)

川の徒渉を繰り返して、日本コバに着いた。天気も良く展望も良かった。(参加者) 仲谷礼司 渡部和美 下野正年 林 正義 志水明美 宮野哲郎 宮野祐子 岡崎知子 高木忠夫 川田位子 多賀久子 和田純子 小石浩子 船本裕巳子

福梅ノ滝からヤケオ山

5月10日(回) 晴れ

(集合) J R北小松駅9・00 1 げんき村9・17 30 1 福梅ノ滝 9・43 1 50 1 滝見台9・57 1 10 1 00 1 福梅ノ滝 滝見台10・10 1 20 1 涼峠10・48 1 55 1 ヤケオ山11・30 1 40 1 大石11・55 1 タンヤマノ頭12・13 (昼食) 13・00 1 ヤケオ山13・23 1 35 1 湯敷地展望台13・45 1 55 1 大堂川堰堤下15・08 1 別荘地15・22 1 35 (解散) 1 近江舞子駅15・55

の取り合せが絶妙だった。

〔参加者〕 平塚明美 武部美美子
有吉桂三 沖 紀子 前田初雄
貴堂雅路 矢谷豊子 久馬麻登河
本間 隆 本間繁子 中嶋日出男
多田 徳 ○大東 哲 (計14名)
○妻 康夫 (計14名)

飛鳥路と歌傍山

(サイクリングと登山21)
5月10日(日) 晴れ
(集合) 近鉄飛鳥駅9・00(車) 計
標丘(駐車) 9・20(サイクリング)
歌傍山登山口9・50(駐輪) 一畝
傍山10・10 登山口10・30(サイ
クリング) 飛鳥駅10・45(高松塚
古墳11・00) 石舞台11・45(昼食)
12・45 酒船石13・00 飛鳥寺13・
20 入鹿首塚13・30 甘誓丘14・00
飛鳥駅14・30(解散)

新緑の明日香村を自転車車で移動
し、大和三山の最高峰歌傍山に登
って大和平野を展望した。
(参加者) 池田 茂 寺井博子
柳 良雄 ○山口敏明 (計4名)

愛宕山シリーズ20

コメカイ尾根道から保津峡

(火曜ハイタク58)

5月12日(日) 晴れ
(集合) 清瀬バス停9・20 30
落合10・05 コメカイ尾根道一ツ
ツツ尾根合流口 50 田ヶ一ブル
駅合路12・25(昼食) 13・15 ツ
ツツ尾根分岐13・40 炭焼き窯跡
13・55 大岩14・20 中尾根下山
口15・10 保津峡駅15・30(解散)

落合からの尾根道は、展望はな
く少し急な所もあるが静かで気持ち
のいい道が続いた。
(参加者) 大林 進 松井明忠
小谷和子 堀尻香織 杉野茂樹
林 正義 飯田二郎 水本加津菜
川上久聖 渡部和夫 今村あやの
後藤純子 妻 康夫
○加納山紀子 ○仲谷礼司 (計15名)

三重・高鉢山

5月14日(日) ○西上利和
*バス定員未満で中止しました。
湖北・玄蕃尾城跡から行市山
5月17日(日) ○村田智俊
*雨天のため中止しました。

三重・高鉢山

5月14日(日) ○西上利和
*バス定員未満で中止しました。
湖北・玄蕃尾城跡から行市山
5月17日(日) ○村田智俊
*雨天のため中止しました。

三野 旭 森藤哲良 ○竹田勝英

○前川和佳子 ○西上利和 (計28名)
紀南・伊勢路を歩く
福ヶ崎・波田須の道・大吹峠
(三重の山103)
5月23日(出) 24日(回) 1泊2日
(23日 晴れ)(集合) J R尾鷲駅
10・40(車) 福ヶ崎入口12・00
阿古御神社12・30(昼食) 13・00
福ヶ崎13・30 14・30 福ヶ崎
入口15・15(車) 民宿「はまけん」
15・45(泊)
(24日 晴れ時々くもり) 民宿8・
00(車) 遊水港8・10(船・海上
から福ヶ崎、千畳敷、海金剛等の柱
状地層群を見学) 遊水港9・00(車)
民宿9・10(車) 大泊駅(置車)
10・00(車) 新鹿海岸10・35 波
田須神社11・30 徐福の宮11・40
大吹峠入口12・20(昼食) 12・
50 大吹峠13・10 大泊駅13・45
(車) 新鹿海岸14・00(解散)

福ヶ崎を陸からも海からも満
喫。不手際でJR移動ができなく
なり、車を二ヶ所に駐車すること
になり、大変迷惑をかけました。

福ヶ崎を陸からも海からも満
喫。不手際でJR移動ができなく
なり、車を二ヶ所に駐車すること
になり、大変迷惑をかけました。

リョウシ(鈴鹿を歩く311)

5月17日(日) ○岩野 明
*雨天のため中止しました。
鈴鹿・音羽城跡から猪ヶケ岳と
鎌掛しやくなげ谷
(北山ちよっと歩き109)
5月20日(日) 晴れ
(集合) J R京都駅8・20 25(バ
ス) 音羽城跡10・00 12 城跡抜
穴10・20 宝殿林道分岐10・55
登山道取付11・05 猪ヶケ岳11・
25 30 宝殿林道と後継分岐12・
00(昼食) 12・50 支尾根の展望
岩13・20 30 しやくなげ谷展望
台13・45 50 しやくなげ池14・
00 15 遊歩道 真の家14・45
15・00(バス) 京都駅16・45
景色を考えて午後には急登のある
城跡へ戻るコースを変更し、下山
は鎌掛谷出合の真の家への遊歩道
の谷沿いコースにした。シヤクナ
ゲの花には遅かった。
(参加者) 仲谷礼司 林 正義
栗西孝子 松村種子 松上美代子
中川光郎 後藤純子 中嶋日出男
小谷和子 堀尻香織 加納山紀子
夏山春子 若林文夫 久保田玲子

返し、予定のコースを下山した。
(参加者) 河内正治 中嶋日出男
川俣 勲 入江 勲 松井明忠
矢野 修 堀内留智 水宮律子
本間 隆 本間繁子 林 久美子
大嶋 勉 浅田俊男 武部美美子
柳川富雄 小池一郎 久馬麻登河
岡崎知子 山根弘美 大園加代子
大和 桂 呉比呂美 山高多恵子
○山高義治 ○村田智俊(計25名)

大崎・行者道

6月4日(日) ○西上利和
*雨天のため中止しました。
美濃・伊吹北尾根
(自然観察山行267)
6月6日(日) ○笠見守康
*都合により中止しました。
御池岳を遺還
(鈴鹿を歩く312)
6月7日(日) くもり
(集合) 鞍掛トンネル広場8・25
40 鈴北岳10・20 元池10・30
夕日のテラス10・40 丸池11・00
風池11・30 幸助の池11・45(昼

食) 12・40 丸山13・10 池の平
真ノ池13・45 三ツノ森14・
10 鞍掛尾根14・35 トンネル広
場14・05(解散)

御池岳のテールランドを排
制。元池より池を巡っての道迷い
ハイク。きょうはすっぱりガスに
包まれ、オオイタヤマイゲツの林
も幻想的な雰囲気だった。(意)
(参加者) 大嶋 勉 奥野太一郎
湯口清孝 高橋身治 石井ひろ美
磯部 純 谷 守 網木美恵子
武村千鶴 一芝義雄 一芝美知子
岩本彩子 貴堂雅路 中澤興司博
木下朝子 大西裕郎 石田眞由美
加藤國計 水戸鉄治 森 美香子
北村 修 多田 徳 居原田幸弘
池田隆一 櫻田勝利 市井ユリエ
原 幸子 北村正義 光川二美子
小林 修 福津謙治 高杉 博
○山田原三 ○岩野 明(計31名)

朽木・三國岳

(近江の山シリーズ22)
6月7日(日) 雨
(集合) J R京都駅7・28(バス)
桑原嶺登山口8・52 9・15 休
憩地9・33 40 久多越10・23 1

加藤浩二 木村 茂 濱本美和恵
堀内留智 岩本彩子 小林 桂
木下朝子 寺井博子 橋本裕子
大西裕郎 大西規子 川上久聖
藤井義治 針谷静子 小林 修
加藤國計 ○谷 守 (計32名)
○金谷 昭

お日当りのベニバナヤマシヤク
ヤクには会うことができなかった
が、高原山に向かう尾根でサンシ
ヨウの若葉を満んだ。
(参加者) 渡部和夫 下野正平
林 正義 今泉 勲 飯田二郎
後藤智之 馬籠忠男 友田美保子
岩村春子 島田 廣 池田美恵子
別所 英 上田裕子 野末あや子
多田 徳 竹村英樹 片岡志智子
古山幸男 堀江房雄 宮路ちへ子
栗橋崇吉 川俣 勲 松上美代子

大崎・行者道
6月4日(日) ○西上利和
*雨天のため中止しました。
美濃・伊吹北尾根
(自然観察山行267)
6月6日(日) ○笠見守康
*都合により中止しました。
御池岳を遺還
(鈴鹿を歩く312)
6月7日(日) くもり
(集合) 鞍掛トンネル広場8・25
40 鈴北岳10・20 元池10・30
夕日のテラス10・40 丸池11・00
風池11・30 幸助の池11・45(昼

食) 12・40 丸山13・10 池の平
真ノ池13・45 三ツノ森14・
10 鞍掛尾根14・35 トンネル広
場14・05(解散)

御池岳のテールランドを排
制。元池より池を巡っての道迷い
ハイク。きょうはすっぱりガスに
包まれ、オオイタヤマイゲツの林
も幻想的な雰囲気だった。(意)
(参加者) 大嶋 勉 奥野太一郎
湯口清孝 高橋身治 石井ひろ美
磯部 純 谷 守 網木美恵子
武村千鶴 一芝義雄 一芝美知子
岩本彩子 貴堂雅路 中澤興司博
木下朝子 大西裕郎 石田眞由美
加藤國計 水戸鉄治 森 美香子
北村 修 多田 徳 居原田幸弘
池田隆一 櫻田勝利 市井ユリエ
原 幸子 北村正義 光川二美子
小林 修 福津謙治 高杉 博
○山田原三 ○岩野 明(計31名)

朽木・三國岳
(近江の山シリーズ22)
6月7日(日) 雨
(集合) J R京都駅7・28(バス)
桑原嶺登山口8・52 9・15 休
憩地9・33 40 久多越10・23 1

35—三園岳11・33(昼食)12・10
—岩谷峠13・10—林道出合13・51
—古屋14・40—55(バス)京都駅
16・50(解散)

1日中雨だったが、サルメンエ
ビネが咲き、ハクウンボクやシラ
イトソウの白い花も美しかった。

(参加者) 沖 伸 下部正年
渡部和美 志水明美 岡崎知子
林 正義 多賀久子 岩鶴健司
木村 豊 川田洋子 高木忠夫
入江 勲 岩佐 修 小谷和子
塩尻香織 栗栖崇吉 船本裕巳子
小池一郎 吉野英子 堀内眞智
里見輝生 竹内正子 松上美代子
川上久堅 ○福隣 章 (計26名)

東濃・焼山(展望の山荘)

6月7日(日) 晴れ
(集合) J.R.勝川駅6・45(車)黒
井沢駐車場8・10(車)林道車止8・
25—上手山峠9・00—P1659
17・10—15—残1・地点11・10—焼
山12・35(昼食)13・05—1・地
点14・10—P1659—14・45—
上山手峠15・40—林道車止16・20
(車)川勝駅18・30(解散)

やぶは覚悟のうえだったが、峠
から3・ずつとササやぶで気が抜
けなかった(まだ修行20ベシを要す。
(参加者) 高原芳彦 三井敏一
国井文男 廣瀬重見 廣瀬恵美子
萩野暢子 小林一世 伊藤恵美子
山形明 松村雅子 武藤由美子
○山田明男 (計12名)

比叡・比叡アルプスから登笠山
(火曜ハイタウ)

6月9日(火) くもり
(集合) J.R.京都駅9・10(バス)
地蔵谷10・00—15—P383尾根
道10・50—比叡アルプス道—登仙
台12・05(昼食)12・55—白鳥山(夢
見ヶ丘)13・40—神奥山14・20—
登笠山14・40—唐崎・無動寺道—
J.R.唐崎駅16・00(解散)

比叡アルプス道は変化があつて
おもしろい。午後からは、やぶ山
の白鳥山・神奥山・登笠山に登り、
旧道をたどって帰途についた。
(参加者) 大林 進 加藤浩二
木村 豊 林内範文 岡本和子
渡辺いく 木 正義 岡本裕子
金森節子 谷 守 湯口靖孝
松井明忠 小石浩子 小川富士雄

若林文夫 木下朝子 武部美英子
岩本彩子 木本恭子 宮崎由美子
川上久堅 加藤國計 船本裕巳子
中川光郎 渡部和美 津野多佳子
和田直樹 鮫田二郎 大岡加代子
市野博文 竹田善美 中谷孝子
妹尾正 高木忠夫 馬淵晶子
○青木一雄 ○加納由紀子
○沖 伸 ○仲谷礼司(計29名)

台高・駒岳

6月11日(木) くもりのち晴れ
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
—10(バス)南尾根登山口9・40
—二階岳10・20—木ノ実や塚10・
50—駒岳11・25—尾根上11・45(昼
食)12・20—三ツ塚13・30—明神
平14・10—バス待機場15・25(バ
ス)橿原神宮前駅16・56(解散)

尾根はまばゆいばかりのブナ林
の新緑と木々の花が美しく、森林
浴で台高の景観を満喫した。
(参加者) 渡部和美 早 幸子
今泉 勲 林 正義 小栗大直
松村雅子 萩野暢子 友田美保子
岩佐 修 多田 徳 井上まち子
塚本忠次 栗栖崇吉 島田 廣
落合 博 菟田義博 三野 旭

田中 操 ○竹田勝英
○西上利和 (計20名)

高島トレイル②
(週末ハイタウ)

6月13日(土) くもりのち晴れ
(集合) J.R.京都駅7・40—45(バ
ス)黒河崎9・55—10・10—三園
山分岐11・00—三園山11・10—20
—三園山分岐11・30—明王禿11・
55—赤坂山12・15(昼食)13・00
—栗栖越13・10—寒風14・15—20
—マキノ高原さらさら湯15・45(入
浴)16・45(バス)京都駅18・45(解
散)

見頃を過ぎたかなと危惧してい
たが、ベニササドウゲン・サラ
サドウゲンのトンネルが歩けた。
ササユリが見当たらないが、
コアシサイの香やクニウツギの残
花を楽しんだ。
(参加者) 沖 伸 西谷真英子
下部正年 岡崎知子 武部美英子
高木忠夫 山根弘美 西村文男
堀井洋子 加藤浩二 久保田玲子
長沢佑美 川田洋子 小川富士雄
木村 豊 岩村春子 船本裕巳子

高橋雄治 堀江房麿 佐藤和子
福島 昭 園田憲章 竹内正子
前田初雄 森井 深 森井順子
宮野哲郎 宮野枝子 加納由紀子
夏山春子 南 利憲 南 穂子
草野卓郎 須藤浩子 善塔部一郎
小松忠信 ○仲谷礼司 (計38名)

敦賀の山・三内山

6月13日(日) ○高島仲浩
*都合により中止しました。

湖北・天吉寺山
6月14日(日) 晴れ
(集合) 京都駅7・30(バス)野瀬
9・40—大吉寺10・00—15—天吉
寺跡11・20(昼食)12・10—稜線
12・25—天吉寺山13・10—20—コ
ル13・30—西尾根—鉄塔14・45—
55—大吉寺15・30—40—野瀬16・
00(バス)京都駅18・10(解散)

上田裕子 壁田 弘 木村相恵
高橋雄治 塚本忠次 三野 旭
金森節子 北村 正 渡辺いく
岩田育士 岡本和子 岩鶴健司
川戸せつ 辻中 貢 山崎みよ子
堀内眞智 秋枝秀賀 久馬麻登河
大嶋 勉 草野卓郎 小川富士雄
小池一郎 本藤孟夫 安田文英子
川上久堅 林 弘毅 ○大東 哲
○村田智俊 (計36名)

坂下から蓬萊山(比良を歩く76)

6月14日(日) 晴れ
(集合) J.R.堅田駅8・40—45(バ
ス)坂下9・22—40—旧道出合道
標10・03—急登地点前10・45—53
—急登終了点11・08—レスキュー
ポイント11・25—小女郎ヶ池12・
10(昼食)13・00—蓬萊山13・32
—45—クロトノハゲ分岐14・06—
クロトノハゲ14・38—45—天狗杉
15・08—15—林道分岐15・47—55
—志賀駅16・30(解散)

小女郎ヶ池までひたすら登るだ
け、何に興味をもったのか、一羽
のホトトギスがずつと稜線近くま
で付き合ってくれた。満開のベニ
サラサドウゲンとクロトノハゲの

サラサドウゲンが見事だった。
(参加者) 入江 勲 福本愛子
有吉桂三 大川直澄 貴倉雅路
前田初雄 前田栄三 吉岡うた子
島田 廣 山高義治 山高多恵子
児島愛子 岩本健二 岩本彩子
渡部和美 後藤純子 永見真砂子
○福津謙治 ○桑 康夫(計19名)

伊勢路と赤目四十八滝

6月14日(日) 晴れ
(集合) 近鉄赤目駅9・30(車)
落合出合10・00(駐車)サイクリ
ング—今井林道—山水園—茶屋
10・30—赤目滝入口(駐車)
11・00—サンショウウオセンター
—不動滝—乙女滝—茶店11・30(昼
食)12・30—布曳滝—姉妹滝—荷
担滝—夫婦滝—琵琶滝—巖窟滝—
落合出合14・30(車)赤目駅
15・50(解散)

赤目四十八滝をマイカー・自転
車を利用して縦走した。
(参加者) 長尾一令 船本裕巳子
池田 茂 多賀久子 柳 良雄
寺井博子 大村俊子 ○山口敏明
(計8名)

京都東山・如意ヶ岳から志賀越

6月17日(木) 晴れ
(集合) J.R.山科駅9・00—05—
毘沙門堂9・31—鬼門10・20—雨
社10・45—11・00—如意ヶ岳11・
10—池谷地蔵11・20—30(昼食)
—大津市官牧場12・12—(昼食)
13・00—志賀越峠13・25—展望台
13・38—45—馬頭観音14・05—崇
福寺跡14・18—28—志賀大仏14・
35—百穴古墳14・42—52—京阪滋
賀駅15・05(解散)

毘沙門堂からはあまり知られて
いない尾根道を如意ヶ岳、池谷地
蔵へと樹林のなかを歩いた。琵琶
湖の展望と旧史蹟の馬頭観音、崇
福寺跡、志賀大仏、百穴古墳を巡
る変化のある山歩きを楽しんだ。
(参加者) 仲谷礼司 中嶋日出男
加藤浩二 入江 勲 木村 豊
小林 桂 林 正義 宮路ちへ子
小石浩子 木本恭子 堀田トシエ
木下朝子 宮崎靖久 宮崎由美子
栗栖崇吉 富田満子 松上美代子
宮崎紀正 和田直樹 林 久美子
本岡 隆 本岡孝子 夏山春子
宮西和子 岡 葉子 中谷孝子

市野博文 長沢佑美 大谷草子
山岸勝雄 岩本彩子 児島愛子
林 弘毅 中村英雄 塚本忠次
今泉 勲 青木一雄 松本忠雄
神野孝允 中国昌子 山盛加奈子
上田典子 後藤純子 今村あやの
竹田善英 ○須部 純
○谷 守 ○金谷 昭(計8名)

奥高野・牛連山

6月18日(木) 晴れのち一時小雨
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05
10(バス) 蟻ノ越12・10(牛連山) 13・10(昼食) 13・40(蟻ノ越) 14・10(バス) 橿原神宮前駅18・40(解散)
4時間も暗道(雨道)を走り、蟻ノ越到着は正午。山頂へはあつという間に着いた。帰路は龍神スカイライン経由で戻った。
(参加者) 渡部和英 大林 進 宮野敏子 平 幸子 下都正平 小栗大直 三井統一 奥田朋夫 朝倉松雄 長沢佑美 池田美恵子 馬龍忠男 小谷和子 堀尻香織 木内純文 森藤哲良 堀部和代 川上久堅 岩村春子 佐藤優美子 志水明美 秋光哲也 松上美代子

○竹田勝英 ○西上和利(計25名)

山菜狩り山行
但馬・鉢伏山と湯川山
6月20日(土) 21日(日) 1泊2日
(20日 晴れ) (集合) J R新大阪駅7・40(バス) 八チ北高原(ひさ家) 11・00(送別車) 林道車止 11・30(ハチ北展望駅) 12・00(昼食) 12・30(鉢伏山麓にて山菜狩り) 鉢伏山登山コース(スキー場) グレンドー(宿) (ひさ家) 15・40(泊)
(21日 晴れ) 宿8・30(送別車) 林道車止9・00(湯川林道にて山菜狩り) 湯川山10・30(はちまき展望駅) 11・30(昼食) 12・00(県道) 12・30(バス) (ひさ家) 13・00(入浴) 14・10(バス) 新大阪駅18・00(解散)
涼しい高原で山菜狩りと登山を楽しんだ。山菜はフキ・ウワバミ・ソウ・ミツバ・コシアブラ・ワラビなどを土産にした。宿の料理もうまく、主人が2日間共に案内してくれた。
(参加者) 大和 敏 中嶋日出男 兼田幸子 小林 桂 小林博子 小田潤子 針谷邦夫 針谷静子

中尾博子 大嶋 勉 田尾 肇
鮫田二郎 石野賢二 (計14名)
○村田智俊

猿ヶ山・比婆山・イワス
(猿鹿を歩く313)
6月21日(日) ○岩野 明
*雨天のため中止しました。
奈良・三輪山と山の辺の道
(金福里山ハイキング18)
6月27日(日) 晴れ
(集合) J R三輪駅8・40(大神社) 8・50(狭井神社) 9・00(15) 水行場の滝9・30(杉巨木林) 10・00(105) 三輪山山頂奥津野座 10・15(20) (往路) 狭井神社 11・15(30) 眞百合公園(11) 40(昼食) 12・20(大神社) 12・30(平等寺) 12・40(金屋の石仏) 12・50(海桐樹市観音堂) 13・00(馬井手橋) 13・10(桜井駅) 13・40(解散)
別からタスキを掛けて三輪山の神社に登った(入山料300円)。眞百合公園で昼食をとり、山の辺の道を桜井駅までたどった。
(参加者) 河内正治 中嶋日出男 川俣 勲 堀内預智 入江 勲

特別企画

雲岳山と北漢山ハイキング
(韓国・山旅シリーズ⑩)
6月3日(休) 6日出 3泊4日
(3日 晴れ) (集合) 関西空港7・30(9) 30(飛行機) 仁川空港 11・30(バス) 東草マレモンズホテル16・50(泊)
(4日 晴れ) ホテル7・50(バス) 龍大理8・30(シャトルバス) 百源寺9・00(30) 水鏡洞渓谷(双滝) 13・30(鳳頂山) 14・45(小首山) 15・16(00) 中青山荘16・55(泊) 5日 晴れ 中青山荘16・40(雲岳山最高峰大青峰) 4・55(5) 10(中青山荘) 5・20(朝食) 6・10(喜安山荘) 7・40(千仏洞) 渓谷(陽洞山) 9・00(岩屋洞) 売店 11・00(昼食) 12・00(神興寺) 登

山口12・50(バス) 尺山温泉13・15(入浴) 14・30(バス) ソウル焼肉店17・45(夕食) 19・30(ヒルトンホテル) 20・30(泊)
(6日 晴れ) ホテル5・00(バス) ヨンドクサ登山口5・30(雲峰広場) 7・05(朝食) 7・30(北漢山) 白雲台9・45(10) 00(道洗寺) 登山口11・30(45) (バス) 牛耳洞12・00(入浴) 山用品街散策(昼食) 14・10(バス) 新空港村14・40(買物) 15・40(バス) 仁川空港16・00(19) 15(飛行機) 関西空港20・50(解散)
晴天に恵まれ、岩峰の雪岳山から大パノラマを満喫した。最終日には北漢山の白雲台へ登り、秋に行く予定の道峰山を展望した。
(参加者) 小栗大直 中嶋日出男 小林 桂 山崎勝英 前田喜久子 白鳥忠子 竹田勝英 池田美恵子 高島伸治 田辺弘子 鈴木美代子 杉野茂樹 狩野東彦 竹越富英江 金谷 昭 村井寿和 渡部百合江 本多輝男 ○安倉正勝 (計20名)
○村田智俊 (計20名)
他現地ガイド・アシスト各1名
(5・6月参加者 延676名)

会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。会員には「新ハイキング関西」の山一を毎号お届けします。
係り(ゲ)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例年に参加されるときは、山行運営費として4000円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

継続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。
年会費 5000円(ラッペン共) 入会金 3300円(送料共) 入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきます。お友達のご住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西」の山一を最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1回程度度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われの方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「新ハイキング」を二参考にお送りします。

○新入会員定期購読者紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号54771番から5481番まで(敬称略)
〔石川〕 松田秀嗣
〔愛知〕 杉本和子
〔滋賀〕 中 照行
〔京都〕 中山 治 中久保建次
〔大阪〕 久保秀延 岩崎キワ子
阿武勝政 藤井加代子
〔兵庫〕 飯田敏子 (11名)

訂正とお詫び
左記の通り訂正をします
○10号(編集)
*14ページ中段9行目「バイクケツウ」→「バイクイソウ」
*85ページ一段11・12行目「フチホテルコロシアン」→「フチホテルコロシアン」
*103ページ三段落わりから5行目「スゴノパン」→「スゴノパン」